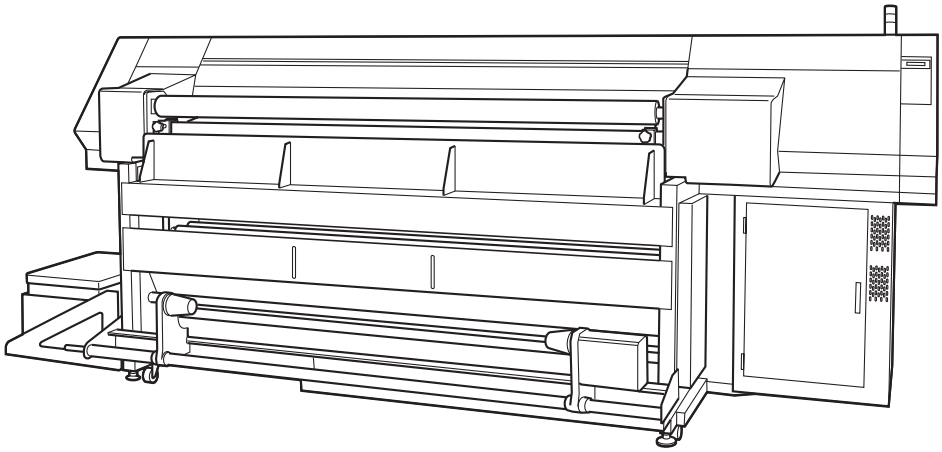
Mimaki®

Textile Jet
Tx3-1600

取扱説明書



株式会社ミマキエンジニアリング

D201025

ご注意

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。
また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
一例として、本製品を使用して布（ワーク）等の損失や布を使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。
本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

- 本書記載の名称は、一般に各社の商標または登録商標です。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。
© 株式会社ミマキエンジニアリング　2005
Copyright©2005 MIMAKI ENGINEERING Co., Ltd.　All Rights Reserved.

電波障害自主規制

VCCI

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスＡ情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

注 意

★ 本装置の接続に於いて、当社指定のケーブルを使用しない場合は、VCCIルールの限度を超えることが考えられます。必ず、当社指定のケーブルを使用してください。

受信障害について

この製品は弱い電波を出すため、正しく設置・使用されていない場合には、ラジオやテレビの受信障害の原因になることがあります。したがって特殊なラジオ／テレビに対しては保証しておりません。
もし、この製品がラジオ／テレビ受信の障害原因と思われましたら、この製品の電源スイッチをオン／オフして確かめてください。
もし障害の原因なら、次の方法を組み合わせて防止してください。

- 受信アンテナやフィーダの方向を変えてみる
- この製品の使用方向を変えてみる
- 受信機とこの製品の距離を離してみる
- この製品と受信機とは別の電源ラインを使用してみる

はじめに

この度は「Textile Jet Tx3-1600」をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

「Tx3-1600」は、布を対象とした高速８色で作図する「テキスタイル用カラーインクジェットプロッタ」です。

本取扱説明書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。

注意

★「Tx3-1600」は、高速ヘッド移動など危険を伴う場合があります。本装置の取り扱いは、怪我や破損を防止するために、必ず本取扱説明書をよくご理解いただいてから操作してください。

取扱説明書について

- 本書は、「Textile Jet Tx3-1600」（以後本装置と称します）の、操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。

本装置のご紹介

本装置の持つ特長をご紹介します。本書で説明する操作方法と併せて作図のご理解にお役立てください。
本装置は、地張り接着方式のベルトベットインクジェットプロッタです。

下記の捺染用インクが使用できます
ミマキ純正のインクは、以下の通りです。
酸性染料インク　：　羊毛、絹などの動物系繊維やナイロンなどに適しています。
反応染料インク　：　綿、レーヨンなどの他に、羊毛、絹などの繊維にも適しています。
分散染料インク　：　ポリエステル、アクリルなどの繊維に適しています。
捺染顔料インク　：　綿にご使用ください。後処理は、熱プレスで定着できます。

注意
★ いずれのインクを使用する場合も、プリントする布には弊社推奨の前処理・後処理を行ってください。
★ 捺染顔料は、湿度40%以上の環境でご使用ください。

自動ノズルチェック機能を搭載しました

作図中でも自動的にプリントヘッドの状態をチェックします。
異常があった場合は、設定に従い、復旧動作、再チェック等を行います。
この機能により無人での作図が可能となりました。

最高 7mm の厚さの布に対応しています

厚みのある布に対応したプリントが可能です。
7.0mm までの厚みの布にプリントできます。

幅広の布に対応しています

最大 1650mm 幅の布がセットでき、最大 1620mm 幅まで作図可能です。

インク IC によるインク残量管理ができます

インクカートリッジの IC チップにより、インクカートリッジの抜き差しを行ってもインク残量の管理ができます。

大容量 2 リッタのインクがセットできます

1 色あたり、1 リッタ x 2 トグルがセットできます。

片側がインクENDになると、自動的にもう一方に切り替えます（トグル方式）ので、インク交換による作図中断が発生しません。

LCDディスプレイ

プロッタの設定メニューを表示する「ディスプレイ」が2行表示になっています。
バックライトも付いて、暗い場所での表示認識が可能です。
英語・スペイン語など7ヶ国語表示が可能です。

作図の情報を確認します

作図中のプリント長をディスプレイに表示したり、作図条件の情報を作図して確認できます。

高速インターフェイスを使用できます

高速インターフェイス「IEEE1394」の使用により、コンピュータからのデータ受信を高速に行えます。

巻き取り装置による長尺作図ができます

本装置と連動した「巻き取り装置」が作図終了した布を巻き取るので、長尺作図が可能です。

布のエッジ押さえが付きました

布の左右端がカールしていたり、毛羽立っている場合、 布押さえを使用して布とヘッドとの接触を回避することができます。

乾燥装置が付きました

作図後巻き取り装置までの間で、布を乾燥させます。

大ロールに対応しました

200m巻き（綿　t=0.25、約38kg）までセット、繰出し、巻き取りができます。

ストレッチ素材への作図ができます

搬送ベルトに加圧ローラで布を貼り付ける方法によって、ストレッチ素材への作図が可能です。テンションバーを使用し、薄いストレッチ素材にも作図できます。

搬送ベルトを洗浄しながら作図ができます

搬送ベルト上に付着したインクやほこりを取り除きながら、作図できます。

送り補正機能に新しい機能が追加されました

作図しながら送り補正をすることができます。

４色作図に対応しました

8ヘッドを4色に割り振り、作図することができます。
8色セット時の4色使用に対して半分の時間で作図できます。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例 1

本書の説明文の中によく使用しているマークです。

★「警告」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

★「注意」マークは、表示の指示を無視して誤った取り扱いをすると、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが描かれています。操作の参考にしてください。

マーク表示の例 2

△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。△中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

絶対に守ってください

⚠ 警告

設置時

★ 本装置は重量が650Kg程あります。設置作業は6人以上で行ってください。

分解・改造はしない

★ 本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対にしないでください。感電や故障の原因になります。

異常事態の発生

★ 万一、煙が出ている、異常な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに電源スイッチをオフにし、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。

電源・電圧について

★ 表示された電源仕様で使用してください。また電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理されたコンセントに差し込んでください。火災・感電の原因になります。

電源ケーブルの取り扱い

★ 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。

★ 本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。また設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

湿気の多い場所では使用しない

★ 湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。

⚠警告

湿気の多い場所では使用しない

★ 湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。

ロールについて

★ ロールは重いので、落とさないよう注意してください。足などの上に落とすと、ケガをする恐れがあります。

インクカートリッジの取り扱い

★ インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。
万一、インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し医師の治療を受けてください。

★ インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。

★ インクカートリッジのインクの詰め替えはしないでください。インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

レーザーセンサー

★ 本装置には、レーザセンサーが取り付けてあります。レーザセンサーは JIS 規格クラス 1 のレーザ製品に相当します。レーザー光をレンズなどの観察光学系を通して見ることは危険ですので、避けてください。目の痛みや視力障害の原因になります。

CAUTION
Laser radiation when open.
DO NOT STARE INTO BEAM.

クラス1レーザ製品
CLASS 1 LASER PRODUCT

使用上のご注意

⚠注意

定期交換部品があります。

★ 本装置には、3000～5000時間で定期的に交換する部品（インク供給、チューブ等）があります。保守契約をしていただくことをお勧めいたします。

ホコリ、紙くず、繊維くずから守る

★ 作図しないときも必ず正面カバーは閉めておいてください。 ホコリがヘッドノズルに付着する原因になります。

★ 夜帰宅する際は、布を掛けっぱなしにしないでください。布の上にホコリが付着してしまいます。

★ 使用する布は袋に入れて保管してください。布に付着したホコリ、紙くず、および繊維くずを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。

★ キャッピングステーションの拭き掃除（ホコリ、紙粉）はこまめに行ってください。また、毛羽だったワイパは、ホコリをこすりつけている事と同じですので、 このようなワイパは即交換してください。

★ 作図中に、突然インクの雫がヘッドから布に落ちるのはホコリ、紙くず、および繊維くずが原因です。この場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。
（⇒P.2-45　クリーニングを実行する）

カバーについて

★ 作図中に正面カバー、ステーションカバーを開けないでください。作図が終了してしまいます。

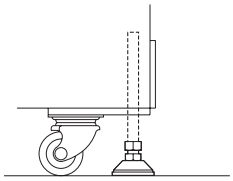
布について

★ 布の前後処理は弊社推奨レシピをお使いください。それ以外の処理で発生したトラブルについては、責任を負いかねます。

★ カールのきつい布は、カールを取り除いてから使用してください。カールがきついと、作図品質に影響を及ぼします。

レベルフットでの固定

★ 必ず、レベルフットを下げた状態でご使用ください。装置が動きだす場合があります。



ヒーターについて

★ ヒーター使用中は手を触れないでください。火傷します。

警告ラベルについて

★ 本装置には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。貼付位置は、付録をご覧ください。

⚠注意

インクカートリッジについて

★ カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、３時間以上室温環境下に放置してから利用してください。

★ カートリッジは、取付直前に開封してください。
開封した状態で長時間放置しておくと、正常に作図できない場合があります。

★ カートリッジは、冷暗所で保存してください。

★ カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。

★ カートリッジは、開封してから６カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。

★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。

★ カートリッジの基板接点部分を、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障原因となります。

地張り剤について

★ 地張り剤を使用する場合、有機溶剤中毒予防規則を遵守してください。また地張り剤の塗り替えを行う場合は、有機溶剤作業主任者技能講習を終了した方、または有機溶剤作業主任者が選任されている下で、作業を行ってください。

設置上のご注意

⚠注意

直射日光が当たる場所

★ 直射日光の当たる場所に、本装置を設置しないでください。布が変色する可能性があります。

温度や湿度の変化が激しい場所

次の環境下でお使いください。
使用環境　　：15～30℃
　　35～65%(Rh)

エアコンなどの風が直接当たる場所

★ エアコンなどの風が直接当たる場所に、本装置を設置しないでください。インクが飛び散る可能性があります。

排水口または排水設備がある場所に設置

★ 水道から直接配管をして搬送ベルトを洗浄する場合は、給水設備が近くにある場所でホースを接続してください。
かならず排水口または排水設備のある場所に本装置を設置してください。

★ 本装置は洗浄水フィルタの目詰まりによって、水漏れを起こす恐れがあります。かならず排水口または排水設備がある場所に本装置を設置してください。

水平でない場所

★ 水平でない場所、安定しない場所に、本装置を設置しないでください。安定した作図が得られません。

振動が発生する場所

★ 振動が発生する場所に、本装置を設置しないでください。安定した作図が得られません。

粉塵・タバコの煙が充満している場所

★ 粉塵、タバコの煙が充満している場所に、本装置を設置しないでください。
ほこりがつきやすく、インク滴の飛行曲がりなどが発生します。

目次

ご注意 i
電波障害自主規制 ii
VCCI ii
受信障害について ii
はじめに iii
取扱説明書について iii
本装置のご紹介 iv
安全にお使いいただくために vi
マーク表示について vi
絶対に守ってください vii
使用上のご注意 ix
設置上のご注意 xi
本書の読み方について xvii
本書の構成 xix

1 章　セットアップ

設置場所について 1-2
本装置の移動 1-3
移動方法 1-3
レベルフット 1-3
付属品の確認 1-4
各部の名称とはたらきについて 1-6
前面 1-6
背面 1-7
背面中側 1-8
本体側面 1-8
ブロワユニットとその周辺 1-9
カバー内部の名称とはたらきについて 1-10
キャッピングステーション 1-10
キャリッジ 1-11
ヘッド高さ調整棒、調整ネジ、ヘッド保護センサーについて 1-11
搬送ベルトと加圧ローラについて 1-12
Y メインガイド 1-12
布押さえについて 1-13
ANR ユニット 1-14
操作について 1-15
操作パネル 1-15
ジョグキーのはたらき 1-16
メニュー・モード 1-16
メニューツリー 1-17
ケーブルを接続する 1-18
インターフェイスケーブルを接続する 1-18
電源ケーブル接続について 1-19
ヒーターについて 1-19

電源をオン／オフする 1-20
電源のオン 1-20
IEEE1394 出力ドライバをインストールする 1-21
電源のオフ 1-21
ディスプレイの日本語表示方法 1-22
本装置の情報を表示する 1-23
インクカートリッジについて 1-25
インクの種類について 1-27
インクカートリッジ及びインクパックの IC チップについて 1-27
インクの取り扱い上のご注意 1-28
インクタイプの表示について 1-28
インクの初期充填をする 1-29
インクカートリッジを装填する 1-31
使用可能な布と取り扱いについて 1-32
使用可能な布 1-32
布取り扱い上の注意 1-33
作図できる布の条件 1-33

2 章　基本機能の使い方

作業の流れ 2-2
電源をオン／オフする 2-3
電源のオン 2-3
正面カバー、ステーションカバーR , L について 2-4
カバーの開閉について 2-4
布をセットする 2-5
ロールをセットする 2-5
リーフ（カット布）のセット 2-21
新しい布をセットする場合（メディアセット） 2-23
繰り出し・巻き取り装置のスイッチを切り替える 2-24
布押さえを使用する 2-25
加圧ローラ位置の調整 2-26
繰り出しテンションバーウェイト調整 2-27
湾曲バーを使ってタルミを取る 2-28
シワ取りローラのコマ入替え調整 2-30
コマ位置を移動する 2-32
導布を使用して、布先端から作図する場合（ロール･リーフ） 2-33
紙管サポートパイプを使用して、ロール布をセットする 2-34
布をセットした後に 2-35
ヘッドの高さを調整する[ﾀｶｻﾁｮｳｾｲ] 2-35
ヘッドの高さ調整をした後に補正をする[ドットイチホセイ] 2-39
使用する布の作図範囲を指定する（有効作図エリア） 2-41
デッドスペースの変更 2-41

作図原点を設定する 2-42
作図原点の設定 2-42
インク吐出状態にカスレや抜けがあるかを確認する 2-43
テスト作図を実行する 2-43
テスト作図パターンの確認をする 2-44
クリーニングを実行する 2-45
作図する布をセットした後に 2-46
布の種類による送り量を補正する[ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ] 2-46
作図中に送り量を補正する[ｵｸﾘﾎｾｲ] 2-48
画像データを作図する 2-50
作図を開始する 2-50
作図を中止する 2-51
作図が終了したら 2-51
その他のセッティングについて 2-52
作図しながらベルト洗浄する 2-52
搬送ベルトからの布の引き剥がしがうまくいかない 2-54
インク残量が少なくなったら 2-55
電源のオフ 2-56

3章　日常のお手入れ

普段のお手入れ 3-2
洗浄水タンク内のクリーニング 3-3
作図中に、布に点々とシミが出てきたら 3-6
廃インクタンクのインクが溜まったら 3-9
ミストファンフィルターのお手入れ 3-10
ステーション内部のクリーニング 3-11
ステーションカバーの開閉について 3-12
ワイパの定期的なお手入れ 3-12
ワイパ軸クリーニングのメッセージを表示したら[ｷｬﾘｯｼﾞｱｳﾄ] 3-15
ワイパ交換のメッセージを表示したら[ﾜｲﾊﾟｺｳｶﾝ] 3-17
ノズルの抜けが復旧できない場合［ﾉｽﾞﾙｾﾝｼﾞｮｳ］ 3-19
キャッピングより下部の廃路洗浄［ﾊｲﾛｾﾝｼﾞｮｳ］ 3-21
長期間使用しなくなる場合［ﾎｶﾝｾﾝｼﾞｮｳ］ 3-22
キャリッジ下面のクリーニング 3-24
フラッシングボックスとブロワフィルターのクリーニング 3-25
Y メインガイドのクリーニング[ﾒｲﾝｶﾞｲﾄﾞ] 3-29
ANRS チェックメディアの交換[ANRﾕﾆｯﾄ] 3-30
搬送ベルトのクリーニング[ﾍﾞﾙﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ] 3-34

4章　応用機能の使い方

応用機能について 4-2
ファンクションメニュー 4-2
作図条件の設定の前に 4-3
メニューモードを確認する 4-3
表示言語を設定する 4-3
複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択） 4-4
タイプの変更 4-4
各作図方式を設定する 4-5
プロッタ側で作図方式を変更する［ｻｸｽﾞﾎｳｼｷ］ 4-5
インクの浸透が悪い場合は[ｶｻﾈﾇﾘ] 4-7
コンピュータと本装置の設定の優先順位を決める[ﾕｳｾﾝｼﾞｭﾝｲ] 4-8
布の左右余白を増減する[ﾏｰｼﾞﾝ] 4-10
ホコリが多い場所や湿度の低い場所で使用する場合は[ﾘﾌﾚｯｼｭ] 4-11
メンテナンス目安時期を設定する[ｶｳﾝﾀｰﾘﾐｯﾄ] 4-12
表示する長さの単位を決める[ﾐﾘ/ｲﾝﾁ] 4-14
作図開始前に自動クリーニングをする[ｵｰﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ] 4-15
繰り出し装置を有効にする[ｸﾘﾀﾞｼ] 4-16
巻き取り装置を利用する[ﾏｷﾄﾘ] 4-17
シワ取りローラを使用してシワ取りをする[ｼﾜﾄﾘ] 4-18
作図中のベルト洗浄動作を有効にする[ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ] 4-19
インクの乾きが遅い場合は（ヒーターの温度調整）[ﾋｰﾀｰ] 4-20
ANR ユニットを使用する[ANRSｾｯﾃｲ] 4-21
ANR ユニットを使用してズレを判定する［ANRSﾊﾝﾃｲ] 4-24
タイプごとに設定をリセットする[ｾｯﾃｲ ﾘｾｯﾄ] 4-27

5章　メンテナンス機能

メンテナンスについて 5-2
ファンクションメニュー[ﾒﾝﾃﾅﾝｽ] 5-2
メンテナンス機能一覧 5-2
メンテナンスの前に 5-3
メニューモードの確認をする 5-3
メンテナンス機能への入り方について 5-3
布の接着力が弱くなったら[ﾍﾞﾙﾄ] 5-4
新しい地張り剤を塗る 5-9
設定状態を作図する[ﾘｽﾄ] 5-14
作図コマンドを HEX コードで作図する[ﾃﾞｰﾀﾀﾞﾝﾌﾟ] 5-15
使用するヘッドを切り替える[ｼﾖｳﾍｯﾄﾞ] 5-16
インク装填後の表示メニューについて[ｲﾝｸｼﾞｭｳﾃﾝ] 5-17
異なる種類のインクに交換する場合[ｲﾝｸｺｳｶﾝ] 5-18
カウンターをリセットする[ｶｳﾝﾀｰﾘｾｯﾄ] 5-22
本装置の情報を表示する[ﾏｼﾝｼﾞｮｳﾎｳ] 5-23

6章　困ったときは

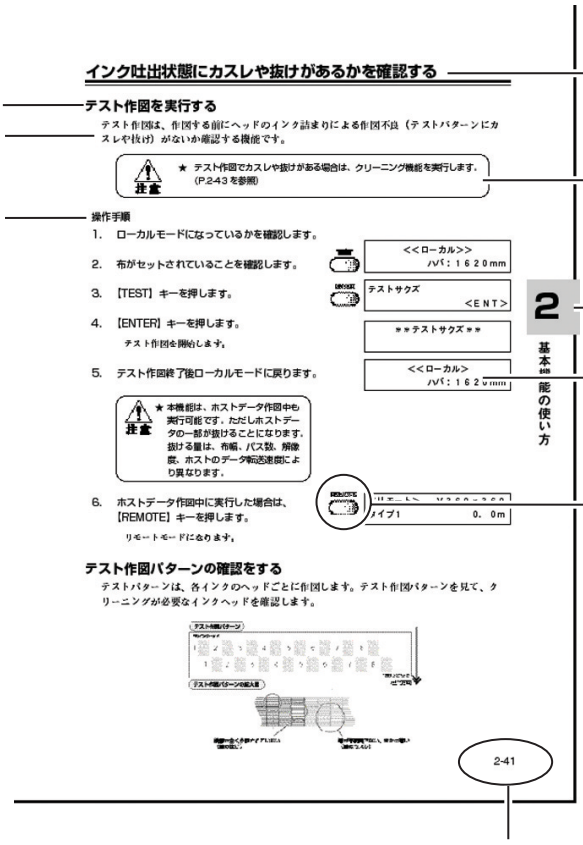
故障？と思う前に 6-2
電源が入らない 6-2
作図できない 6-2
布がスキューする／しわが発生する／汚れる 6-3
作図不良がでたとき 6-4
メッセージを表示するトラブル 6-6
ワーニングエラー 6-6
エラーメッセージ 6-11

付録

基本仕様 ..... 付録 -2
インク仕様 ..... 付録 -4
別売品のご紹介 ..... 付録 -5
警告ラベルについて ..... 付録 -6
機能フローチャート ..... 付録 -7

索引

本書の読み方について



インク吐出状態にカスレや抜けがあるかを確認する

テスト作図を実行する

テスト作図は、作図する前にヘッドのインク詰まりによる作図不良（テストパターンにカスレや抜け）がないか確認する機能です。

注意
★ テスト作図でカスレや抜けがある場合は、クリーニング機能を実行します。（P.243を参照）

操作手順

1. ローカルモードになっているかを確認します。
2. 布がセットされていることを確認します。
3. 【TEST】キーを押します。
4. 【ENTER】キーを押します。
   テスト作図を開始します。
5. テスト作図終了後ローカルモードに戻ります。

注意
★ 本機能は、ホストデータ作図中も実行可能です。ただしホストデータの一部が抜けることになります。抜ける量は、布幅、パス数、解像度、ホストのデータ転送速度により異なります。

6. ホストデータ作図中に実行した場合は、【REMOTE】キーを押します。
   リモートモードになります。

<<ローカル>>
ハバ：1620mm

テストサクズ
<ENT>

＊＊テストサクズ＊＊

<<ローカル>
ハバ：1620mm

メイブ1　0．0m

テスト作図パターンの確認をする

テストパターンは、各インクのヘッドごとに作図します。テスト作図パターンを見て、クリーニングが必要なインクヘッドを確認します。

2

基本機能の使い方

2-41

章の中の「サブタイトル」を付けてあります。

設定メニューの選択項目を操作の前に説明します。

操作の手順を説明します。

章の中の「タイトル」を付けてあります。

本装置や操作に関する注意やヒントを表記します。

章見出しをインデックスで表示します。

操作中にディスプレイに表示する内容です。

操作中に使用する【操作キー】を表示します。

章ごとにページを付けています。

ディスプレイとキーの表記

本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「ディスプレイ」（P.1-15 を参照）に表示する文字や使用する【キー】を説明しています。
使用中に確認しながら、操作を進めてください。

ディスプレイ表記

ディスプレイの表記は、右の図の様に四角い枠の中に、表示する内容を文字表記します。
操作手順の説明文に合わせて、確認しながら操作を進めます。
ディスプレイに表示する設定項目やメッセージを、文章中では[ﾀｲﾌﾟ1]･[Acid]･[ｶｸﾁｮｳ]･[ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ]の様に[カッコ]を使用して説明しています。

```
FUNCTION
セッテイ          ＜ＥＮＴ＞
```

```
セッテイ
センタク          ：タイプ１
```

操作キー

本取扱説明書では、操作キーを文章中で【カッコ】を使用して説明しています。

【▲】【▼】はジョグキーを意味します。
その他の操作キーは、【FUNCTION】の様に操作キーの名称を【カッコ】の中に表記します。
（P.1-15 を参照）

本書の構成

本書は、6つの章に分けて本装置の取り扱いの説明をしています。

はじめに

本装置をご使用になる前に、ご理解していただきたいことや、本書の読み方を説明しています。

はじめに

1章　セットアップ

本装置の各部名称とはたらきについて説明します。

1

2章　基本機能の使い方

電源オンから印刷終了までの、基本操作について説明します。ここでの操作を覚えて、応用機能をご使用ください。

2

3章　日常のお手入れ

日常に行う本装置のクリーニング、ワイパなどの消耗品の交換方法など、ステーション内部のメンテナンスについて説明します。

3

4章　応用機能の使い方

作図条件の設定をするファンクションメニューなど、作図方法の応用機能について説明します。

4

5章　メンテナンス機能

作図不良・作図品質劣化の対処ついて説明します。

5

6章　困ったときは

本装置になんらかの異常が発生した場合のトラブルの解消方法について説明します。

6

付録

本装置の仕様、ファンクションメニュー構造表、出力サンプル、および別売品のご紹介について説明します。

付録

索引

知りたい機能および項目を検索する時にご覧ください。

索引

1章
セットアップ

作図の前に、本装置の必要な各部の名称などについて説明します。

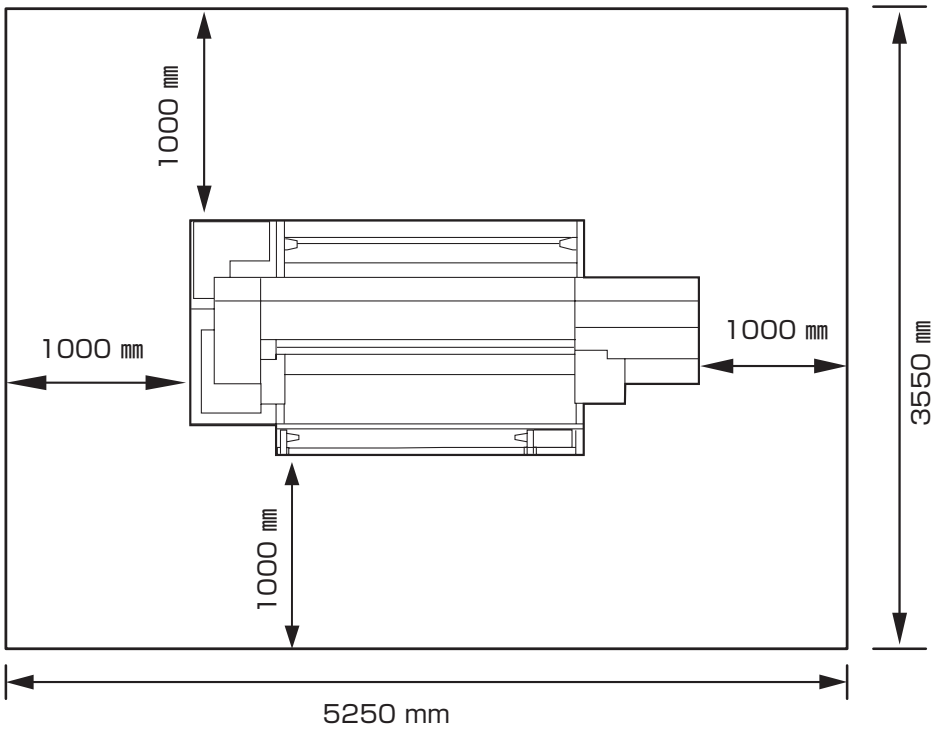
本章の内容

設置場所について *1-2*
本装置の移動 *1-3*
付属品の確認 *1-4*
各部の名称とはたらきについて *1-6*
カバー内部の名称とはたらきについて *1-10*
操作について *1-15*
ケーブルを接続する *1-18*
電源をオン／オフする *1-20*
ディスプレイの日本語表示方法 *1-22*
本装置の情報を表示する *1-23*
インクカートリッジについて *1-25*
インクの初期充填をする *1-29*
インクカートリッジを装填する *1-31*
使用可能な布と取り扱いについて *1-32*
- *使用可能な布* *1-32*
- *布取り扱い上の注意* *1-33*
- *作図できる布の条件* *1-33*

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさと作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

横幅	奥行き	高さ	全体重量
3250 mm	1550 mm	1400 mm	650 Kg 以下



本装置の移動

本装置を組み立て後、設置場所などへの移動方法について説明します。
移動するときは、四隅のレベルフットを上まで上げてください。

警告

★ 電源ケーブル接続について
本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。
電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
また設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

注意

★ 移動する時は、大きな振動を与えないでください。
★ 移動後は、必ずレベルフットを下げ、水平出しをしてください。

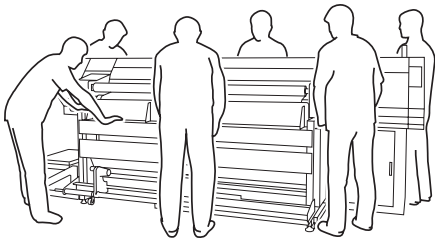
移動方法

本装置を移動するときは、6人以上で図のように運んでください。
カバーを押すと割れる場合があります。

注意

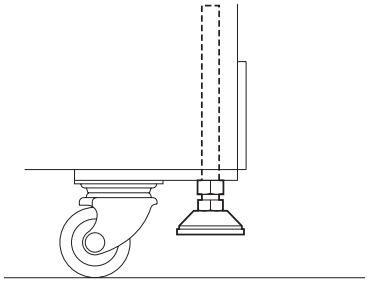
★ 加圧ローラを退避位置まで移動してください。

★ 洗浄液タンク内に水が入っていないことを確認してください。入っている場合は、付属のハンドポンプで水を他の容器に移し替えてください。



レベルフット

装置を移動するときは、レベルフットを上げてください。
本装置を設置するときは、レベルフットを下げて水平出しをします。

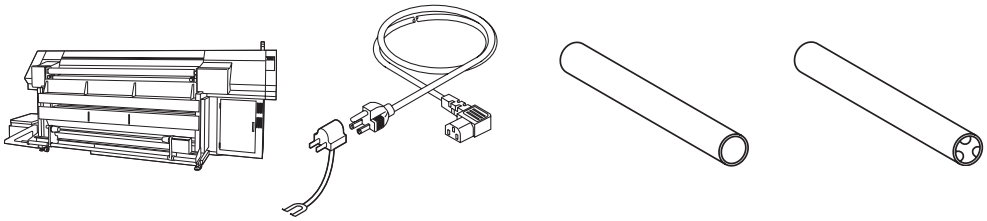


付属品の確認

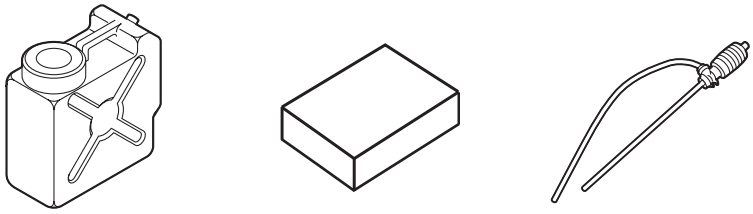
梱包箱を開け、部品を確認してください。
不足しているものがありましたら、お買い求めいただいた販売店または最寄りの販売店、もしくは弊社営業所にお問い合わせください。

注意

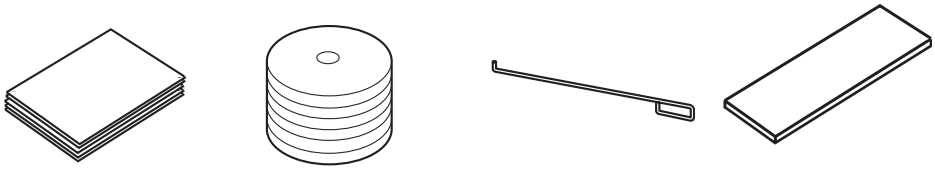
★ インクカートリッジの有り・無し、付属品の種類はご注文の形態により異なります。



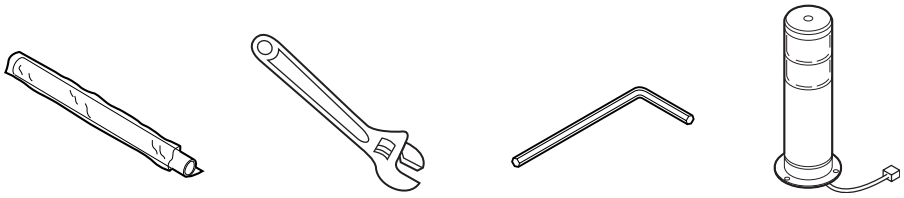
本体　電源ケーブル と 2P-3P 変換アダプタ（各 3ヶ）　空紙管（本体装着）　紙管サポートパイプ（2 本）



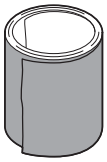
廃インクタンク（洗浄タンク内に梱包）　アジャスターフット 下板　4 枚　ハンドポンプ



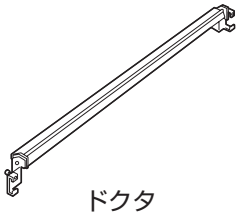
ベンコット　テンションバーウェイト　布セットバー　布セット板



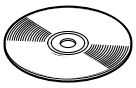
作図フィルム（設置調整用）　モンキーレンチ　L 型六角レンチ（対辺 5,6,10mm）　表示灯


布ヤスリ #150

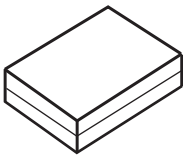
ANRS
チェックメディア

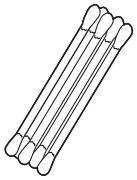

ドクタ

メガネ

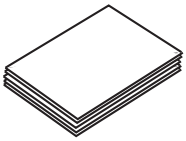

TxLink & 1394
出力ドライバ
（CD-ROM）

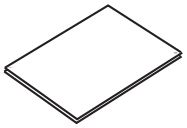
メンテナンスオイル
（Y メインガイド用）

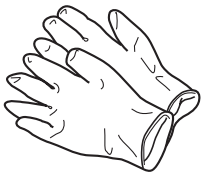

ワイパクリーニングキット
（ワイパ・手袋）

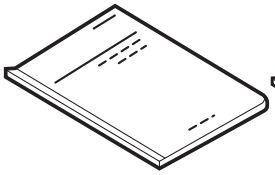

綿棒
（10 本入り）

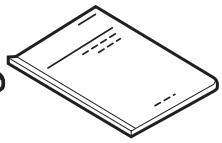
フラッシングボックス用
フィルタ

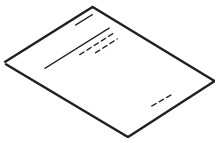

洗浄タンクフィルタ
（20 枚入り）

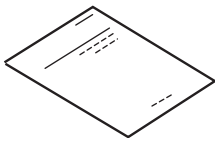

ミストフィルター
（2 枚入り）


ゴム手袋


取扱説明書

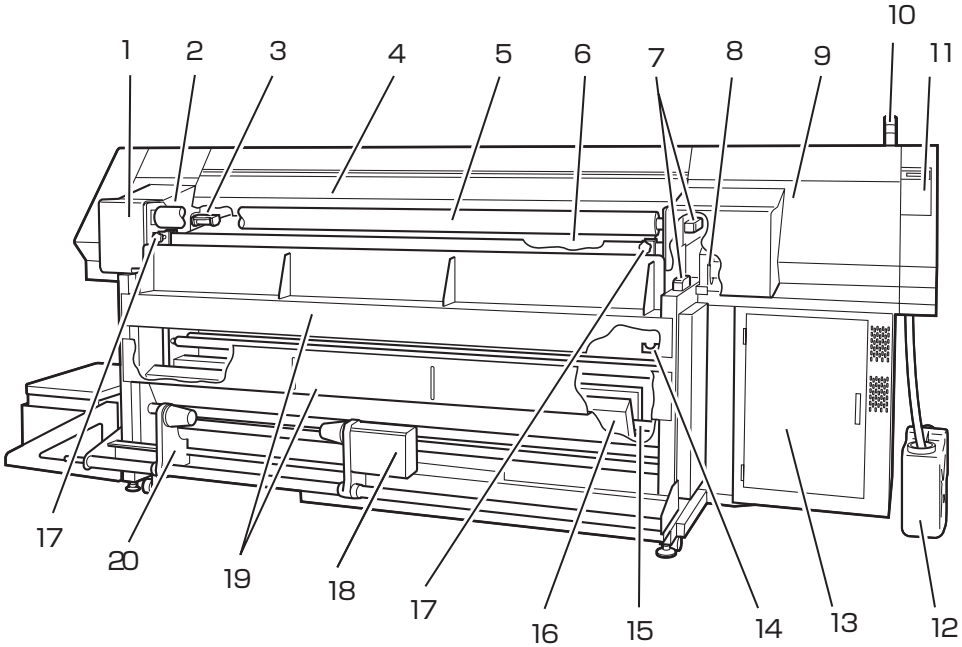

セットアップガイド
（本書）


染料インク
使用ガイダンス


布取り扱い
ガイダンス

各部の名称とはたらきについて

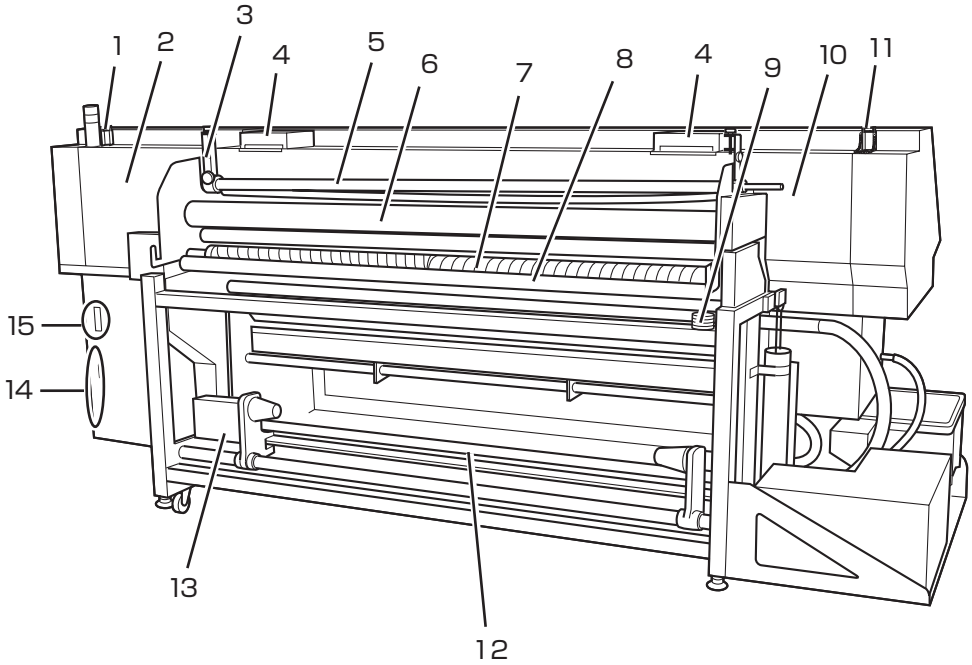
前面



	名称	はたらき
1	ステーションカバーL	キャリッジ下面メンテナンスの時に開けます。
2	引き剥がしセンサー	布の引き剥がし位置を監視します。※レーザーセンサ使用
3	ベルトエンコーダローラ	ベルト移動量をチェックします。
4	正面カバー	布のセット、又はメンテナンス時に開けます。
5	引き剥がしローラ	布を搬送ベルトより剥がします。
6	搬送ベルト	布を搬送します。
7	引き剥がしｾﾝｻｰｱﾝﾌﾟ	引き剥がしセンサーを制御します。
8	ANR ユニット	作図中、自動的にドット抜けや目詰まりを確認します。 （→ P.1-14、3-29、4-24 参照）
9	ステーションカバーR	ステーションメンテナンスの時に開けます。（→ P.1-10 参照）
10	表示灯	緑：データ受信、作図中、赤：エラー（作図停止）、 赤点滅：ワーニングエラーを示します。
11	操作パネル	本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。
12	廃インクタンク	クリーニングなどで使用した廃インクをためるタンクです。
13	インクステーション	インクカートリッジを装填し、各ヘッドに供給します。
14	巻き取りﾃﾝｼｮﾝﾊﾞｰｽﾄｯﾊﾟｰ	布を通す際にテンションバーを掛けておきます。*1
15	巻き取りテンションバー	布に適正なテンションを掛け、巻取装置の動作を制御します。
16	ヒーター	作画後の、乾燥しきれない布を乾燥させます。
17	布端ガイド	布の引き剥がし動作をより確実に行うことができます。→ P.2-14
18	巻き取り装置	作画後の布を自動で巻き取ります。
19	ヒーターカバー	ヒーターの熱を防ぎます。
20	ロールホルダー	1.35 ～ 3 インチの紙管に対応しています。

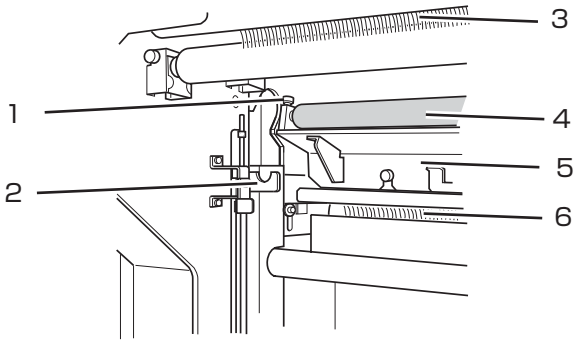
*1：プロッタによっては、装置外側に取り付けられている場合があります。

背面



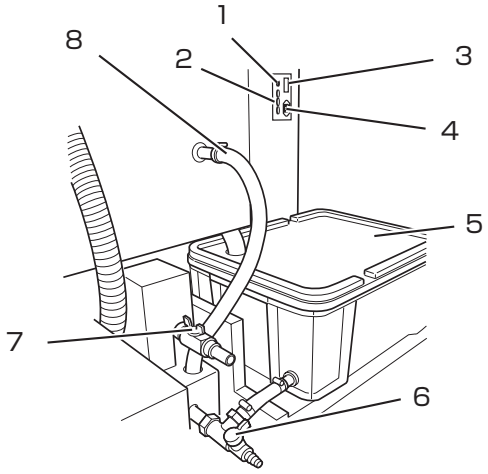
	名称	はたらき
1	ステーションカバーチェーンＲ	ステーション内部メンテナンスをする際に、カバーを保持します。
2	右ステーションカバーＲ	搬送ベルト蛇行確認時に外します。（セットアップ時）
3	湾曲バー角度調整ネジ	両側にあり、湾曲バーの角度を調整します。
4	ミストファンフィルター	インクミストを吸収します。
5	湾曲バー	タルミのある布の搬送を補助します。
6	加圧ローラ	圧力をかけ、搬送ベルトに布を固定させます。
7	シワ取りローラ	布しわを伸ばします。
8	折り返しバー（４本）	布パスに折り返しをつけ、搬送を安定させます。
9	繰り出しﾃﾝｼｮﾝﾊﾞｰｳｪｲﾄ	繰り出しテンションバーの重量調整用です。
10	左ステーションカバーＲ	搬送ベルト蛇行確認時に外します。（セットアップ時）
11	ステーションカバーチェーンＬ	キャリッジ下面のクリーニングをする際に、カバーを保持します。
12	繰り出しテンションバー	布に適正なテンションを掛け、繰出装置の動作を制御します。
13	繰り出し装置	ロール布を自動で繰り出します。
14	インターフェイスコネクタ	IEEE1394 及び 1284 準拠のインターフェイスコネクタです。
15	本体電源スイッチとインレット	本装置の電源をオン / オフします。また本体の電源ケーブルを接続します。

背面中側



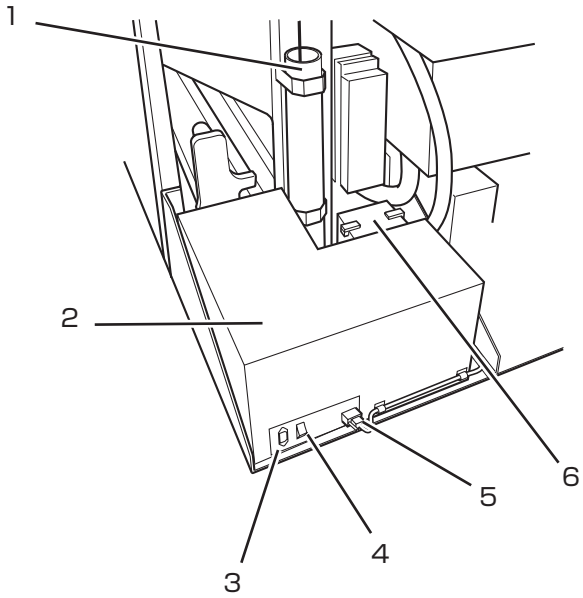
	名称	はたらき
1	吸水ローラー用ツマミネジ	吸水ローラーを固定しているネジです。
2	繰り出しﾃﾝｼｮﾝﾊﾞｰｽﾄｯﾊﾟｰ	布を通す時に使用します。
3	除電ブラシ	布に付いたホコリや糸くず、また静電気を防ぎます。
4	吸水ローラー	ベルト洗浄後のベルトに付いた水を取ります。
5	ベルトワイパーユニット	ベルト洗浄中の水切りをします。
6	ブラシローラ	搬送ベルトの汚れを除去します。 （装置内部にローラーがありますので、外側からは見えません。）

本体側面



	名称	はたらき
1	ヒーター表示灯	ヒーターの動作状態を表示します。 点灯：ヒーター項目で設定した温度になりました。 点滅：設定した温度に達していません。
2	ヒーター電圧セレクタ	ヒーターの電源電圧を設定するスイッチです。
3	ヒーター電源スイッチ	ヒーターの電源をオン / オフします。
4	ヒーター電源インレット	ヒーターの電源ケーブルを接続します。
5	洗浄水タンクユニット	搬送ベルト洗浄用の水を入れるタンクです。
6	洗浄タンク排水バルブ	洗浄液の排水バルブです。
7	電磁弁バルブ	直接配管をする場合のバルブです。
8	洗浄水ホース	洗浄水を本装置へ送るホースです。

ブロワユニットとその周辺

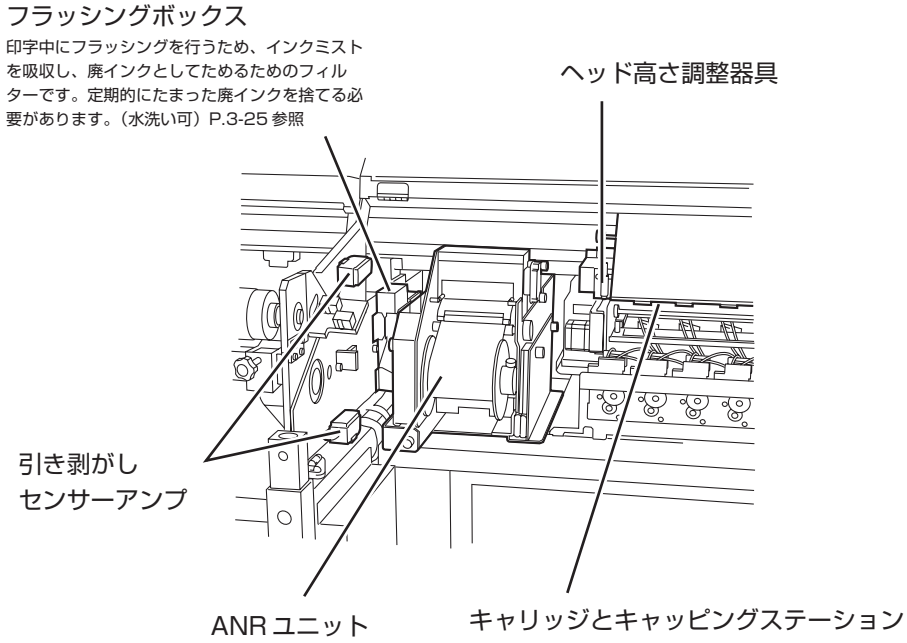


	名称	はたらき
1	繰り出しﾃﾝｼｮﾝﾊﾞｰｳｪｲﾄﾕﾆｯﾄ	重さを変えて、布にかかるテンションを調整します。
2	ブロワユニット	フラッシングボックス内のエアーを吸い込み、インクミストの発生を抑えます。
3	ブロワ電源インレット	ブロワの電源ケーブルを接続します。
4	ブロワ電源スイッチ	ブロワの電源をオン・オフします。
5	ブロワコントロールケーブル*	ブロワと本体を接続するケーブルです。
6	ブロワフィルタ	ブロワ内部へのインク付着や目詰まりを防ぎます。

*：プロッタによっては、ブロワコントロールケーブルが内蔵されているものがあります。

カバー内部の名称とはたらきについて

カバー内部には、作図時に使用するキャリッジやキャッピングステーションなどがあります。カバー内部の機構について説明します。

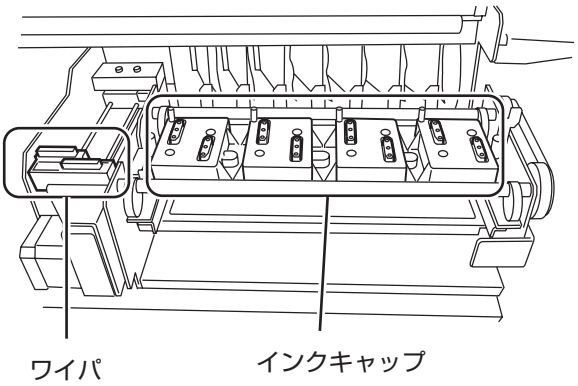


注意

★ 引き剥がしセンサーアンプのボタンスイッチは、サービスマン以外は触らないでください。正常に動作できなくなる恐れがあります。

キャッピングステーション

キャッピングステーションはインクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパなどで構成しています。インクキャップは、プリントヘッドのノズル乾きを防ぎます。
またワイパは、ヘッドのクリーニングに使用します。



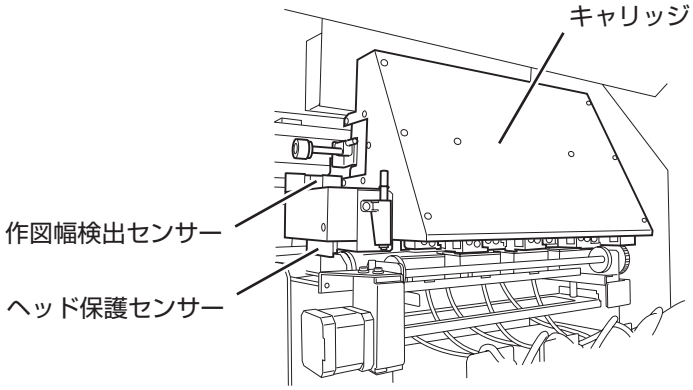
キャリッジ

キャリッジには、作図用のプリントヘッドや、作図幅検出センサー、ヘッド保護センサーなどがあります。また、多様な布厚に合わせてヘッドの高さを調整をするための高さ調整ネジが付いています。キャリッジは作図や布幅検出時に動きます。キャッピングステーション内部のメンテナンス作業をする場合は、ステーションメンテを実行してキャリッジを移動します。(「ステーション内部のクリーニング」P.3-10 ～参照)

注意

★ 布をセットし作図を開始する際は、ヘッド高さ調整を必ず設定してください。(P.2-35 参照)

★ 高さ調整をせずに作図を開始すると、布の破損のみならず本装置まで破損する恐れがあります。



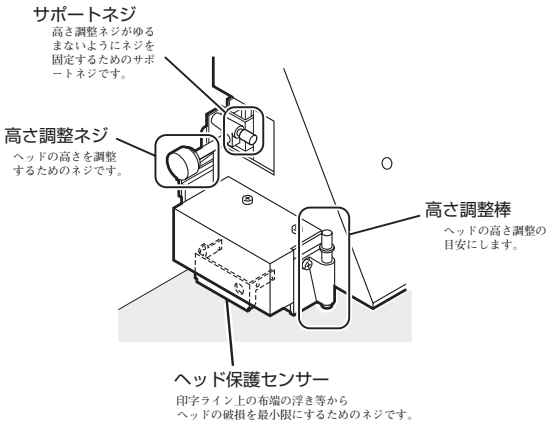
ヘッド高さ調整棒、調整ネジ、ヘッド保護センサーについて

布を新しくセットする際や、厚みの異なる布をセットした場合は、ヘッドの高さを調整します。

注意

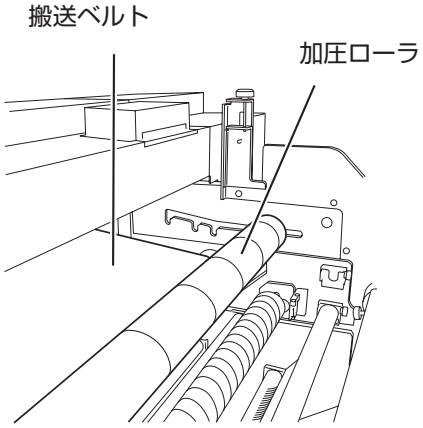
★ 布の再セット後、ヘッドの高さ調整をせずに動作させると、ヘッドが布にぶつかり破損する恐れがあります。

★ ヘッドの高さ調整については、P.2-35 を参照ください。



搬送ベルトと加圧ローラについて

本装置では地張り剤を塗布したベルトに加圧ローラで布を地張りし、作図時に布を前側に送り出します。



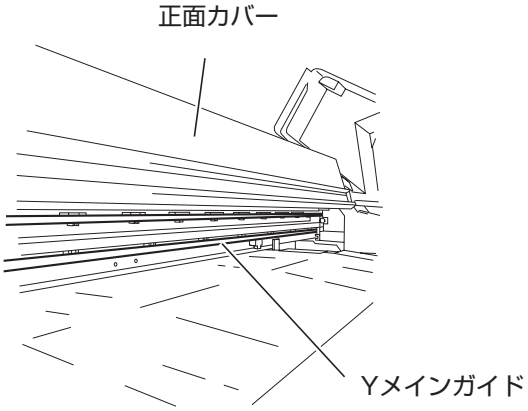
注 意

★ 本装置を使わない時は、加圧ローラを搬送ベルト上から退避した状態にしてください。

★ 加圧ローラをベルト上に放置すると、ローラとベルトがくっついてしまい、外しにくくなってしまいます。

Y メインガイド

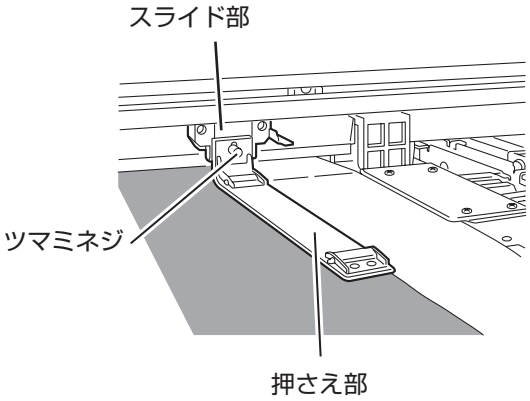
キャリッジを左右に移動させるバーです。頻繁にキャリッジが通過するため、定期的なクリーニングが必要になります。（P.3-28 参照）



布押さえについて

布の左右端がカールしていたり、毛羽立っているとキャリッジがスキャンする際にヘッドと接触し、布が引っかかったまま押されて一箇所で詰まるジャムやインクの吐出不良が発生します。このようなトラブルを回避するために、布押さえを使用します。
（P .2-25 参照）

- 布押さえスライド部分は作図幅を検出するための検出板も兼ねています。布押さえを布端から離した位置にセットすると、布のフル幅作図も可能です。（1620mm 以内の幅）
- インクが付着し、汚れた場合は外して洗浄できます。ツマミネジを取り、外してください。

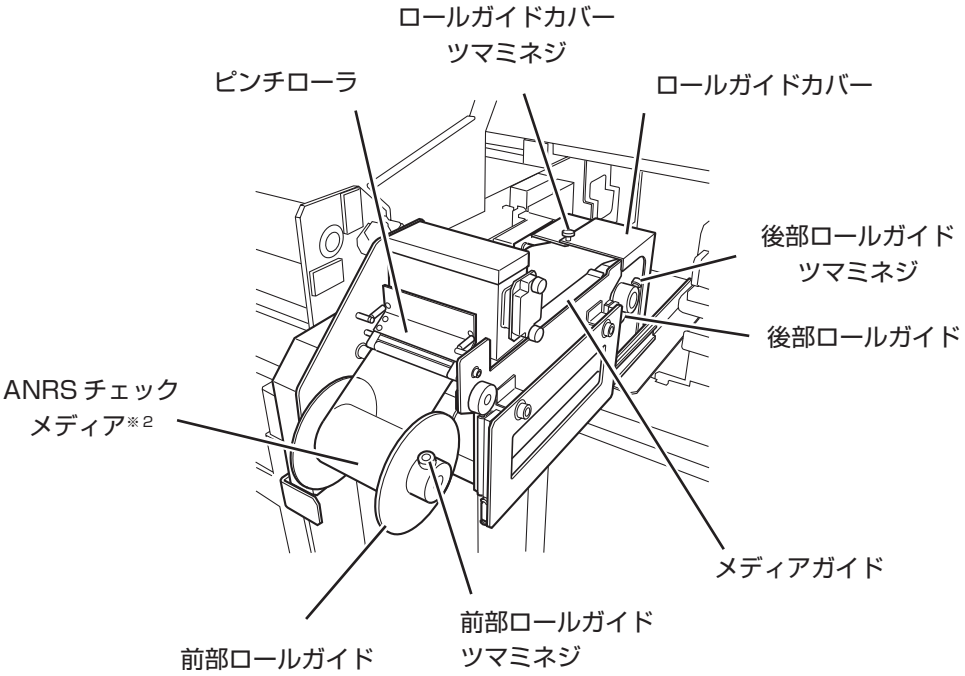


注意

★ 布押さえを使用する場合は、ヘッド高さを必ず 3mm 以上に調整してからご使用ください。ヘッドの高さが低い状態で使用すると、破損の原因になります。

ANR ユニット

ANR ユニット※1 は、作図中に自動的にドットの抜けや、目詰まりを確認し、不良作図を防ぎます。



※ 1：ANR ユニット ..... オートマティック・ノズル・リカバリー・ユニット。本書では以下 ANR ユニット。

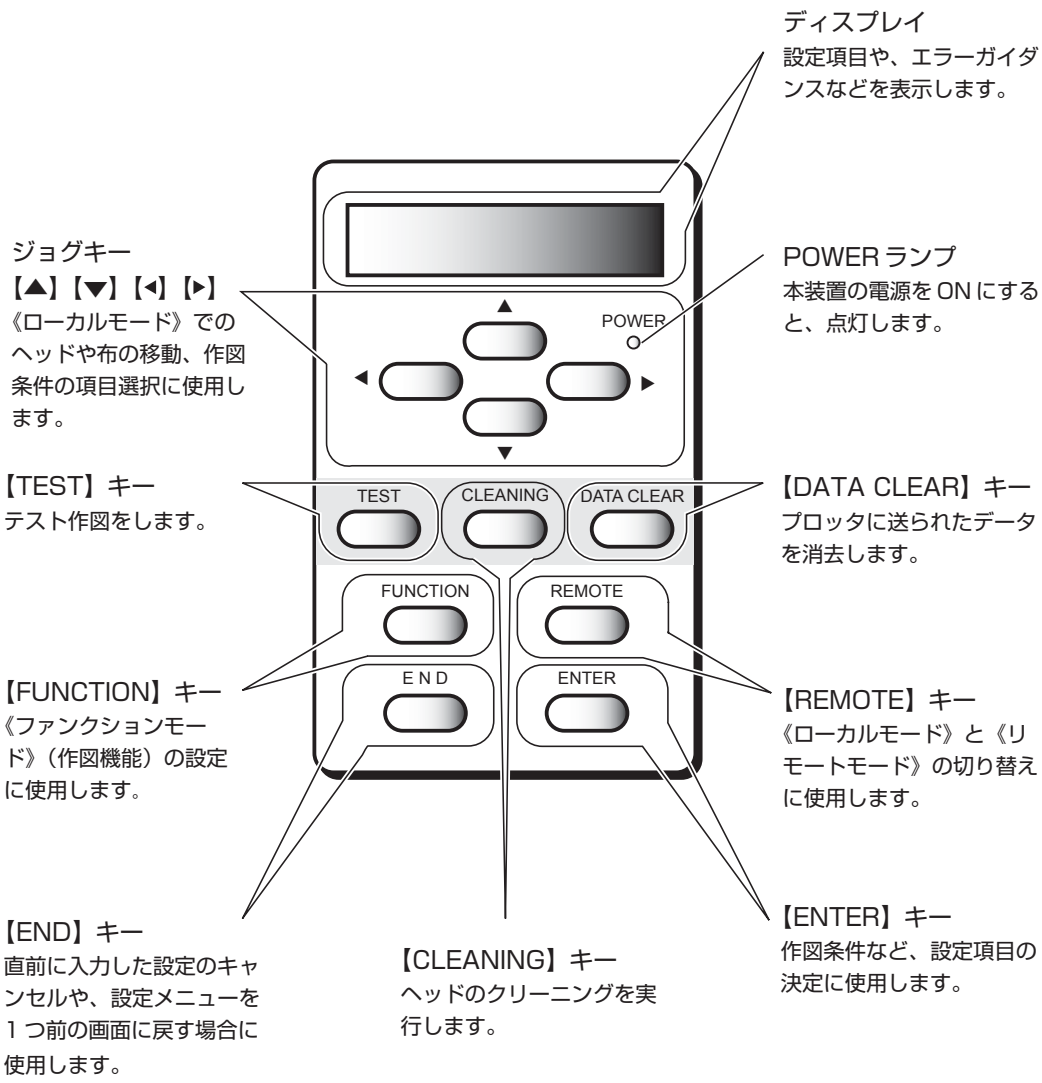
※ 2：ANRS チェックメディア ..... オートマティック・ノズル・リカバリー・システムチェックメディア。ANR ユニットに使用するチェックメディア。本書では以下 ANRS チェックメディア。

操作について

本装置の操作に使用する「操作パネル」や設定する項目のメニューについて説明します。

操作パネル

操作パネルは、作図方法や作図後のメンテナンス方法などを設定します。
本装置を操作する場合は、必ず操作パネルを使用します。
操作パネルの使い方を覚えましょう。



ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。
ジョグキーのはたらきについて説明します。

	布検出前	布検出後	機能選択時	設定の選択時
◀	――――	キャリッジを左へ移動します。	――――	――――
▶	――――	キャリッジを右へ移動します。	――――	――――
▲	布を奥へ移動します。	布を奥へ移動します。	1つ前の機能に戻ります。	次の値を選択します。
▼	布を手前に移動します。	布を手前に移動します。	次の機能に移ります。	1つ前の値を選択します。

注意

★ バックフィード（布を奥に移動する）は、実行時には注意が必要です。
繰り出し側で搬送ベルトが布を巻き込んでしまいます。バックフィードを行う場合は、上記事項を意識しながらバックフィードを実行してください。

メニュー・モード

ディスプレイに表示する設定項目のことを、メニューと呼びます。
操作パネルで設定する操作は、下記の3つのモードでディスプレイに表示します。
各メニューモードについて説明します。

《ローカルモード》

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。
電源スイッチをONにして、布幅検出を終了するとローカルモードになります。
（P.2-3を参照）ローカルモードでは以下の操作が可能です。

1. ジョグキーを押して布幅検出や原点の設定をします。（ジョグモード）
2. 【TEST】キーを押して「テスト作図」をします。
3. 【CLEANING】キーを押して「ヘッドクリーニング」をします。
4. 【DATA CLEAR】キーを押して、受信した作図データを消去します。
5. 【FUNCTION】キーを押して、作図条件の各設定をします。
6. 【ENTER】キーを押して、ガイダンスを表示します。（P.1-23参照）

注意

★ ローカルモードのままでは、コンピュータから受信したデータの作図はできません。【REMOTE】キーを押して、リモートモードに変更してから作図します。

《リモートモード》

プロッタを動作させ、コンピュータから受信したデータを作図するモードです。
ローカルモード時は、【REMOTE】キーを押してリモートモードにします。

《ファンクションモード》

ファンクションモードとは、作図方法に関する機能の設定をするモードです。
ローカルモード時に【FUNCTION】キーを押してファンクションモード（作図機能設定モード）にしてから、作図条件の設定をします。

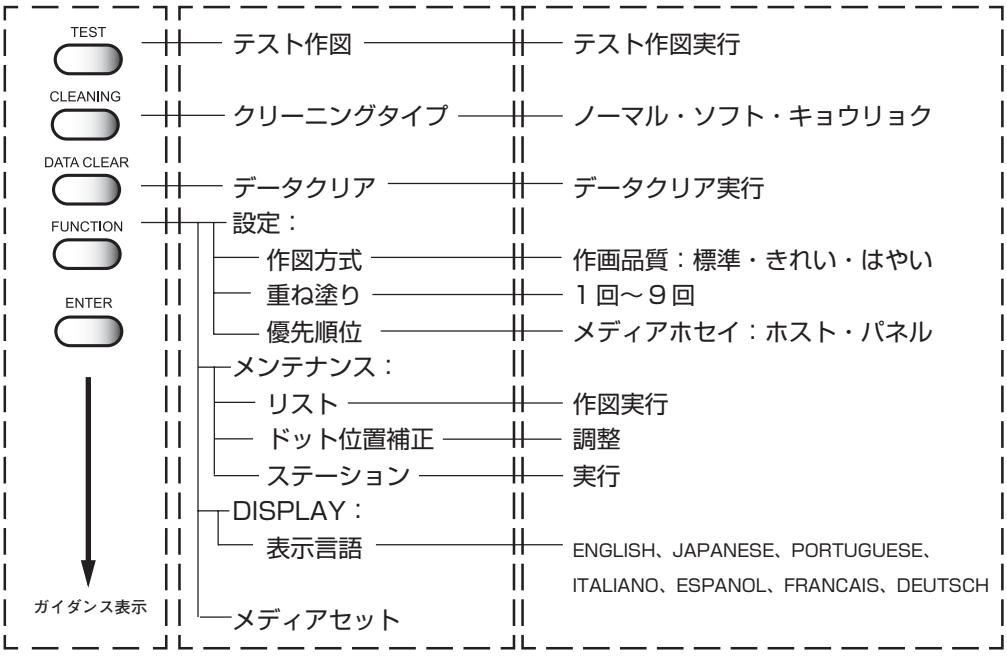
メニューツリー

プロッタの操作と作図条件の設定は、実行する[操作キー]を押した後に[設定項目]を選択して[詳細設定]をする構造になっています。メニューツリーの多枝がどのように広がっていくかを理解して、操作を覚えましょう。（P. 付録 -7 参照）操作パネルの【操作キー】と設定の関係を、下記のメニューツリーを見ながら理解しましょう。

> **注意**
> ★ 操作を実行するためには、本装置のモードが《ローカルモード》になっている事が必要です。

1. POWER ON　電源をオンにします。（P.1-20 参照）
2. << ローカル >>　ディスプレイにローカルモードを表示します。
3. 操作パネルを使用した機能設定は、下記の手順で設定します。
   1. 操作パネルから操作キーを選択して押します。
   2. 設定項目を選択します。
   3. 詳細設定をします。

> **注意**
> ★ 下記メニューツリーは一部項目のみ記載してあります。詳細については P. 付録 -7 を参照してください。



表示言語の設定を変更する場合

本装置をご使用の際に、ディスプレイ表示の言語を変更することが可能です。
変更する場合は、「第 4 章　応用機能の使い方」（P.4-2）をお読みください。

ケーブルを接続する

インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置をインターフェイスケーブルで接続します。
本装置は、2種類のインターフェイスケーブルが使用可能です。ご使用のコンピュータや、出力ソフトに合わせて使用するケーブルと接続を選択してください。

注意

★ インターフェイスケーブルを接続するときは、本装置の電源スイッチをオフにしてください。

IEEE1394インターフェイスをご使用の場合は

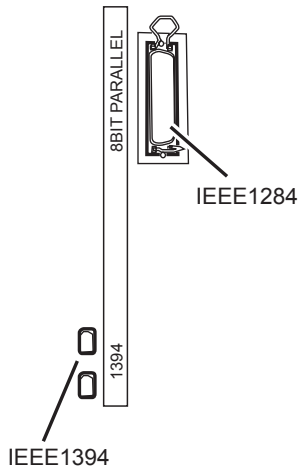
ご使用のコンピュータがIEEE1394のインターフェイスを搭載している場合は、コンピュータと本装置をIEEE1394のインターフェイスケーブルで接続します。

注意

★ ご使用のRIPがIEEE1394インターフェースに対応している必要があります。
★ IEEE1394の2つあるコネクタは、どちらでもご使用できます。
★ IEEE1394のボードがコンピュータに付いていない場合は、お近くのRIPメーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。

IEEE1284準拠インターフェイスをご使用の場合は

コンピュータと本装置をIEEE1284の準拠インターフェイスケーブルで接続します。
IEEE1284で接続する場合、IEEE1394を使用したデータ送信より遅くなります。



電源ケーブル接続について

警告

★ 電源ケーブル接続について
本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。
電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
また設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

ヒーターについて

注意

★ ヒーター部の電圧セレクタを 110V の設定で本装置を 200 ～ 240V の電源に接続した場合、本装置が破損する原因になります。
★ ヒーター部の電圧セレクタを 220V の設定で本装置を 100 ～ 120V の電源に接続した場合、ヒーターの温度が設定した温度まで上がりません。

電源をオン／オフする

本装置のセットアップが終了したら、以下の手順に従って電源のオン／オフを行ってください。

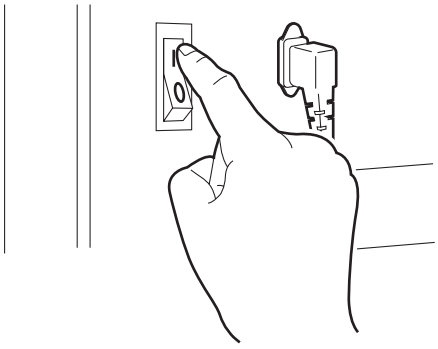
電源のオン

1. ブロワの電源をオンにします。

2. ヒータの電源をオンにします。

3. 本装置の電源をオンにします。

4. 接続してあるコンピュータなどの電源をオンにします。



> **注意**
>
> ★ このとき、正面カバー、ステーションカバーL、Rは閉じておいてください。開けておくと電源を入れてもキャリッジが動きません。
>
> ★ ヒーターの表示灯は動作状態を表示しますので、電源をオンにしても点灯しない場合があります。
>
> ★ 出荷時のディスプレイ表示言語は英語になっています。ディスプレイを日本語表示に変えるには、「ディスプレイの日本語表示方法」をご覧ください。（P.1-22 参照）

電源をオンにすると、ディスプレイにファームウェアのバージョンを表示した後、初期動作を実行します。その後、ローカルモードになります。

電源をオンにすると、[BOOT]を表示し、続けて機種名およびファームウェアのバージョンを表示します。

```
BOOT
```

```
Tx3-1600      V1.00
```

[Please Wait]の表示を点滅します。初期動作の進行状況を表示します。

```
   Please Wait
********————————
```

布幅検出画面になります。

```
    MEDIA SET
ROLL<        >LEAF
```

注意

★ 初めて電源をオンにした場合は、インク充填用の表示をします。インクを初期装填してください。（P.1-29 をお読みください。）

```
Ink Type
Type          :Acid
```

注意

★ 布をセットしてある場合は、布選択の表示をします。

[ロール]を選択後、布幅検出をしてローカルモードに戻ります。

```
MEDIA SET
ROLL<        >LEAF
```

```
<<LOCAL>>
width:1620mm
```

IEEE1394 出力ドライバをインストールする

本装置を、ホストコンピューターと IEEE1394 インターフェイスを使用して接続する場合は、ホストコンピューターに IEEE1394 出力ドライバ、および『TxLink V3』をインストールする必要があります。

注意

★ TxLink インストールの手順は、本装置添付の『TxLink V3』CD-ROM の内容に従ってください。

電源のオフ

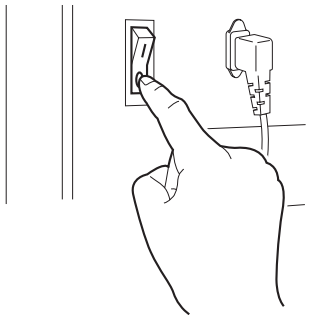
電源をオフにするときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認してください。
また、ヘッドがキャッピングステーションにあることを確認してください。

注意

★ キャッピングしていないまま電源をオフした場合は、再度電源をオンにしてください。ヘッドがキャッピングステーションに戻り、ヘッドの乾燥を防ぎます。

作図中に電源をオフすると、ヘッドがキャッピングステーションに格納されない場合があります。キャッピングしていない状態で長時間放置するとノズル詰まりの原因になります。

1. **接続してあるコンピュータなどの電源をオフにします。**
2. **本装置の電源をオフにします。**
3. **ヒーターの電源をオフにします。**
4. **ブロワの電源をオフにします。**



ディスプレイの日本語表示方法

出荷時のディスプレイ表示言語は英語になっています。
各種キー操作の前に、必要に応じて次の手順で日本語に切り替えてご使用ください。

1. 【FUNCTION】キーを押します。

```
    MEDIA  SET
ROLL<        >LEAF
```

```
FUNCTION
SETUP        <ENT>
```

2. ジョグキー【▼】を２回押します。

２回

```
FUNCTION
DISPLAY      <ENT>
```

3. 【ENTER】キーを押します。

```
DISPLAY
ENGLISH      <ent>
```

表示言語選択メニューを表示します。

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[JAPANESE]を選択します。

```
DISPLAY
JAPANESE     <ent>
```

選択可能な言語は、７種類あります。

[ENGLISH], [JAPANESE],
[PORTUGUESE], [ITALIANO],
[ESPANOL], [FRANCAIS], [DEUTSCH]

5. 表示する言語を選んで【ENTER】キーを押します。

6. 日本語表示になります。

```
    メディア　セット
ロール<          >リーフ
```

本装置の情報を表示する

本装置の情報を表示します。以下はローカルモード中に情報を表示する方法を説明します。

- リモートモード、または布幅検出画面でも【ENTER】キーを押して、同様に情報を表示できます。
- リモートモード実行時のみ、60 秒経過または ERROR 発生した場合は、自動的にリモートモードに戻ります。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０ｍｍ
```

2. 【ENTER】キーを押すと、インク残量を表示します。

ENTER

```
インク　ザンリョウ
３２３１７９８７４５９９０２５３
```

3. 【ENTER】キーを押すと、布の残量を表示します。

ENTER

```
メディア
ザンリョウ　　：１００．００ｍ
```

4. 【ENTER】キーを押すと、布幅を表示します。

ENTER

```
メディア
ハバ　　：１６２０ｍｍ
```

5. 【ENTER】キーを押すと、ANRS チェックメディアの残量に対し、チェック可能な布の長さを表示します。

ENTER

```
ＡＮＲＳ　チェック　メディア
チェックカノウ　　：１０００ｍ
```

6. 【ENTER】キーを押すと、ヘッド高さを表示します。

ENTER

```
ヘッド　タカサ
１．３ｍｍ
```

7. 【ENTER】キーを押すと、初期充填時に充填したインクの種類と色数を表示します。

ENTER

```
インク　タイプ　　：Ａｃｉｄ
インク　カラー　　：８
```

8. 【ENTER】キーを押すと、バージョン、コマンド、ANR ユニットのバージョンを表示します。

ENTER

```
Ｖｅｒ１．００　ＭＲＬ－ＩＦ
Ｖｅｒ１．００　ＡＮＲＳ
```

9. 【ENTER】キーを押すと、設定状態のガイダンスを表示します。

［▼］を押すと現在使用中の設定内容を表示します。

セッテイ＜タイプ１＞
ヒョウジ［▼］キー

10. 【ENTER】キーを押すと、エラー情報ガイダンスを表示します。

［▼］を押すと現在発生中のワーニングを表示します。

エラージョウホウ
エラーヒョウジ［▼］キー

11. 【ENTER】キーを押すと、ログガイダンスを表示します。

［▼］を押すと、地張り剤、ベルトワイパ、吸水ローラーのカウンターログを表示します。

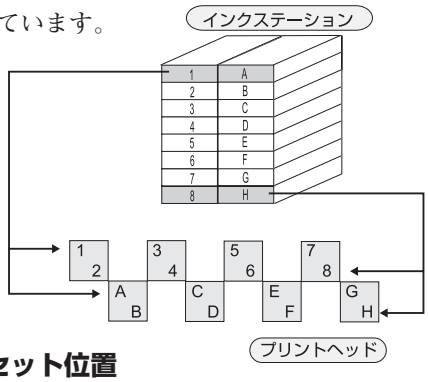
カウンターログ
ログヒョウジ［▼］キー

12. 【END】キーを押すと、ローカルモードに戻ります。

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０mm

インクカートリッジについて

本装置は、1リットルのインクカートリッジを2トグル切り替えし（片側のインクカートリッジが終わると自動的に切り替わる）、1色2リットルまでの連続プリントが可能です。（220cc カートリッジも使用できます。）
また、本装置は、8色作図と4色作図に対応しています。



8色セットでの220cc カートリッジのセット位置

インクカートリッジを下記の一覧表を参照してセットしてください。

対応番号	対応番号	酸性染料		反応染料		分散染料	
1	A	グレー	(SPC-0355GR)	グレー	(SPC-0357GR)	グレー	(SPC-0356GR)
2	B	ブラック	(SPC-0355K)	ブラック	(SPC-0357K)	ブラック	(SPC-0356K)
3	C	シアン	(SPC-0355C)	シアン	(SPC-0357C)	シアン	(SPC-0356C)
4	D	ライトシアン	(SPC-0355LC)	ライトシアン	(SPC-0357LC)	ライトシアン	(SPC-0356LC)
5	E	マゼンタ	(SPC-0355M)	マゼンタ	(SPC-0357M)	マゼンタ	(SPC-0356M)
6	F	ライトマゼンタ	(SPC-0355LM)	ライトマゼンタ	(SPC-0357LM)	ライトマゼンタ	(SPC-0356LM)
7	G	イエロー	(SPC-0355Y)	イエロー	(SPC-0357Y)	イエロー	(SPC-0356Y)
8	H	ブルー またはレッド	(SPC-0355BL) (SPC-0355R)	ブルー またはオレンジ またはレッド またはゴールデンイエロー	(SPC-0355BL) (SPC-0355OR) (SPC-0355R) (SPC-0355GY)	ブルー ライトブルー	(SPC-0356BL) (SPC-0356LBL)

8色セットでの1000cc カートリッジのセット位置

インクカートリッジを下記の一覧表を参照してセットしてください。

対応番号	対応番号	酸性染料		反応染料	
1	A	グレー	(SPC-0392GR)	グレー	(SPC-0393GR)
2	B	ブラック	(SPC-0392K)	ブラック	(SPC-0393K)
3	C	シアン	(SPC-0392C)	シアン	(SPC-0393C)
4	D	ライトシアン	(SPC-0392LC)	ライトシアン	(SPC-0393LC)
5	E	マゼンタ	(SPC-0392M)	マゼンタ	(SPC-0393M)
6	F	ライトマゼンタ	(SPC-0392LM)	ライトマゼンタ	(SPC-0393LM)
7	G	イエロー	(SPC-0392Y)	イエロー	(SPC-0393Y)
8	H	ブルー またはレッド	(SPC-0392BL) (SPC-0392R)	ブルー またはオレンジ またはレッド またはゴールデンイエロー	(SPC-0393BL) (SPC-0393OR) (SPC-0393R) (SPC-0393GY)

4色セットでの220ccカートリッジのセット位置

インクカートリッジを下記の一覧表を参照してセットしてください。

対応番号	対応番号	酸性染料		反応染料	
1/2	A/B	ブラック	(SPC-0355K)	ブラック	(SPC-0357K)
3/4	C/D	シアン	(SPC-0355C)	シアン	(SPC-0357C)
5/6	E/F	マゼンタ	(SPC-0355M)	マゼンタ	(SPC-0357M)
7/8	G/H	イエロー	(SPC-0355Y)	イエロー	(SPC-0357Y)
対応番号	対応番号	分散染料		捺染顔料	
1/2	A/B	ブラック	(SPC-0356K)	ブラック	(SPC-0350K)
3/4	C/D	シアン	(SPC-0356C)	シアン	(SPC-0350C)
5/6	E/F	マゼンタ	(SPC-0356M)	マゼンタ	(SPC-0350M)
7/8	G/H	イエロー	(SPC-0356Y)	イエロー	(SPC-0350Y)

4色セットでの1000ccカートリッジのセット位置

インクカートリッジを下記の一覧表を参照してセットしてください。

対応番号	対応番号	酸性染料		反応染料	
1/2	A/B	ブラック	(SPC-0392K)	ブラック	(SPC-0393K)
3/4	C/D	シアン	(SPC-0392C)	シアン	(SPC-0393C)
5/6	E/F	マゼンタ	(SPC-0392M)	マゼンタ	(SPC-0393M)
7/8	G/H	イエロー	(SPC-0392Y)	イエロー	(SPC-0393Y)

インクの種類について

本装置では以下の 4 種類のインクが使用可能です。
インクの各種類の特長を説明します。

注 意

★ インクカートリッジは、ミマキ純正品をご使用ください。
ミマキ純正のインク以外を使用して発生したトラブルについては、保証期間内であっても有償修理となります。

インク	使用可能なインク色	適合布
酸性染料インク [Acid]	ﾌﾞﾗｯｸ・ｼｱﾝ・ﾏｾﾞﾝﾀ ｲｴﾛｰ・ﾗｲﾄｼｱﾝ・ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ ｸﾞﾚｰ・ﾌﾞﾙｰ・ﾚｯﾄﾞ	羊毛、絹などの動物系繊維 ナイロンなど
反応染料インク [Reac]	ﾌﾞﾗｯｸ・ｼｱﾝ・ﾏｾﾞﾝﾀ ｲｴﾛｰ・ﾗｲﾄｼｱﾝ・ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ ｸﾞﾚｰ・ﾌﾞﾙｰ・ｵﾚﾝｼﾞ・ﾚｯﾄﾞ ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｲｴﾛｰ	羊毛、絹などの動物系繊維 綿、レーヨンなど
分散染料インク [Disp]	ﾌﾞﾗｯｸ・ｼｱﾝ・ﾏｾﾞﾝﾀ ｲｴﾛｰ・ﾗｲﾄｼｱﾝ・ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ ｸﾞﾚｰ・ﾌﾞﾙｰ・ﾗｲﾄﾌﾞﾙｰ	ポリエステル・ポリウレタン・ ナイロン・アセテート・ビニロン・ アクリルなど合成繊維
捺染顔料インク [Tpig]	ﾌﾞﾗｯｸ・ｼｱﾝ・ﾏｾﾞﾝﾀ ｲｴﾛｰ	綿

インクカートリッジ及びインクパックの IC チップについて

本装置用のインクカートリッジ及びインクパックには、IC チップが付いています。
IC チップの付いていないインクカートリッジ及びインクパックは使用できません。
IC チップは、本装置にインク残量の情報を提供します。（→ P.2-55 参照）

注 意

★ IC チップの付いていないインクカートリッジ及びインクパックは使用できません。
★ インクカートリッジ及びインクパックの基板接点部分を、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障の原因となります。
★ 捺染顔料（TPig）インクは、乾きやすく、ノズル面、ワイパキャップ部で乾燥すると、ノズル抜け、曲がりを誘発する原因となります。これを防止するために、湿度 40% 以上の環境でご使用ください。

インクの取り扱い上のご注意

注意

★ インクカートリッジ及びインクパックは、ミマキエンジニアリング純正のインクカートリッジをご使用ください。

★ インクカートリッジ及びインクパックは分解しないでください。

★ インクには毒性はありませんが、インクに直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまったときは、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。

★ インクカートリッジ及びインクパックを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。

★ インクカートリッジ及びインクパックのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

★ 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。

★ インクカートリッジ及びインクパックを寒い所から暖かい所に移した場合は、３時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。

★ インクカートリッジは開封してから６カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。

★ インクカートリッジ及びインクパックは冷暗所で保存してください。

★ インクカートリッジ及びインクパックは、子供の手の届かない場所に保管してください。

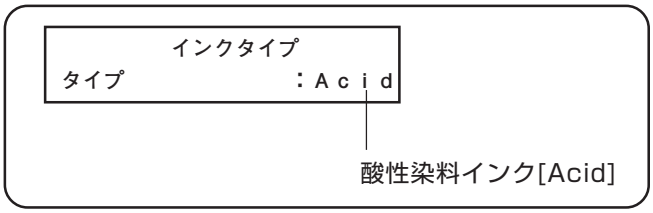
★ 空になったインクカートリッジ及びインクパックは、使用している地域の条例に従って処分してください。

★ インクカートリッジ及びインクパックに記載してある有効期限を過ぎた場合は、使用しないでください。

★ インクカートリッジ及びインクパックの基板接点部分を、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障原因となります。

インクタイプの表示について

インクタイプは、インクを新しく装填する場合やタイプの異なるインクを装填する場合に表示します。



インクの初期充填をする

本装置を初めて使用する場合、本装置にインクカートリッジまたはインクパックを取り付けてインクを充填する必要が有ります。
本装置には、1リットルインクパック（SPC-0392,0393）及び220ccインクカートリッジ（SPC-0350, 0355,3656, 0357）がセット可能になっています。

> 注意
> ★ 220ccインクカートリッジを使用する場合、添付の220cc用カートリッジアダプタが必要です。

操作手順

1. **電源をオンにします。**

   初期動作後、各インクステーションに装填するインクタイプを表示します。

2. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、充填するインクの種類を選択します。**

   [Acid]　酸性染料インク
   [Reac]　反応染料インク
   [Disp]　分散染料インク
   [TPig]　捺染顔料インク

```
        インクタイプ
タイプ          ：Acid
```

3. **【ENTER】キーを押します。**

```
        インクタイプ
タイプ          ：Reac
```

4. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、インクの色数を選択します。**

   [8カラー]　8色
   [4カラー]　4色

```
インクカラー        [Reac]
センタク            ：8カラー
```

> 注意
> ★ [TPig]選択時は4カラーのみとなります。

5. **【ENTER】キーを押します。**

```
インクカラー        [Reac]
センタク            ：8カラー
```

> 注意
> ★ インクを充填する場合は、インクが十分に入っているインクカートリッジをセットしてください。

インクカートリッジがセットされていない場合は、セットされていないカートリッジ番号を表示します。

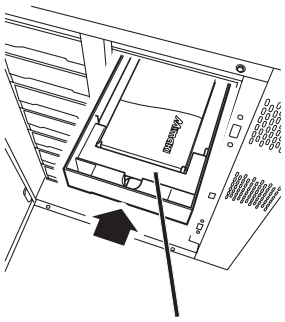
```
カートリッジ        [Reac]
――――――――ABCDEFGH
```

6. インクステーションカバーを開け、トレイを引き出します。

右図は、220cc 用カートリッジアダプタがセットしてあります。

注 意

★ インクトレイを引き抜いた際は、その場所に手を入れないください。ケガをする恐れがあります。



7. カートリッジをセットし、インクカートリッジトレイを押し込みます。

8. インクステーションカバーを閉めます。

9. 【ENTER】キーを押します。

インク充填を開始します。また、充填実行残り時間を秒単位で表示します。

注 意

★ 充填中にインクステーションカバー開けたり、カートリッジを抜いたりしないでください。

インクジュウテン
カイシ　　：ent

ジュウテンチュウ
00：00：00

8. インク充填を終了します。

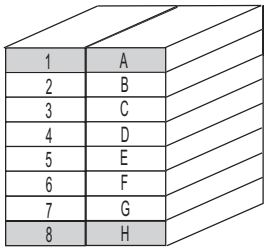
布幅検出画面に戻ります。（布幅未検出時）

メディアセット
ロール<　　>リーフ

インクカートリッジを装填する

インクカートリッジ及びインクパックの配置方法をご紹介します。

左右のインクカートリッジに同種同色のインクカートリッジを装填します



注意

★ [1 と A]、[2 と B]、[3 と C]、[4 と D]、[5 と E]、[6 と F]、[7 と G]、[8 と H]のインクカートリッジ及びインクパックが同種同色のインクになるようにセットしてください。

4 色の場合

★ [1 と 2 と A と B]、[3 と 4 と C と D]、[5 と 6 と E と F]、[7 と 8 と G と H] のインクカートリッジおよびインクパックが同種同色のインクになるようにセットしてください。

● インクの初期充填またはインク交換の際に、各インクステーションごとにインクタイプを登録します。（P.1-24 を参照）
登録したインクタイプは、作図情報の確認や使用ヘッドの切り替えに必要になります。

使用可能な布と取り扱いについて

使用可能な布の取り扱い方法と注意について説明します。

使用可能な布

本装置で使用可能な布には、「ロール」と「リーフ」があります。
ただし、「リーフ」を使用する場合も、「ロール」と同じ扱いをしますので、セット位置にご注意ください。

注 意

★「リーフ」使用時には、以下の機能は動作しません。

[クリダシ]、[マキトリ]、[シワトリ]

使用可能な布のサイズ

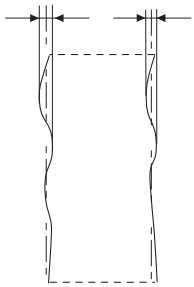
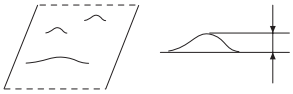
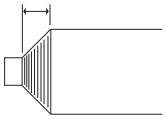
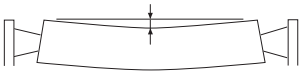
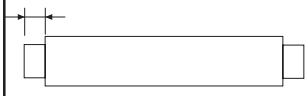
最大幅	1650 mm
最小幅	200　mm
最大作図幅	1620 mm
厚さ	7 mm 以下
ロール外形	φ 270 mm 以下
ロール重量	38 Kg 以下
紙管内径※	1.35 インチ、2 ～ 3 インチ
作図面	ロール外側・内側面不問
巻き取り方向	外巻き、内巻き不問
巻終わり処理	紙管に弱いテープ止めまたは弱粘着

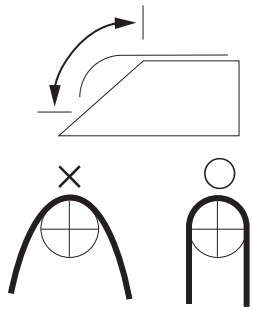
※ロール重量 5kg 以上のものは、2 インチ以上のこと。

布取り扱い上の注意

使用可能な布の取り扱い方法について説明します。布の種類または特性に応じた使用をしていただくために、下記の条件をお読みください。

作図できる布の条件

項目	条件	備考
幅バラツキ	片側側面で± 5mm 以下	
広げた時の湾曲	一方向曲がり不可	
平坦面に広げた時の シワ（たるみ）高さ	2mm 以下	
ロールエッジのずれ	± 20mm、 反物（幅 500mm 以下）は± 2mm	
ロール内径	2 インチ～ 3 インチ	
紙管強度	セット時のロール曲がり 5mm 以下 （紙管肉厚 5mm 以上）	
布端からの紙管露出長	20mm 以上	
紙管との固定	テープ 3 点以下または弱接着	
ロール外径	φ 270mm 以下	
ロール重量	38kg 以下	

項目	条件	備考
プリント面	不問	
巻きシワ	不可	
硬さ	JISL1096 カンチレバー法にて100mm 以下、引き剥がしローラ上半分に接した状態で巻付くこと	

布の取り扱いについて、次の点にご注意ください。

注 意

★ 布前処理 ..... 布は弊社推奨前処理をしたものをご使用ください。

★ 布の厚さ ..... 布をセットする場合、必ずヘッドの高さ調整をしてください。布やヘッドを破損する恐れが有ります。

★ カールした布 ..... 左右端のカールした布は使用しないでください。ヘッドノズル面と接触し吐出不良の原因となります。

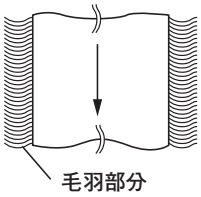
★ 布左右端が中央に比べて著しく弛んでいる布は使用しないでください。地張り部で折れシワとなり、ヘッドノズル面と接触する原因となります。
布左右端ガミング部が中央に比べて短い布（突っ張っている布、または床に広げると中央にたるみができる布）は、湾曲バーを使って使用します。
しかし前処理が硬い布の場合は、湾曲バーの湾曲部を使用しても均等にたるみが無くならないので使用できません。

★ 厚みがあり、硬い布は無人運転できません。デニム地のような布を使用する場合、オペレータは時々スキューチェックを行ってください。一旦スキューを始めると、布自体の自己復旧作用が働きません。放置すると搬送ベルト左右端までスキューが進み、ヘッドジャム等の原因となります。

★ 引き剥がしローラに接した状態で巻き付かない布は、前処理が硬すぎます。引き剥がしローラ上でスリップが発生し、布を正確に送ることが出来ません。

★ 布の左右端に毛羽のある布は、布端ガイドを使用できません。毛羽部分で引き剥がしセンサーが反応してしまい、布を正確に送ることができなくなります。（P.2-14 参照）

●毛羽のある布例



2章
基本機能の使い方

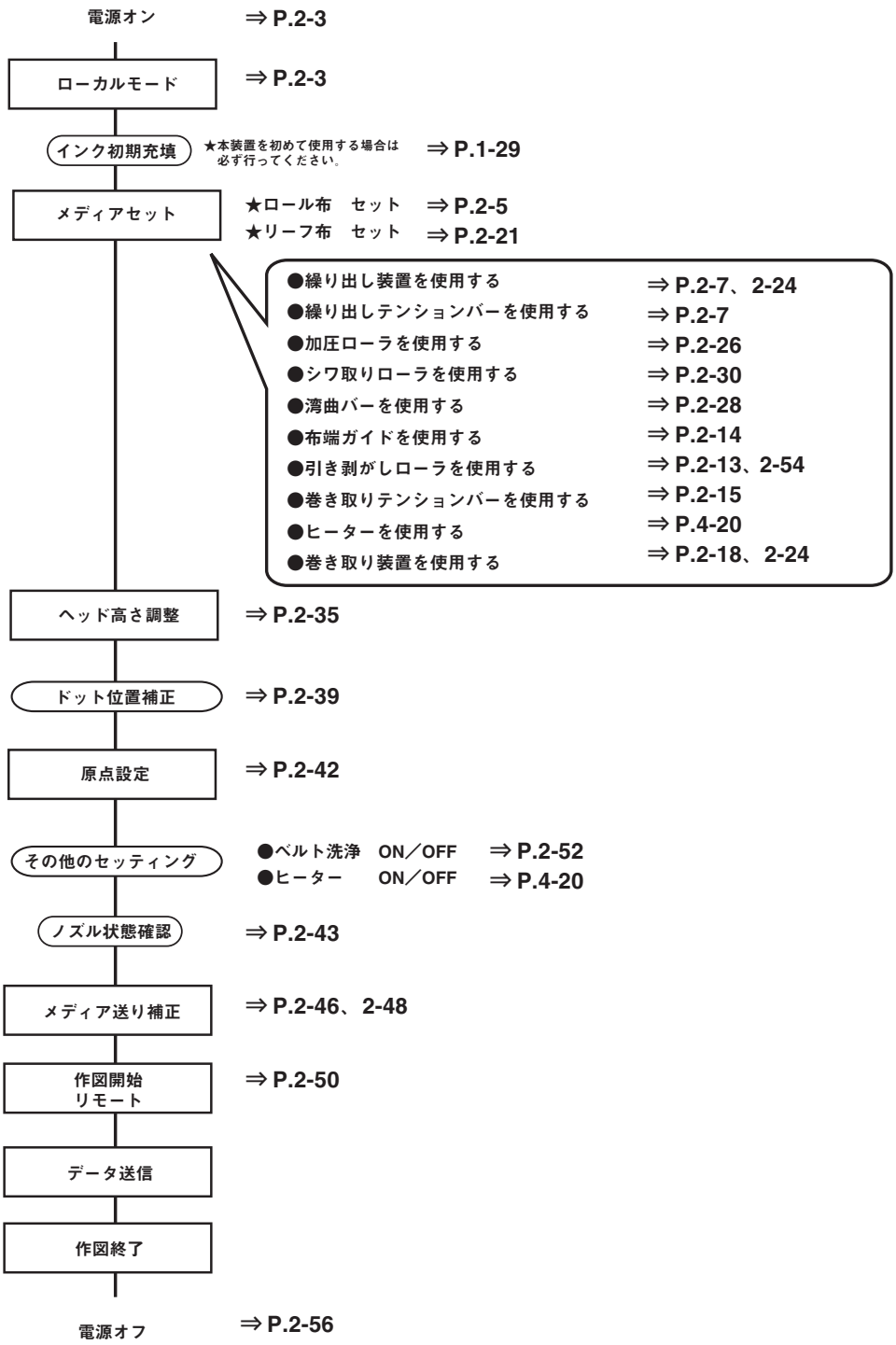
作図の開始から終了までの基本操作を説明します。
応用機能を使用する前に、作図するまでの手順を覚えて、
基本機能の使い方を覚えましょう。

本章の内容

作業の流れ 2-2
電源をオン／オフする 2-3
正面カバー、ステーションカバーR , L について 2-4
布をセットする 2-5
布をセットした後に 2-35
使用する布の作図範囲を指定する（有効作図エリア） 2-41
作図原点を設定する 2-42
インク吐出状態にカスレや抜けがあるかを確認する 2-43
作図する布をセットした後に 2-46
画像データを作図する 2-50
その他のセッティングについて 2-52
インク残量が少なくなったら 2-55
電源のオフ 2-56

作業の流れ

電源を入れてから、作図が終了するまでの作業について説明します。
各項目の詳細は、参照ページをご覧ください。



電源をオン／オフする

セットアップが終了したら、以下の手順に従い、電源のオン／オフを行ってください。

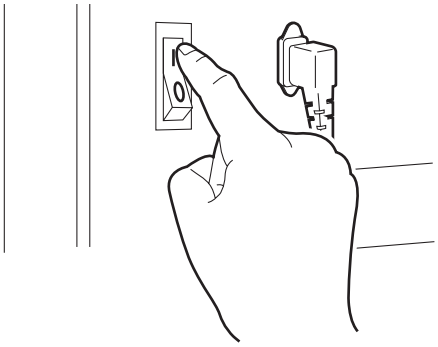
電源のオン

1. ブロワの電源をオンにします。

2. ヒータの電源をオンにします。

3. 本装置の電源をオンにします。

4. 接続してあるコンピュータなどの電源をオンにします。



注 意

★ このとき、正面カバー、ステーションカバーL、Rは閉じておいてください。開けておくと電源を入れてもキャリッジが動きません。

★ ヒーターの表示灯は動作状態を表示しますので、電源をオンにしても点灯しない場合があります。

電源をオンにすると、[BOOT]を表示し、続けて機種名とファームウェアのバージョンを表示します。

```
BOOT
```

```
Tx3-1600      V1.00
```

[シバラクオマチクダサイ]の表示を点滅します。初期動作の進行状況を表示します。

布幅検出画面になります。

```
シバラクオマチクダサイ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－－
```

```
メディアセット
ロール<                  >リーフ
```

正面カバー、ステーションカバーR , Lについて

カバーの開閉について

作図中にカバーを開けないでください。
作図中にカバーを開けると、安全のためキャリッジを停止し、本装置の作図動作が止まります。

注 意

★ 作図中にカバーを開けないでください。作図中にカバーを開けると、作図していた画像のデータは消失します。

操作手順

1. 作図中にカバーを開けると、エラーを表示します。

2. コンピュータからのデータ送信を停止した後に、カバーを閉めて【ENTER】キーを１回押します。

メンテカバー
カバーヲシメテクダサイ

［ＥＮＴ］ヲオシテクダサイ

注 意

★ コンピュータから画像データの送信を中止できない場合は、コンピュータの電源を入れ直して、再起動してください。

3. キャリッジが動き始めます。

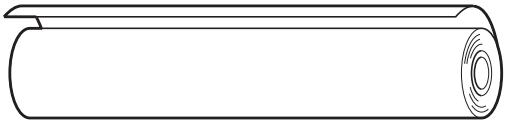
本装置の電源をオンにした時と同じ初期動作をします。(P.2-3 参照)

布をセットする

セット可能な布は、「ロール」と「リーフ」があります。ただし、「リーフ」を使用する場合も「ロール」と同じ扱いをして作図します。設定リストの作図をする場合などリーフ紙を使用する場合は、セット位置にご注意ください。

ロールをセットする

本装置にロールを取り付けます。この手順では、ロールの内巻きセットを例とします。



注意

★ ロールは重いので、足などに落とさないように注意してください。
★ 重いロールをセットするときは、2人以上でセットしてください。
★ 布をセットした後に、布の厚さに合わせて必ずヘッドの高さ調整の確認をしてください。(P.2-35 参照)

1. **操作パネルのLCD表示が右の表示になっていることを確認します。**

メディアセット
ロール< >リーフ

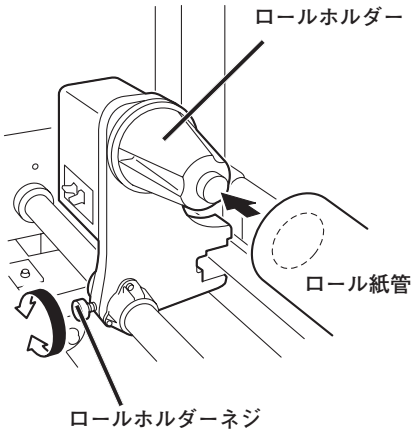
● LCD表示が布セットを表示していない場合、メディアリセットをします。(P.2-23 参照)

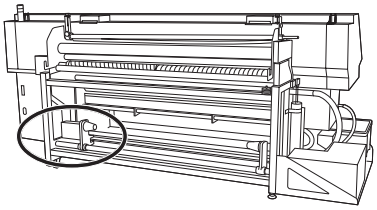
2. **本体背面にある繰り出し装置側のロールホルダーのネジを緩め、ロールホルダーに、ロール紙管を差し込みます。**

注意

★ 5kgを超えるロールの場合、2インチ以上の紙管のものをご使用ください。

★ 細い紙管は、ロール自体の重さで曲がりやすくなります。



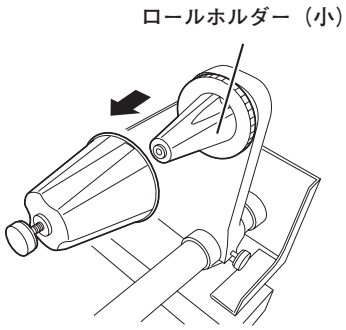


< 本体背面側 >

● ロールホルダーは二重構造になっています。また紙管内径は 1.35 ～ 3 インチに対応しています。紙管の内径に合わせて、ご使用ください。

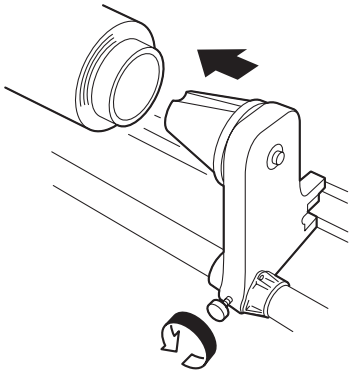
注意

★ 紙管は 3 インチを使用しているのに、紙管自体の肉厚が薄く、セットするとＶ字に折れてしまう場合は、添付の紙管サポートパイプをご使用ください。その際は、ロールホルダー（小）をご使用ください。
（P .2-34 参照）



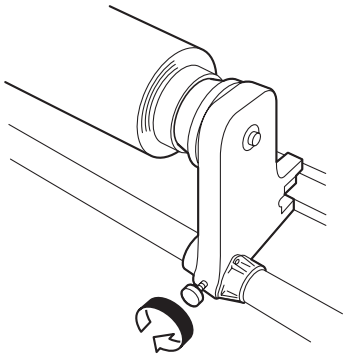
3. **右側のロールホルダーのネジを緩めます。**

ロールの幅に合わせて、ロールホルダーの位置を調整します。



4. **ロールの紙管に、右側のロールホルダーを入れます。**

紙管の奥までロールホルダーを差し込んだら、ネジで一旦固定します。

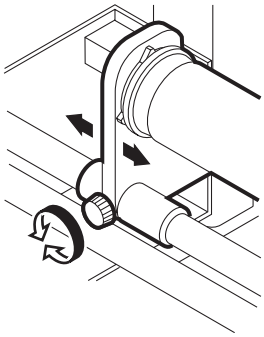


5. **本装置の後ろ側から見て、ロールがほぼ中央にセットされたか確認します。**

ずれている場合は、ロールホルダーのネジを緩めて、ロールホルダーごと左右にずらします。

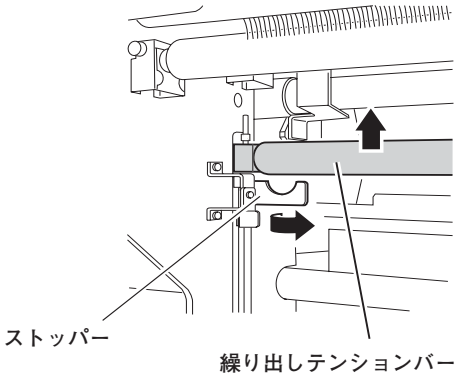
ロールの位置が決まったら、ロールホルダーのネジを両側とも固定します。

● 布の端面を基準にして、ロールの中央を決め、ロールをセットします。ロールガイドに付いているメジャーを使用すると便利です。



6. 繰り出しテンションバーを上げ、ストッパーに引掛けます。

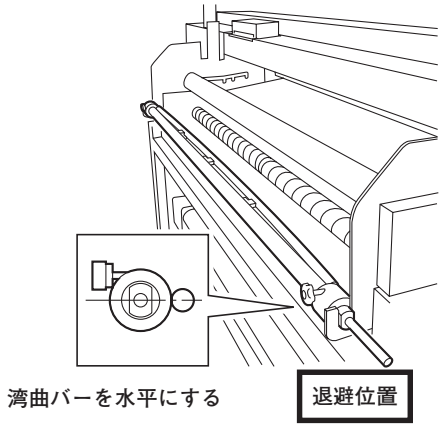
● テンションバーのウェイトを変えることができます。
(P.2-27 参照)



7. 湾曲バーを退避位置に置き、湾曲バーを水平にしておきます。

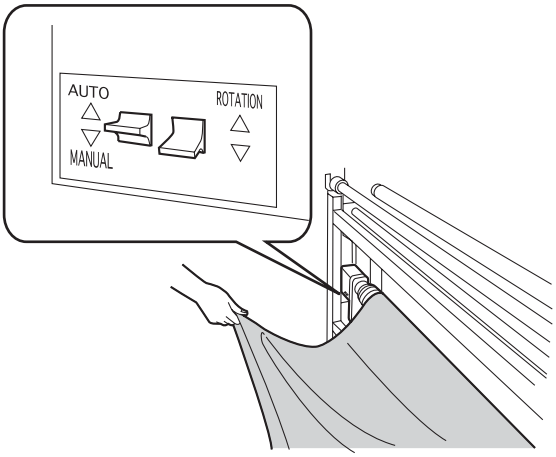
湾曲部は、プロッタ側に向けて水平にセットしてください。

● 湾曲バーの使用方法は湾曲バーの角度調整 P.2-28 をご覧ください。



8. 繰り出し装置を使って、3m ほどロールを巻きほぐして、布を引き出しておきます。

回転方向(内巻き、外巻き)を確認し、布を巻きほぐします。

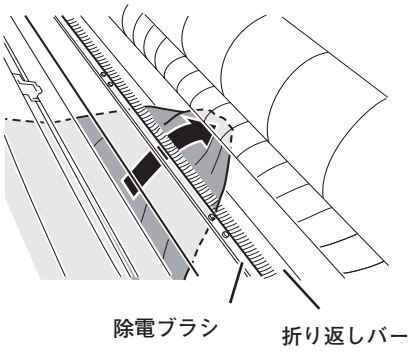


9.　布の中央だけをつまみ、布を通します。

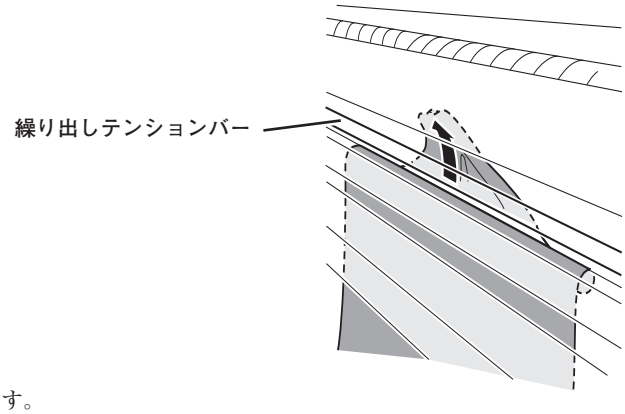
布種に応じて、布を通す位置を変更します。
ここでは標準的な布の通し方を説明します。

● 布を通す場合は、布の中央部分だけを持って通すと、スムーズに布を通せます。

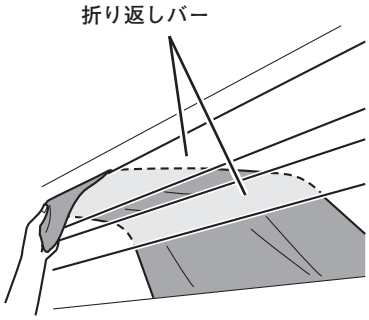
a. 除電ブラシと折り返しバーの間に通します。



b. 繰り出しテンションバーの下を通します。



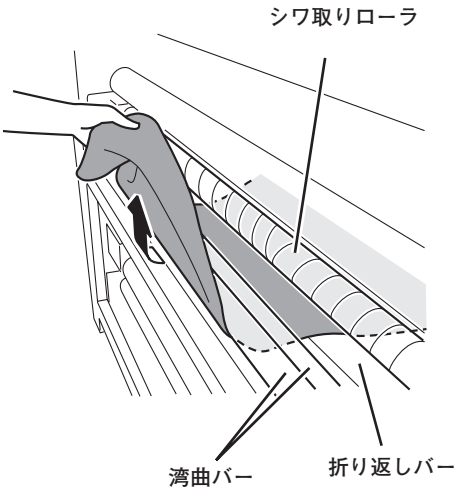
c. 折り返しバー２本の上を通します。



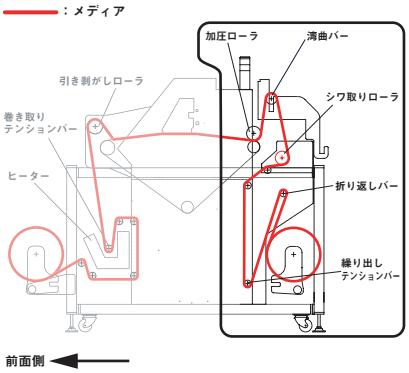
d. シワ取りローラの下、折り返しバーの上、
また湾曲バーの下を通します。

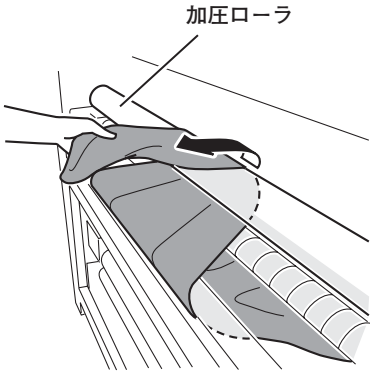
★ シワ取りローラ動作中は、手や衣服等を近づけないでください。巻き込まれるとケガや骨折の恐れがあります。

★ 幅の広い布を使用する場合、布端のヨレやホツレなどがシワ取りローラ両端にある固定ツマミネジに巻き込まれる恐れがあります。そのような布をセットする場合は布の端面を切断してから布をセットしてください。

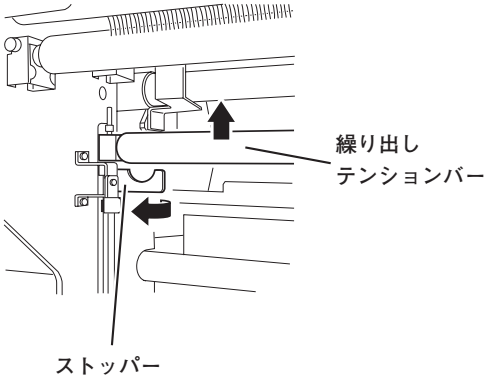


e. 加圧ローラの下を通し、手前に引き出します。

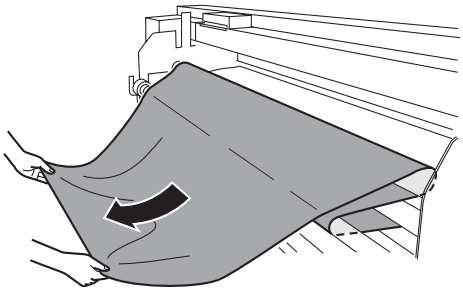




10. 繰り出しテンションバーをストッパーから外します。



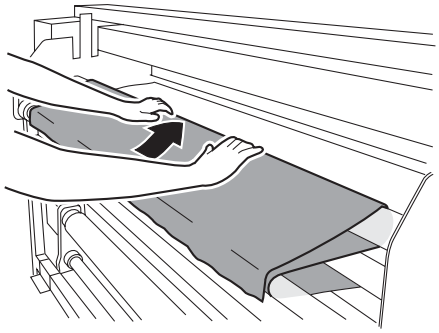
11. 布全幅が加圧ローラを通過するまで引き出します。



注意

★ 他のローラ部分で、布に折れがないかどうか確認しながら引き出してください。

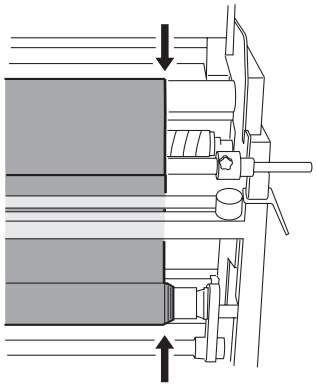
12. 加圧ローラ巻き込み量が、200～300mm程度となるまで、布を戻します。



注意

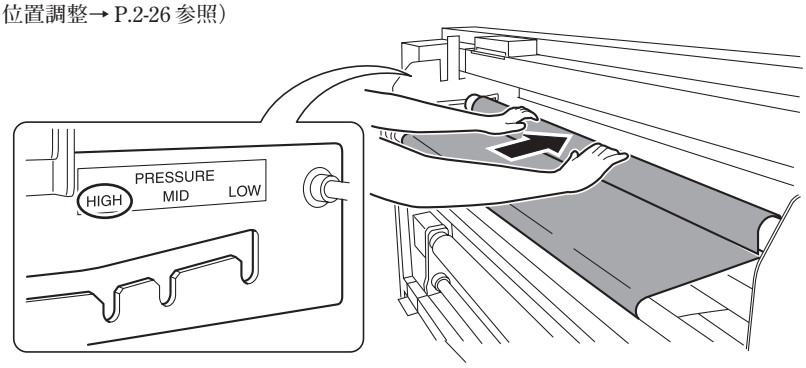
★ 布の端面がまっすぐになっていることを確認してください。曲がっている場合はまっすぐに直してください。繰り出す際に、布ズレが発生します。

★ 繰り出しテンションバーの部分で布がたるんでいる場合、たるみが無くなるまで布を巻き戻してください。

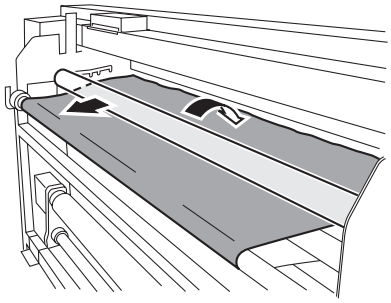


13. 布と一緒に加圧ローラ中央部を押さえながら、加圧ローラをHigh位置までセットします。

（加圧ローラの位置調整→ P.2-26 参照）



14. 加圧ローラに巻きつけた布を搬送ベルト側に広げ、加圧ローラを一旦退避させます。

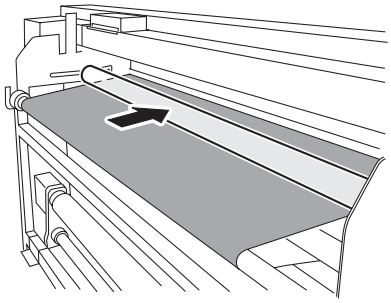


15. 最も張っているところ（中央）に、張りの弱いところ（左右外側）を合わせる方向で、搬送ベルトに張り付けます。

布の張り具合を確認し、シワを伸ばしながら、外側に向かって布を搬送ベルトに張り付けていきます。

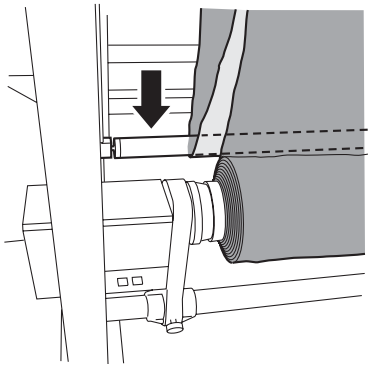
16. 加圧ローラを再度セットします。

（加圧ローラの位置調整→ P.2-26 参照）



17. 繰り出し装置で 200 ～ 300mm 程度、布を送り出して、たるませます。

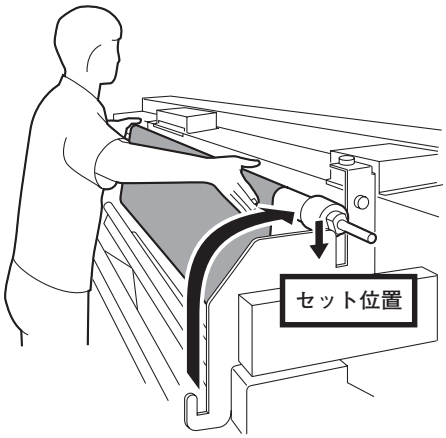
繰り出しテンションバーを最下点にし、さらに 200 ～ 300mm、布をたるませます。



18. 湾曲バーをセット位置にセットします。

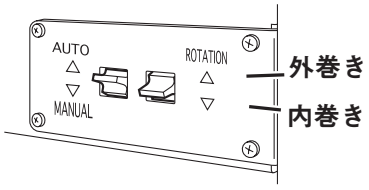
（湾曲バー角度調整調整→ P.2-28 参照）

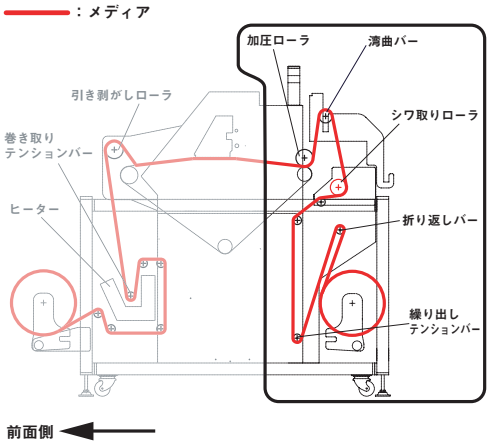
注意
★ 湾曲バーの湾曲部を真下にして、セット位置にセットしてください。



19. 繰り出しテンションバーが 100mm 程度上がるまで、繰り出し装置で布を巻き戻します。

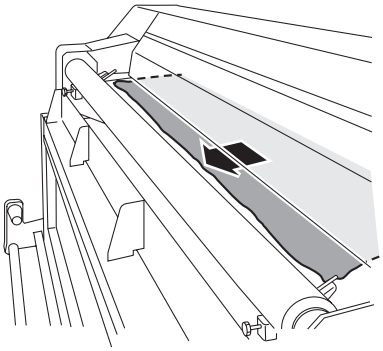
20. 使用時に布を繰り出す方向へ、繰り出し装置の「ROTATION」スイッチを切り換えます。



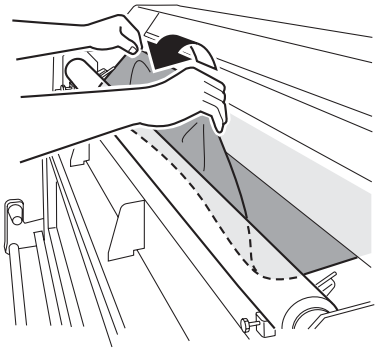


21. ジョグキー【▼】を押しながら、布先端を引き剥がしローラから200～300mm通過するところまでフィードし、布を引き剥がしローラの上に通します。

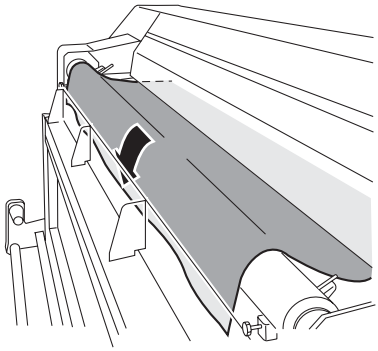
メディアセット
ロール<　　>リーフ



途中、手で布を引き剥がしながら行います。

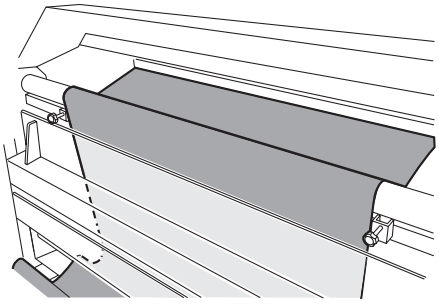


引き剥がした布を引き剥がしローラの上に掛けます。ジョグキー【▼】を押しながら、引き剥がしローラの下に布が入り込む程度までフィードします。



22. 布端ガイドをセットします。

多種の布を使用しても、確実に搬送ベルトから布を引き剥がすことができるようにします。



注意

★ 布の左右端に毛羽のある布は、布端ガイドを使用できません。毛羽部分で引き剥がしセンサーが反応してしまい、布を正確に送ることができなくなります。

★ 端面が大きくズレいているものは、使用時に端面をそろえて使用してください。（P.1-33「ロールエッジのずれ」）

★ 布端ガイドを使用すると、布の引き剥がし動作をより確実に行うことができます。

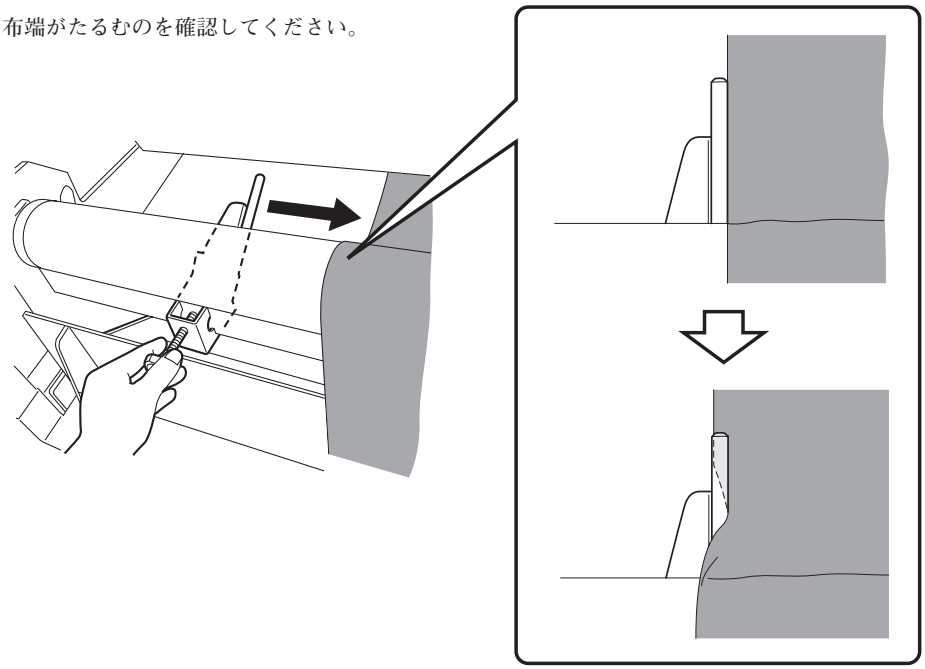
■ 幅の狭い布（９００mm未満）を使用するときには必ず布端ガイドを使用してください。

■ 幅が広い布の場合は使用する必要はありません。

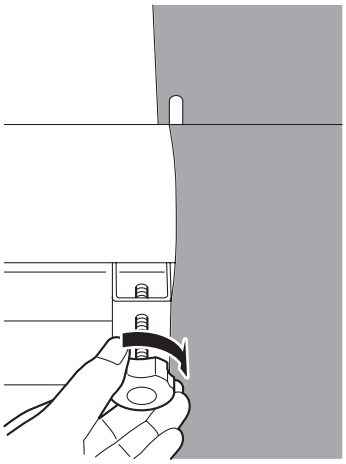
1. 布端ガイドを布端まで動かします。

2. 布端から５ミリほど内側へセットします。

布端がたるむのを確認してください。



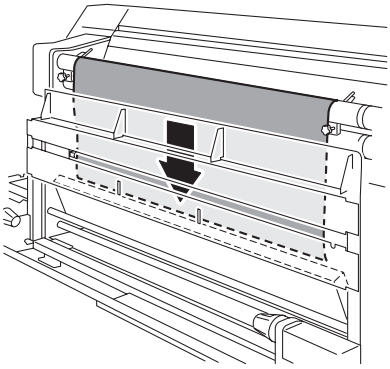
3. 固定ネジをしめて固定します。



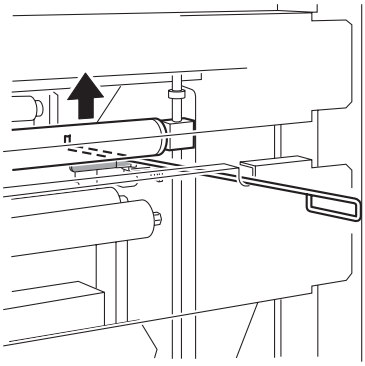
23. ジョグキー【▼】を押しながら、布を垂らしていきます。

引き剥がしローラとヒーターガードの間に布を垂らしてゆき、布先端がヒーターにつくまでフィードします。

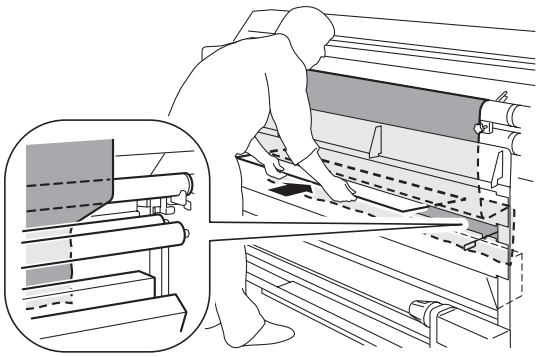
布がヒーターガード下の穴半分をすぎるくらいまで垂らします。



24. 布セットバーを使って、巻き取りテンションバーを持ち上げ、ストッパーに布セットバーを引掛けます。



25. 布セット板を使用して、折り返しバーの奥側へ布を送ります。

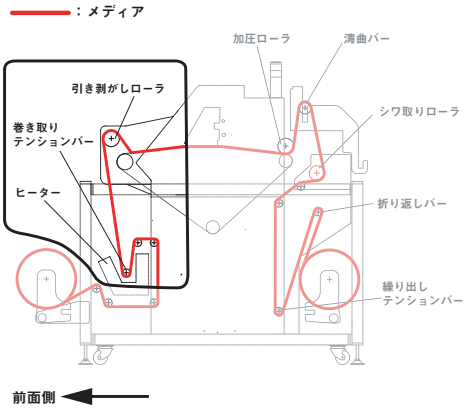


注意

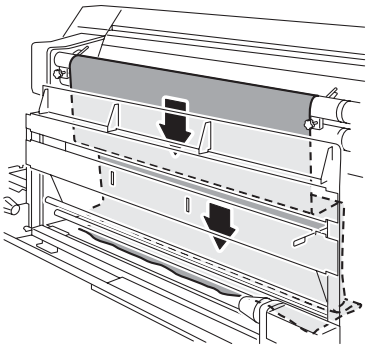
★ 巻き取りテンションバーをストッパーに長い間放置すると、「マキトリリミット」エラーになります。

エラーになった場合の解除方法

1. 布セットバーを巻き取りテンションバーストッパーから外します。
2. 布セットバーを持ちながらテンションバーを少しさげます。
3. 再度ストッパーにかけ直すと、エラーが解除されます。



26. 布を折り返しバーの後ろへ送り出したことを確認し、ジョグキー【▼】を押し、約 1 mほどフィードさせます。

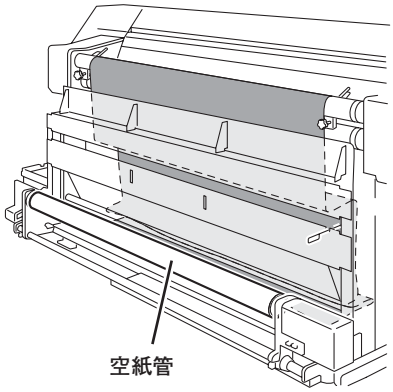


27. 空紙管を取り付けます。

● **巻き取り用の空紙管を取り付ける**

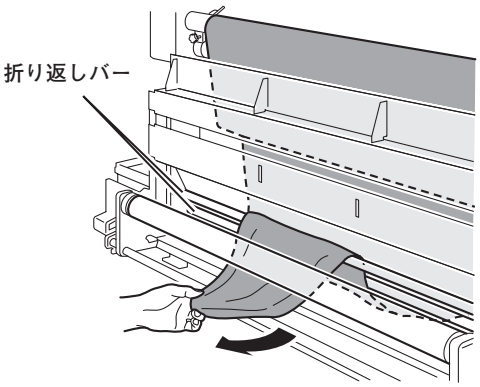
作図した後の布を巻き取るために、巻き取り装置に空紙管を取り付けます。

● 巻き取るロール重量が全巻き取り後、重くなることが予測される場合、（繰り出し側で紙管サポートパイプを使用している場合）、巻き取り側の空紙管は、肉厚 10mm 以上の強度のあるものを使うか、紙管サポートパイプを使用してください。

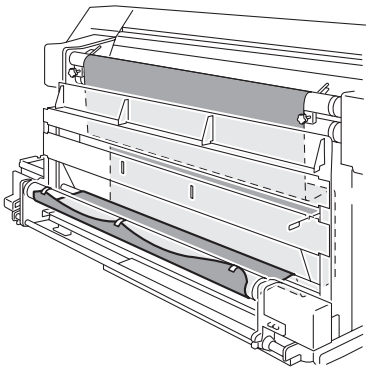


28. ヒーターの下から布を引き出し、折り返しバー２本と空紙管の間に通します。

● 内巻きで巻き取る場合は右図のように紙管の下を通します。

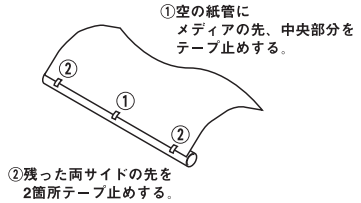


29. お手持ちの粘着テープを用いて、布先端を空紙管に固定します。

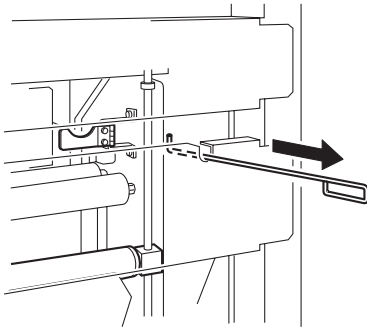


注意

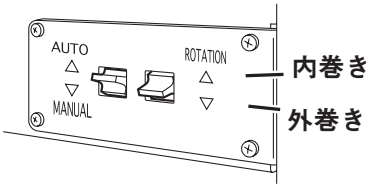
★ テーピングする場合、必ず布の中央部を先に固定し、その後で両端を止めるようにしてください。布はたるませないで、軽く引っ張る状態で固定します。



30. 布セットバーを巻き取りテンションバーストッパーから外します。

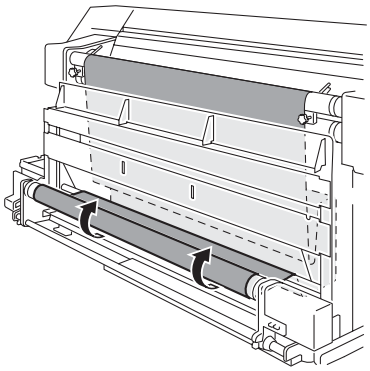


31. 使用時に布を巻き取る方向へ、巻き取り装置の「ROTATION」スイッチを切り換えておきます。



32. ジョグキー【▼】を押し、空紙管に一周以上巻き付けます。

布セットが終了しました。



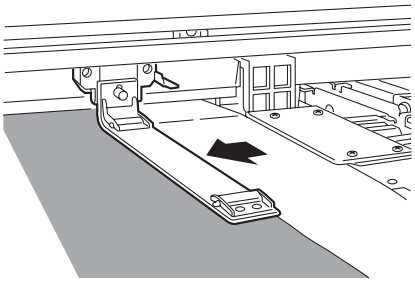
注意

★ 布先端が巻き取り装置まで届かない状態で作図を開始すると、ヒキハガシエラー、マキトリタルミエラーが発生します。
ヒキハガシエラーが発生した場合は、作図を中断します。

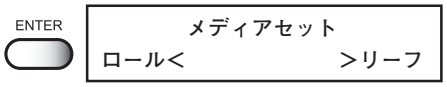
★ 布を先端近くから有効に使用する場合は、導布を使用します。

33. 正面カバーを開け、布押さえをセットします。

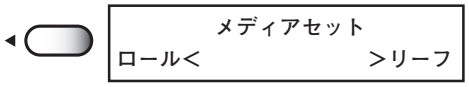
● 布幅によって、押さえ部の位置を調整してください。



34. 正面カバーを閉めて、【ENTER】キーを押します。

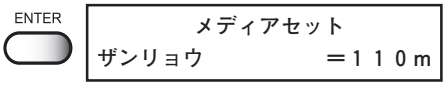


35. ジョグキー【◀】キーを押して、ロールの布検出をします。

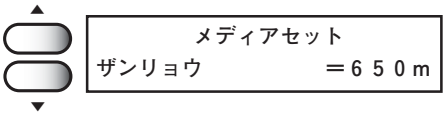


［ﾛｰﾙ］を選びます。

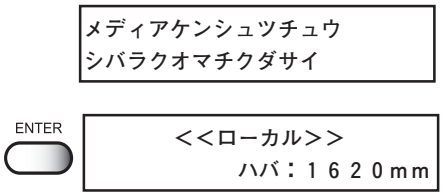
36.【ENTER】キーを押します。



ロール長さがわかっている場合は、ジョグキー【▲】【▼】キーを押して、長さを入力してください。途中でロール残量を確認することができます。

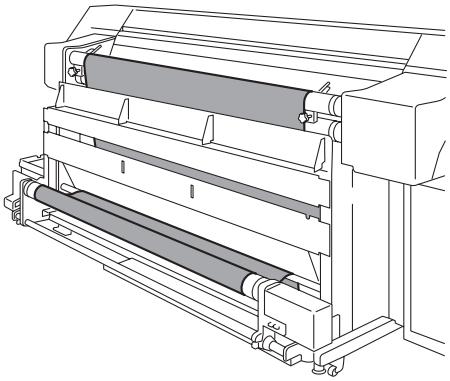


37. 布の幅検出を開始します。

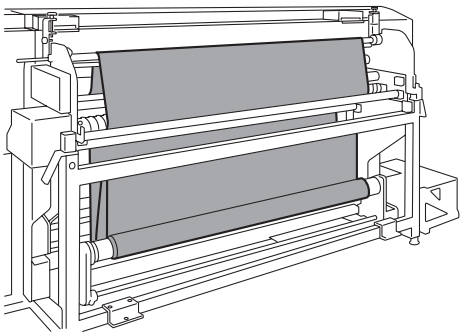


布セット　完成図　例

前面

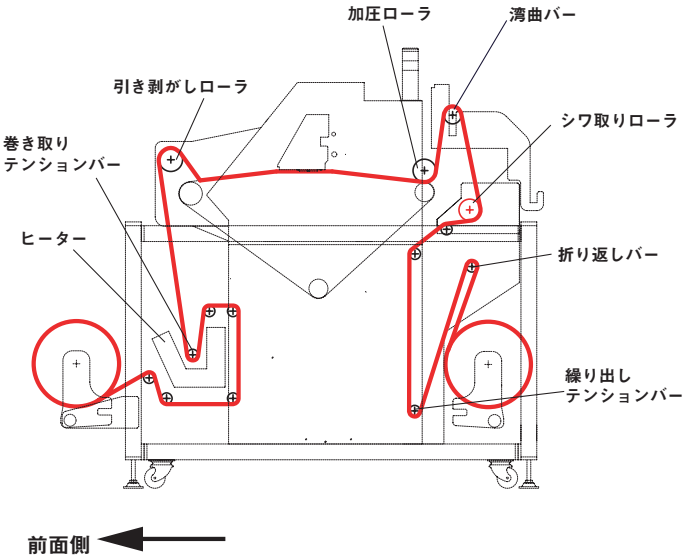


背面



★内巻き例

：メディア



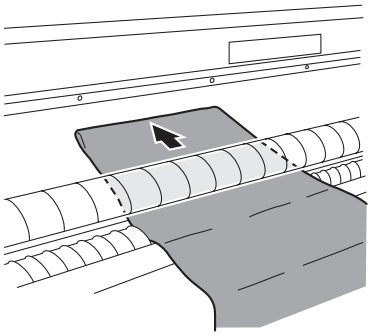
リーフ（カット布）のセット

リーフは繰り出し側でテンションを掛けられません。搬送ベルトにリーフを軽く張り付けた後に加圧ローラをセットする場合は、しわの入らないようにセットしてください。
すでに折れしわがついてしまっている布は、正常な搬送が出来ません。折れたまま地張りをすると、ヘッドのこすれ、ジャム等の原因になります。使用しないか、繰込み終了まで手を添えて行ってください。

注意

★ リーフ選択時は布 END 検出しません。作図のデータサイズはリーフ長に収まるサイズとしてください。
★ リーフ選択時は、布がベルトに巻き込まれるのを防ぐために、布先端が300mm 以上引き剥しローラを越えるまで監視が必要です。必ず確認してください。なお、ヒーターは有効利用できないので、プリント後の布汚れに注意してください。
★ リーフをセットする際に、布の厚さに合わせて必ずヘッドの高さ調整の確認をしてください。(P.2-35 参照)

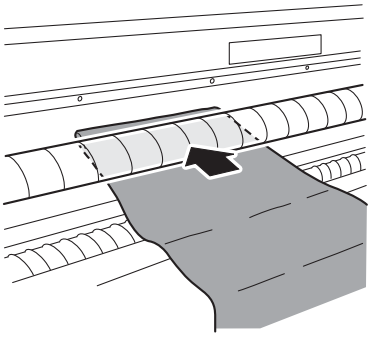
1. **リーフ先端を搬送ベルトと加圧ローラの間に軽く張りつけます。**

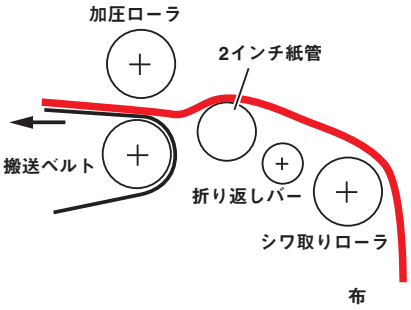


2. **垂らしたリーフの後ろ側にしわ、たるみが無いかを確認し、必要に応じて、手順 1 を再度やり直します。**

3. **加圧ローラをセットします。**

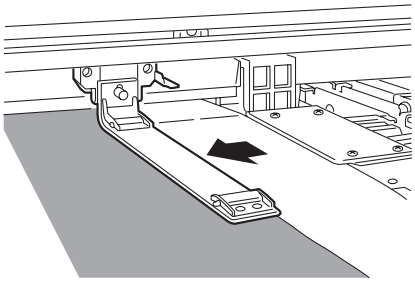
● 加圧ローラ後部の布の下に、加圧ローラに接して 2 インチ紙管をセットすると、地張り部でシワが入りにくくなります。
（下記図参照）





4. 垂れたリーフ後ろ側が左右どちらかに偏っていないかを確認し、必要に応じてバランスを取ります。

5. 操作パネルのジョグキー【▼】を押しながら、リーフ先端が布押さえで押さえられる程度までフィードさせます。



6. 布幅検出を実行します。
(「メディアセット」を表示しない場合)

a. 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION

```
FUNCTION
セッテイ          <ENT>
```

b. ジョグキー【▲】【▼】を押して、布セット[メディアセット]を選びます。

```
FUNCTION
メディアセット    <ENT>
```

c. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メディアセット
メディア          :リセット
```

d. 【ENTER】キーを押して、リセットします。

ENTER

e. リーフの布幅検出をします。

ジョグキー【▶】を押して[ﾘｰﾌ]を選びます。

```
      メディアセット
ロール<          >リーフ
```

```
クリダシ          OFF
マキトリ          OFF
```

```
シワトリ          OFF
```

```
メディアケンシュツチュウ
シバラクオマチクダサイ
```

```
**メディア**
X=****    Y=****
```

```
<<ローカル>>
ハバ:1620mm
```

注意

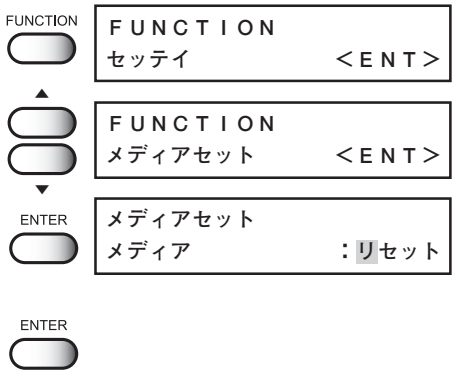
★「リーフ」使用時には、以下の機能は動作しません。

[クリダシ]、[マキトリ]、[シワトリ]

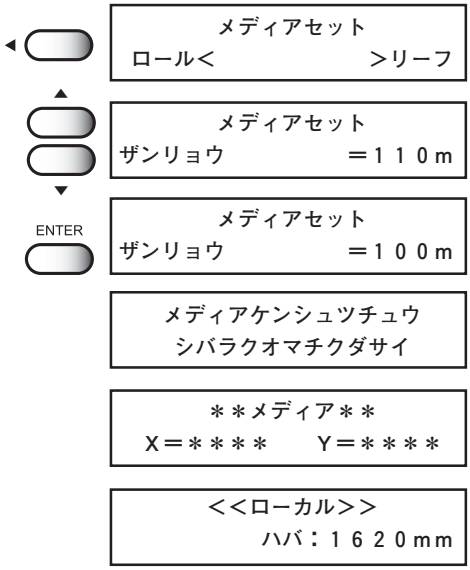
新しい布をセットする場合（メディアセット）

布幅を再度検出する、あるいはロール / リーフを再セットした場合にもリセットします。

1. 新しい布（ロールまたはリーフ）をセットします。
2. 【FUNCTION】キーを押します。
3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メディアセット]を選びます。
4. 【ENTER】キーを押します。
5. 【ENTER】キーを押します。布幅検出選択画面になります。下記参照

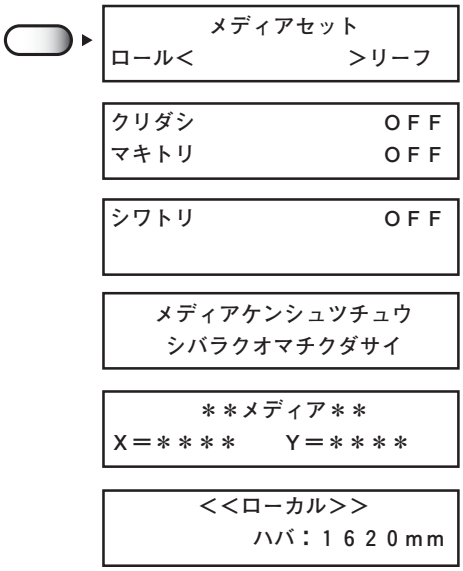


ロールを選択



● ロール布をセットした際、ロール長さがわかっている場合は、設定してください。途中でロール残量を確認することができます。

リーフを選択

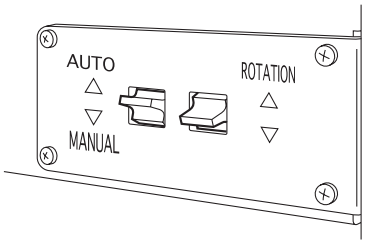


繰り出し・巻き取り装置のスイッチを切り替える

繰り出し・巻き取り装置には、布の巻き取り方向や巻き取りの回転を指定するスイッチがあります。繰り出し・巻き取り装置を使用する場合は、「繰り出し装置を利用する（P.4-16）」または「巻き取り装置を利用する（P.4-17）」をご覧ください。

● AUTO
テンションバーの位置により、回転・停止を自動で行います。
(ジョグ操作および作図中のみ有効)

● MANUAL
常に回転します。



●巻き取り側
回転▲上方向：
作図面を内側にして巻き取ります

回転▼下方向：
作図面を外側にして巻き取ります

●繰り出し側
回転▲上方向：
作図面を外側にして繰り出します

回転▼下方向：
作図面を内側にして繰り出します

布押さえを使用する

布押さえは、つまみネジを外すことによりスライド部と押さえ部とに分離することができます。(P.1-13 参照)
布幅検出をする場合、スライド部だけでも布幅検出は可能となります。

以下のような場合には、布押さえを使用します。
- 布の端面が毛羽立っている場合
- 地張りをしても浮きが残ってしまう場合

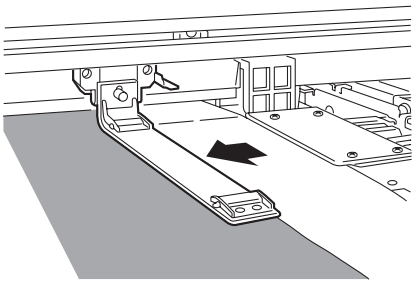
注意

★ 押さえ部を外している場合、かならずスライド中央部を布端の位置に移動させてください。布幅検出を正確に検出できない原因となります。

操作手順

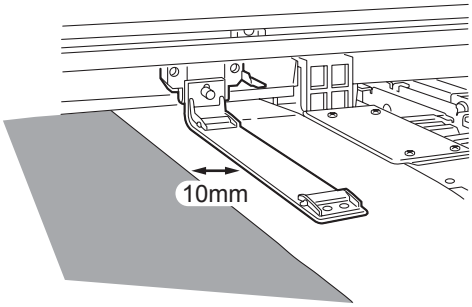
1. 布をセットします。

2. 右布押さえを布右端の上に移動します。



3. 左側も同様に移動します。

- 縁無しプリントをする場合、布端から布押さえを 10mm 以上、外へ移動してセットします。



縁無しプリントをする場合

加圧ローラ位置の調整

圧力をかけ、布を搬送ベルトに粘着させます。加圧力は3段階選ぶことができます。

加圧ローラの加圧段階

Low	地張り剤を新しく塗り替えた場合に使用してください。
Middle	ストレッチ材は引き剥しの際に伸びますので、強く地張りされていると搬送ベルトに巻き込まれる場合があります。地張り接着力が強いうちはLowまたはMiddleでご使用ください。
High	シルク素材を使用する場合と、接着力が落ちてきたときには、Highの位置で使用します。

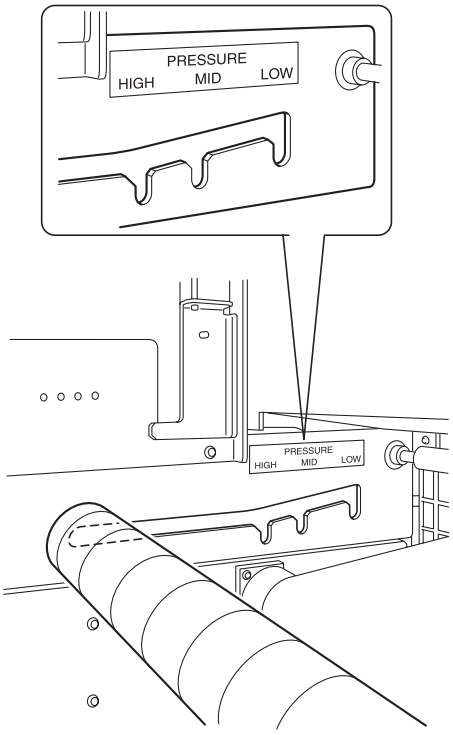
● 以上はあくまでも目安です。必ず張り付き具合を確認し、位置を設定してください。

警告

★ 加圧ローラは大変重いので、加圧ローラのセット時または退避時には、指を挟まないように注意してください。

注意

★ 布をセットしていない状態で、加圧ローラを搬送ベルト上に長時間放置すると、ローラがベルトに張り付き、外しにくくなります。布をセットしない場合は、加圧ローラをベルト上から退避させてください。
長時間放置した場合は、ジョグで少し送ると外しやすくなります。



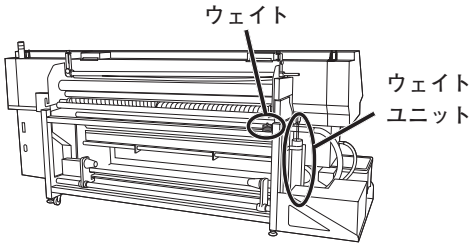
繰り出しテンションバーウェイト調整

ウェイトが少ないとテンションバーは重くなります。またウェイトを多くすると、テンションバーは軽くなります。ストレッチ素材や織りが粗く薄い布を使用する場合は、繰出しテンションバーを軽くする必要があります。布の種類に応じて、テンションバーウェイトを使用してください。

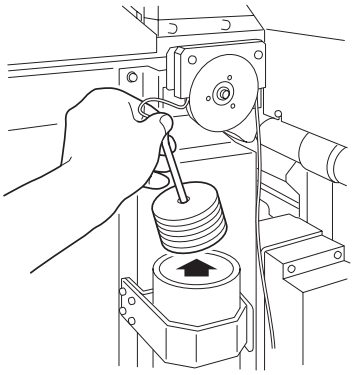
注意

★ ニット、ストレッチ材はテンションバーを軽くしてください。
★ ストレッチ系ではない布はウェイトはいりません。
★ ストレッチ系ではないがウェイトをはずし、テンションをかけると縦しわが入ってしまう布（薄いシホン、ボイル等）は調整が必要です。ウェイトを少し加えてください。シワ取りローラも通さないほうがよいでしょう。
★ 繰出しテンションバーを軽くしすぎると繰出しが正常に動作しなくなります。テンションバー自体の重さで下がる範囲で調整してください。

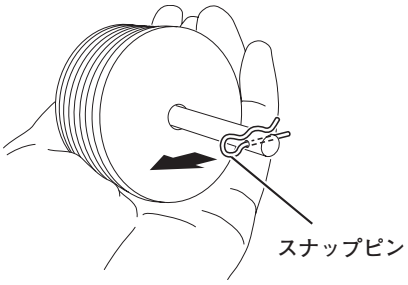
1. テンションバーのウェイトを筒から引き出します。



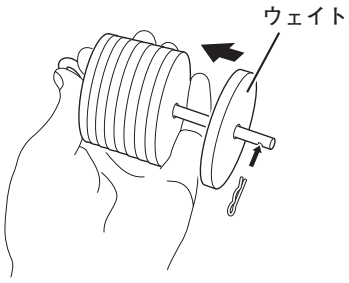
＜本体背面側＞



2. スナップピンを引き抜きます。



3. 必要に応じてウェイトを加減します。



4. スナップピンを取り付けて、元に戻します。

湾曲バーを使ってタルミを取る

布左右端ガミング処理部が布中央に対して極端に長さが短いもの（床に広げると布中央が大きくたるんでいるもの）は、湾曲バーの使用が必要です。
（布取り扱いの注意 P.1-32 参照）

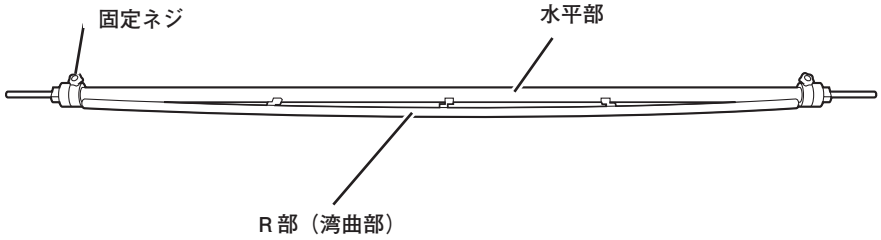
- 湾曲部の位置（角度）は、布の状態に合わせて調整が必要です。
- 布セット後、湾曲バー部で、布左右端が少したるむ程度の位置が目安です。

注意

★ 湾曲バーのR頂点位置は変更することができません。
★ センター基準布セット時以外は、R部を使用しないでください。

湾曲バーの角度調整

布のたるみによって、湾曲バー使用角度を変更します。
湾曲バー　水平部..... 通常使用します。
　　R部（湾曲部）..... 中央にたるみのある布に使用します。



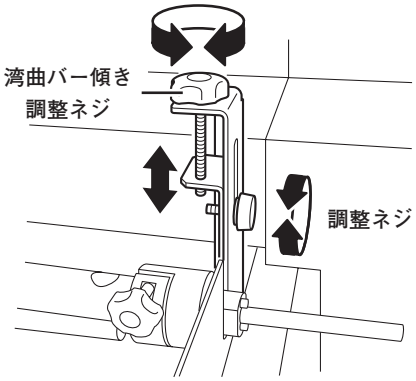
1. **湾曲バー傾き調整ネジを使用して、縦方向の角度を調整します。**

   a. 調整ネジを緩めます。

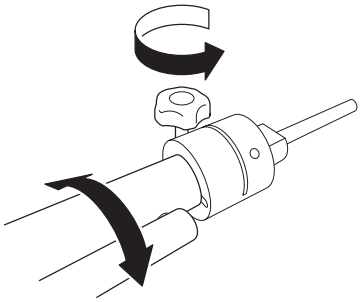
   b. 傾き調整ネジを上下させて角度を付けるまで回します。

   - 湾曲バーを持ち上げながら、両端の角度を調整します。

   c. 調整ネジで固定します。

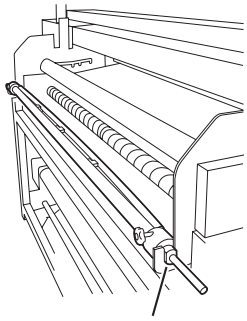


2. **湾曲バーの固定ネジを使用して、湾曲バーの角度を調整します。**

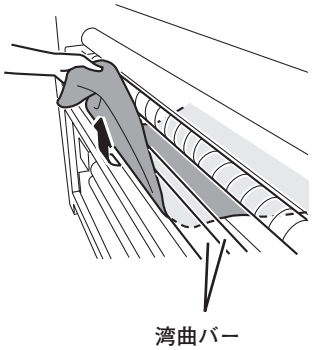


湾曲バーを使用する

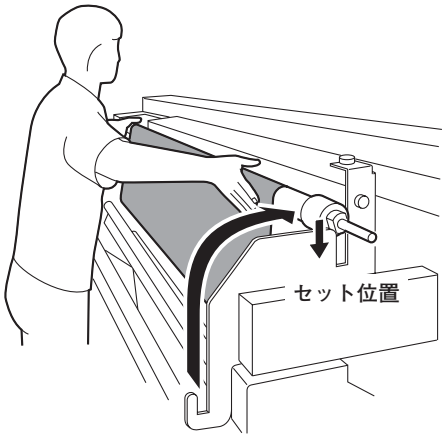
1. 湾曲バーが退避位置にあることを確認します。



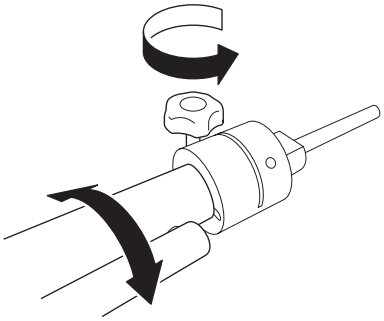
2. 布を通します。



3. 湾曲バーをセット位置まで移動させます。



4. 固定ネジをゆるめ、布の状態にあわせてＲ頂点位置を設定します。



シワ取りローラのコマ入替え調整

シワ取りローラは、布を加圧ローラで搬送ベルトに貼り付ける際、シワが入ることを防止しています。
布のセット位置は中央が基準となっています。幅の狭い布も必ず搬送ベルトの中央にセットしてください。ただし、下記の場合には、シワ取りローラのコマを付け替えることによって、布の中央部を変更することができます。

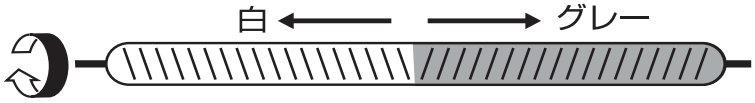
★ シワ取りローラ動作中は、手や衣服等を近づかないでください。巻き込まれるとケガや骨折の恐れがあります。

注 意

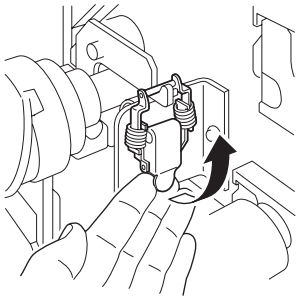
★ 幅の広い布を使用する場合、布端のヨレやホツレなどがシワ取りローラ両端にある固定ツマミネジに巻き込まれる恐れがあります。そのような布をセットする場合は布の端面を切断してから布をセットしてください。

- 作図時間を短縮するため、右寄せにして布をセットする場合
- 通常使用が 800mm 幅以下の布で、左または右端に寄せ、地張り剤寿命を延ばす場合

シワ取りコマの色は、回転方向により 2 種類あります。

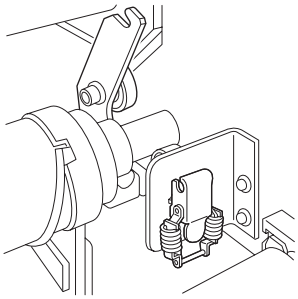


1. **本装置背面右側にあるシワ取りローラのパチン錠を外します。**

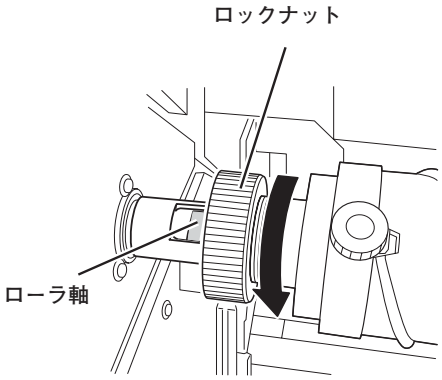


注 意

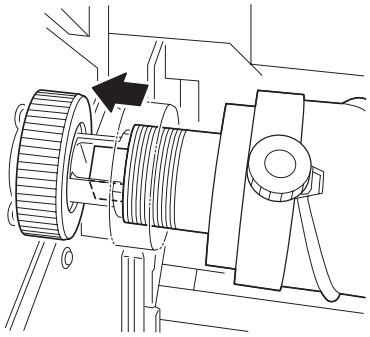
★ パチン錠を外す時は下から手を入れて、外してください。外れたストッパーが手に当たり、怪我をする恐れがあります。



2. 左側のロックナットを緩め、シワ取りローラを外します。

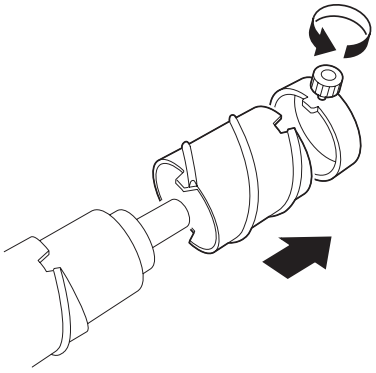


注意
★ 軸を上にして外してください。シワ取りローラが外れ、本装置を破損する原因になります。



3. シワ取りローラ左右端についているツマミネジを緩め、固定コマを入れ替えます。

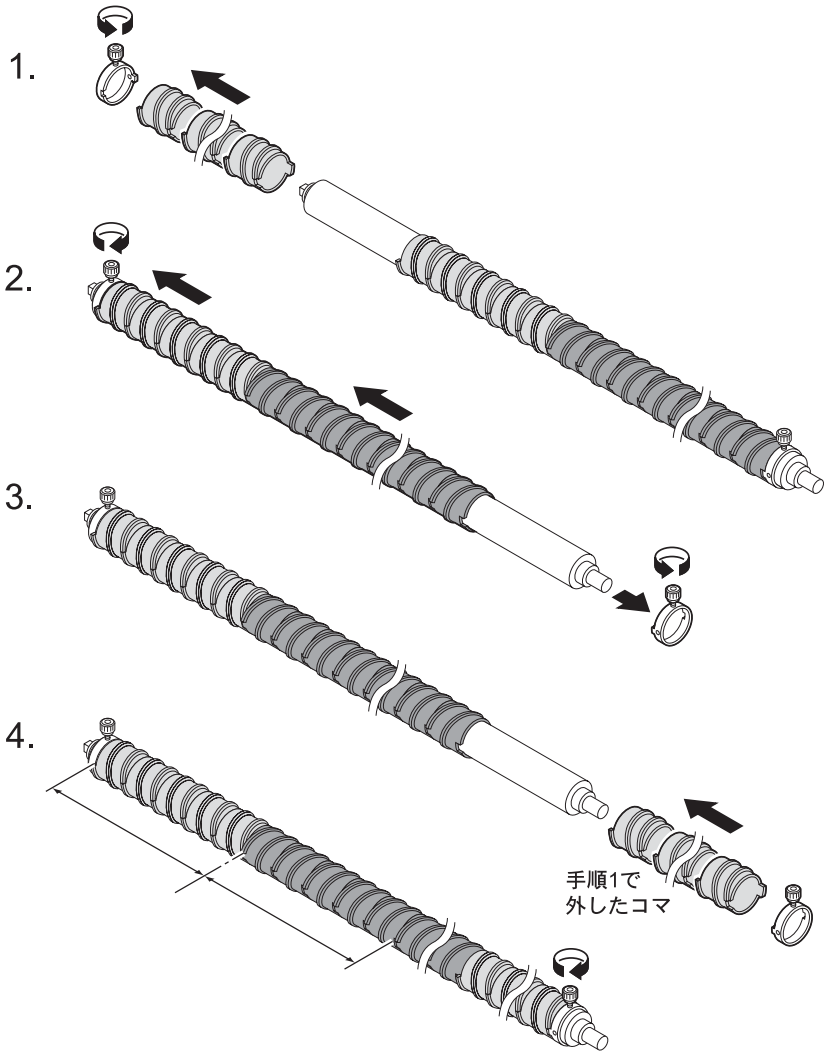
● 固定コマの位置入れ替えについては次ページを参照してください。



4. シワ取りローラを元に戻します。

コマ位置を移動する

下記のように、コマ位置を移動させます。



操作手順

1. 布の中央位置によって、ツマミネジを外し、左側の固定コマをいくつか外します。
2. 左側に固定コマを詰め、ツマミネジで固定します。その後、右側のツマミネジを外します。
3. 手順 1 で取り外した固定コマを右側から追加します。
4, ツマミネジで固定します。中央位置が変更になりました。

導布を使用して、布先端から作図する場合（ロール・リーフ）

布先端部を巻き取り装置にセットして作図をする場合、約2 mの布デッドスペースが生じます。布を有効に使用したい場合、導布をご使用ください。
導布は後処理を考慮して、使用している布と同じ幅のものをお使いください。ハンドミシンなどで簡単につなげるだけで、使用している布を有効に使用することができます。

- 作図後から巻き取り装置にセットするまでの一時的な導布であれば、使用している布と同一幅の導布は必要ありません。またハンドミシン等でつなげることも不要です。幅 100 ミリ程度の布を使用している布の中央に、クリップなどで固定するだけで導布の代わりとなります。

注意

★ 導布を使用せずに布先端から作図をする場合は、以下の点で注意してください。

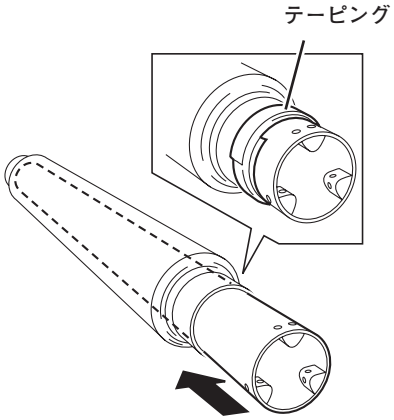
- 先端部は完全に地張りされていない場合があるため、布ジャムを引き起こす可能性があります。確実に地張りされているところから作図してください。
- 引き剥がしローラに布先端が届かない状態で、作図を開始した場合は「ヒキハガシエラー」が発生します。この場合は引き剥がしローラ後ろにある引き剥がしセンサ光軸ラインを手で遮光したり、透過させて、エラーを解除します。

紙管サポートパイプを使用して、ロール布をセットする

紙管は3インチを使用しているのに、紙管自体の肉厚が薄く、セットするとV字に折れてしまう場合は、添付の紙管サポートパイプをご使用します。その際は、ロールホルダー（小）を使用して、ロール布をセットします。

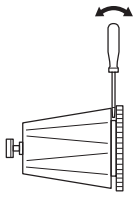
1. **3インチ紙管内にサポートパイプを通します。**

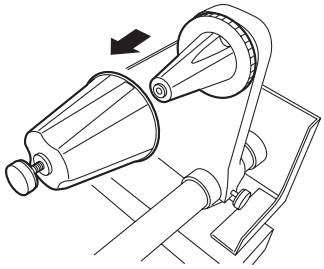
2. **飛び出したサポートパイプ端と紙管端とをテーピングで固定します。**



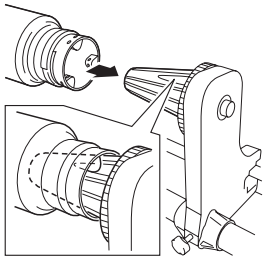
3. **ツマミネジをゆるめ、ロールホルダー（大）と一緒に外します。**

● ロールホルダー大と小の間がきつくなっています。マイナスドライバー等で隙間を作って、外してください。



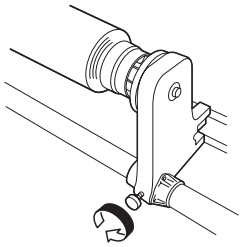


4. **ロールホルダー（小）の固定溝と、サポートパイプの突起を合わせます。**



5. **ロールホルダーを固定します。**

ロール位置を確認して、セットを終了します。



布をセットした後に

ヘッドの高さを調整する[ﾀｶｻﾁｮｳｾｲ]

使用する布の厚みにより、ヘッドの高さを調整する必要があります。
布の厚みに対し適正なヘッド高さでない場合、作図品質の低下、または布や本装置の破損になるなど大変危険です。前回使用した布と異なる布を使用する場合は、必ずヘッドの高さの確認をしてください。

● [タカサチョウセイ]は、布表面とヘッドの距離を 3mm に合わせる機能です。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION

FUNCTION
セッテイ　　＜ENT＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メンテナンス]を選びます。

FUNCTION
メンテナンス　　＜ENT＞

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

メンテナンス
ステーション　　＜ent＞

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[タカサチョウセイ]を選びます。

メンテナンス
タカサチョウセイ　　＜ent＞

6. 【ENTER】キーを２回押します。

キャリッジが移動します。

ENTER
２回

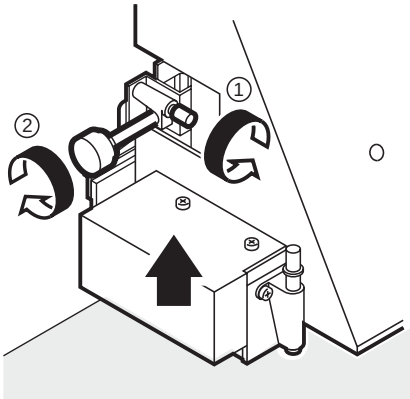
タカサチョウセイ
キャリッジアウト　　：ent

7. ステーションカバー、正面カバーを開けます。

8. キャリッジを調整しやすい位置まで、手で移動してください。

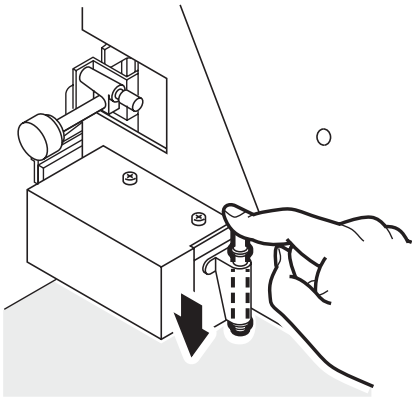
9.　ヘッドの高さ調整をします。

a.　サポートネジ①を緩め、高さ調整ネジ②を左側からみて時計回りにまわして、ヘッドを上に移動します。

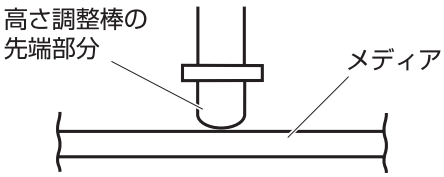


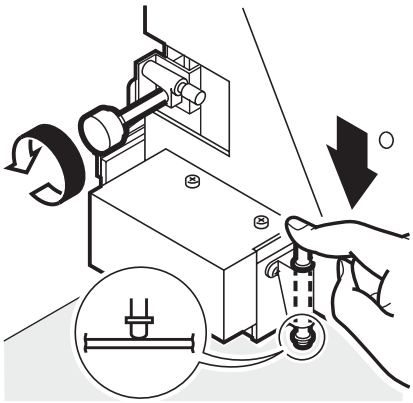
b.　ヘッド高さ調整棒を、右手で上から押します。ヘッド高さ調整棒を下に押しても動かない位置まで押し込みます。

> **注意**
> ★ このときに、高さ調整棒の先端が布表面に付いてしまう場合は、手順 9-a を実行して、ヘッドをさらに上に上げてください。

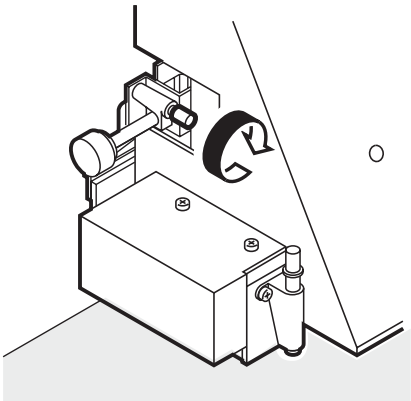


c.　ヘッド高さ調整ネジを左側から見て反時計回りにまわして、ヘッドを下に移動します。ヘッド高さ調整棒を押したままで、棒の先端部分が使用する布の表面に触れる高さまでヘッドを下げます。





d. ヘッド高さ調整が終わったら、サポートネジを締めます。



10. 正面カバーを締めます。

ステーションカバーも閉めます。

11. 【ENTER】キーを押します。

タカサチョウセイ
シュウリョウ　　：ｅｎｔ

ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊ーーーーーーーー

キャリッジが動いて、ステーションに移動します。
初期動作を実行し、初期動作の進行状況を表示します。

12. 初期動作後、布幅検出画面に戻ります。

メディア　セット
ロール＜　　＞リーフ

セットしてある布に従って、ジョグキーを選択してください。

13. 布幅検出後、ローカルモードになります。

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０ｍｍ

14. ドット位置補正を行います。
(P.2-39 を参照)

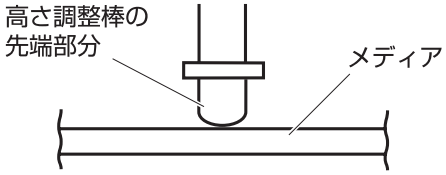
注 意

★ ヘッドギャップ（ヘッドと布とのギャップ）を変更すると、双方向時の作図点がずれます。ヘッド高さ調整をした際には必ずドット位置補正をしてください。(P.2-39 を参照)

ヘッド高さ調整をする場合のポイント

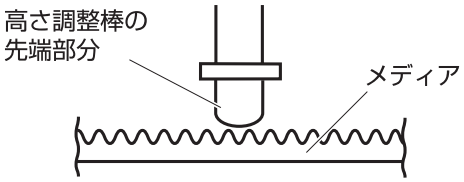
- ヘッド高さ調整は、高さ調整棒の先端が布の表面に触れる高さに調整すると、ヘッドと布印字面の距離が最適になります。
- ヘッドの高さを上げても、高さ調整棒の先端を布表面に触れる高さで調整した場合は、布印字面とヘッドの距離は変わりません。
- 布表面の毛羽立ちや布端エッジ部分のソリ、または作図中の布凹凸を避けたい場合は、ヘッドと布印字面の距離を広げて使用できます。
- ヘッドと布印字面の距離を広げた場合、印字品質は低下します。

適正位置



距離を広げた位置

毛羽立ちのある布や、ソリや凸凹がある布を使用する場合



注意

★ ヘッドギャップ（ヘッドと布とのギャップ）を変更すると、双方向時の作図点がずれます。ヘッド高さ調整をした際には必ずドット位置補正をしてください。（P.2-39 を参照）

ヘッドの高さ調整をした後に補正をする[ドットイチホセイ]

作図の往路と復路のインク落下点の位置を補正します。
ドット位置補正はヘッドの高さ調整をした後に必ず実行してください。
ヘッドの高さ調整は手作業で行いますので、適正位置（P.2-38 を参照）とは微妙にズレが生じます。ドット位置補正を実行して、適正な作図結果を得られるようにします。
ドット位置補正は、7パターンのテスト作図の「往路」と「復路」のインク落下点を比較して補正します。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION

FUNCTION
セッテイ　　＜ENT＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メンテナンス]を選びます。

FUNCTION
メンテナンス　　＜ENT＞

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

メンテナンス
ステーション　　＜ent＞

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ドットイチホセイ]を選びます。

メンテナンス
ドットイチホセイ　　＜ent＞

6. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

ドットイチホセイ
サクズ　　：ent

7. 再度、【ENTER】キーを押します。

ENTER

＊＊サクズチュウ＊＊
シバラクオマチクダサイ

ドット位置補正のテストパターン作図を開始します。テストパターンは7種類作図します。

8. 作図終了後、ビュー動作実行選択画面になります。

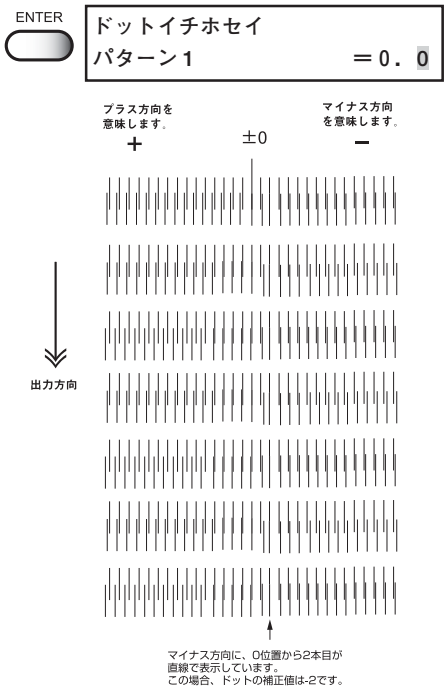
ENTER

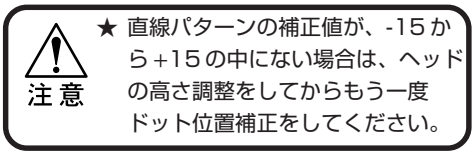
ドットイチホセイ
ビュー　　：ent

【ENTER】キーを押すと、メディアが見やすい位置まで移動します。
【END】キーを押すと、ビューを実行せず、次に進みます。

9. ジョグキー【▲】【▼】を押して、パターン１のドット位置補正をします。

出力した７パターンは、作図した順にパターン１から７と呼びます。
パターン１の適正なドット位置をジョグキーで選択します。
テストパターンの往路と復路が、１本の直線になっている位置を選びます。

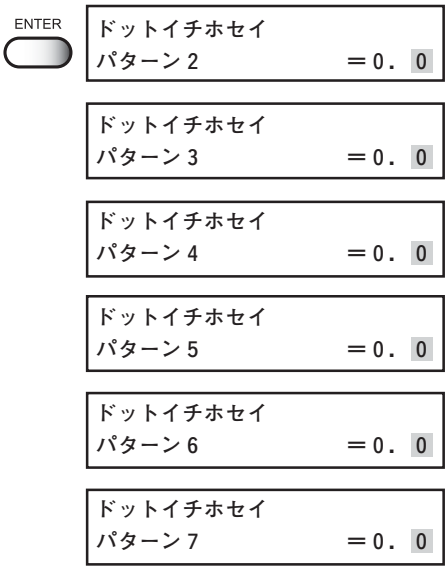




★ 直線パターンの補正値が、-15から+15の中にない場合は、ヘッドの高さ調整をしてからもう一度ドット位置補正をしてください。

● いったん数値を入力した後に、再度ドット位置補正を行う場合も補正をすることができます。

9. 【ENTER】キーを押します。

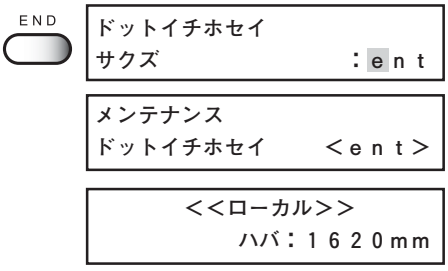


10. 手順８、手順９の操作を再実行し、続けてパターン２から７のドット位置補正をします。

各パターンの適正ドット位置を選択します。

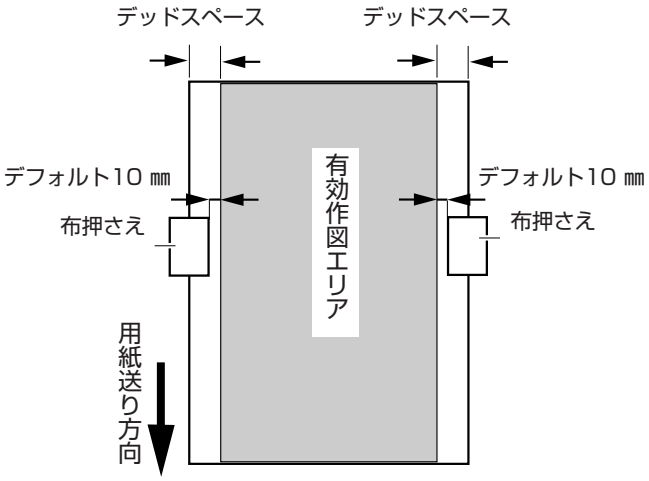
11. ドット位置補正を終了します。

[END]キーを２回押して、ローカルモードに戻ります。



使用する布の作図範囲を指定する（有効作図エリア）

本装置は、使用する布のサイズに関係なく、機構上作図できないエリアが有ります。
この作図不可のエリアを「デッドスペース」と呼びます。
使用する布のサイズから「デッドスペース」を差し引いた範囲を、布の「有効作図エリア」と呼びます。



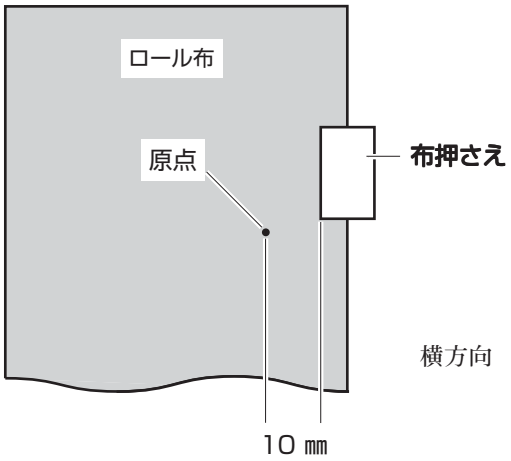
● 布の前後端のデッドスペースは、導布の使用により小さくすることもできます。

デッドスペースの変更

デッドスペースは変更することが可能です。
デッドスペースを変更して、有効作図エリアを変更してください。
デッドスペースの設定方法については、P.4-10 をお読みください。

作図原点を設定する

セットした布の上に、データの作図原点を設定します。
布をセットし、布幅検出が終了した後に本装置では下図の作図原点を自動的に設定します。



横方向　：右側布押さえの左端から 10mm の位置

作図原点の設定

作図エリアが広く、指定された原点以外の場所で作図する場合は、原点を再設定する必要があります。

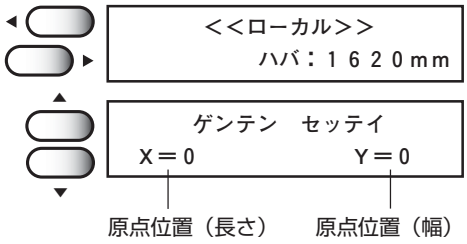
注 意

★［セッテイ］内のベルトセンジョウを ON にした場合は X 方向のジョグを行う際にベルトセンジョウも実行します。その場合は、ベルト洗浄エラーが発生するとジョグを実行できません。

操作手順

1. **布幅検出が終了した後に、ジョグキー【▲】【▼】【◀】【▶】を押して作図原点を設定する位置までキャリッジを動かします。**

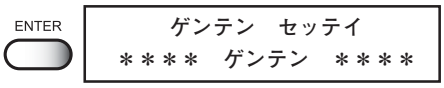
   移動すると、キャリッジに合わせて原点が変わります。キャリッジ移動による作図原点をディスプレイに表示します。



2. **作図原点を決定したら、【ENTER】キーを押します。**

   作図原点を変更しました。

   次回作図を開始する場合は、今回設定した位置を作図原点として作図を開始します。



インク吐出状態にカスレや抜けがあるかを確認する

テスト作図を実行する

テスト作図は、作図する前にヘッドのインク詰まりによる作図不良（テストパターンにカスレや抜け）がないか確認する機能です。

注意

★ テスト作図でカスレや抜けがある場合は、クリーニング機能を実行します。（P.2-45 を参照）

★ テストサクズを実行する場合は、布幅が 200mm 以上の布を使用してください。

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm
```

2. 布がセットされていることを確認します。

3. 【TEST】キーを押します。

```
テストサクズ
＜ＥＮＴ＞
```

4. 【ENTER】キーを押します。

```
＊＊　テストサクズ　＊＊
```

テスト作図を開始します。

5. 作図終了後、【ENTER】キーを押すと、作図結果を確認しやすい位置まで搬送ベルトが移動します。

```
テストサクズ
ビュー　　：ｅｎｔ
```

【END】キーを押すと、終了します。

6. テスト作図結果確認後、【ENTER】キーを押します。

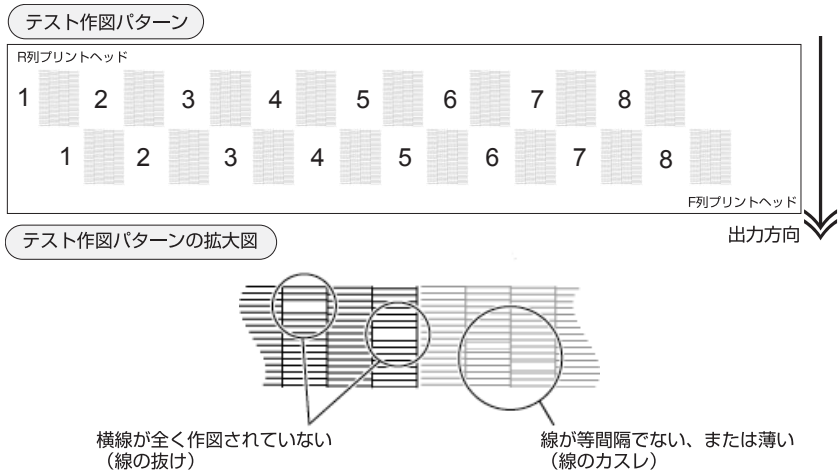
```
テストサクズ
シュウリョウ　　：ｅｎｔ
```

搬送ベルトが作図終了位置まで移動します。

```
<<ローカル>
ハバ：１６２０mm
```

テスト作図パターンの確認をする

テストパターンは、各インクのヘッドごとに作図します。テスト作図パターンを見て、クリーニングが必要なプリントヘッドを確認します。



クリーニングを実行する

テスト作図で作図不良がある場合は、クリーニング機能を実行してプリントヘッドのクリーニングをします。クリーニング後テスト作図を実行しても作図不良が直らない場合は、再度クリーニングをしてください。クリーニングは、テスト作図パターンが正常に作図するまで実行します。

ノーマル　：　作図抜けに使用します
ソフト　：　作図カスレに使用します
キョウリョク　：　作図抜けが多い場合に使用します

注意

★ 何度クリーニング機能を実行しても作図不良が改善されない場合は、ステーション内部のクリーニングをしてください。（P.3-11 ～参照）

操作手順

1. ローカルモードになっていることを確認します。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. 【CLEANING】キーを押します。

CLEANING

クリーニング
センタク　：１２３４５６７８

3. ジョグキー【◀】【▶】を押し、クリーニングを実行するヘッドを選択します。

クリーニング
センタク　：１２３４５６７８

4. ジョグキー【▲】【▼】を押し、クリーニングを実行するヘッドを表示させます。

クリーニングを実行しない場合は「ー」にします。

クリーニング
センタク　：１２ーー５６７８

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

クリーニング
タイプ　：ノーマル

6. ジョグキー【▲】【▼】を押して、クリーニングの方法を選択します。

[ノーマル]、[ソフト]、[キョウリョク]
ここでは、[ソフト]を選択します。

クリーニング
タイプ　：ソフト

7. 【ENTER】キーを押します。

クリーニングを開始します。進行状況の残り時間を２行目に表示します。

ENTER

クリーニングチュウ
００：００：００

クリーニングチュウ
シバラクオマチクダサイ

8. ローカルモードに戻ります。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

9. テスト作図を行い、ヘッドの状態を確認します。

作図する布をセットした後に

布の種類による送り量を補正する[ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ]

本装置は布を前面に少しずつ送り出しながら作画します。布の種類が変わると送り出し量の適正値も変わり、作図した画像に縞が入るなど綺麗に作図できない場合があります。このような布の種類による布送り量の補正をするために、テスト作図をして補正します。

操作手順

1. **ローカルモードになっていることを確認します。**

<<ローカル>>
ハバ：１６２０ｍｍ

2. **【FUNCTION】キーを押します。**

ＦＵＮＣＴＩＯＮ
セッテイ　＜ＥＮＴ＞

3. **【ENTER】キーを押します。**

セッテイ
センタク　：タイプ１

4. **[メディアホセイ]を選択して【ENTER】キーを押します。**

タイプ１
メディアホセイ　＜ｅｎｔ＞

作図待ち画面になります。

5. **【ENTER】キーを押します。**

タイプ１
サクズ　：Ｙ＝＊＊＊＊

ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図幅を設定することもできます。

6. **【ENTER】キーを押します。**

＊＊サクズチュウ＊＊
シバラクオマチクダサイ

メディア補正作図を開始します。

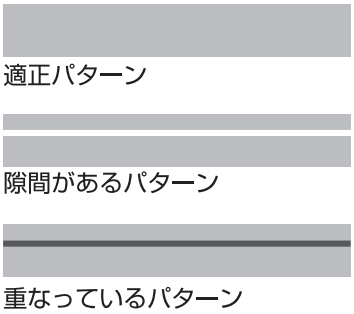
7. **作図終了後、ビュー動作実行選択画面になります。**

タイプ１
ビュー　：ｅｎｔ

【ENTER】キーを押すと、メディアが見やすい位置まで移動します。
【END】キーを押すと、ビューを実行せずに、次に進みます。

8. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、出力パターンから補正値を入力します。**

タイプ１
ホセイチ　＝　0



★作図結果が隙間のある場合
→マイナス値を入力。

★作図結果が重なっている場合
→プラス値を入力。

9. 【ENTER】キーを押します。

タイプ1
サクズ　　：Y＝＊＊＊＊

10. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカル モードまで戻ります。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

● 布の送り補正は、作図しながら補正量を変更することもできます（P.2-48 参照）。

作図中に送り量を補正する[ｵｸﾘﾎｾｲ]

同種の布であっても、糸の番手や織り方がわずかに違っていると、送り量の適正値が変わります。
この場合に、作図中の状態を確認しながら布の送り量を補正します。

注 意

★ 使用する布の種類や、作図データを変更する場合は、[ｵｸﾘﾎｾｲ]を必ず実行してください。
★ 本機能は、データ作図中でも操作できます。
実際に作図する布やデータの作図中の状態を確認しながら、補正値を入力することができます。

操作手順

注 意

★ 作図中の[ｵｸﾘﾎｾｲ]は、補正パターンを作図しません。作図データを確認しながら、補正値入力のみ入力操作します。

1. 【REMOTE】モードになっていることを確認します。

2. 【FUNCTION】キーを押すと、現在の補正値を確認できます。

<リモート>
タイプ１　　＊＊．＊ｍ

補正値が適正な場合や操作を中止する場合、【END】キーを押すと、リモート表示に戻ります。

3. 【ENTER】キーを押します。

オクリホセイ　　－２００
ホセイカイシ　　：ｅｎｔ

補正値の変更が可能になります。

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、補正値を変更します。

オクリホセイ　　－２００
ホセイチ　　＝　１００

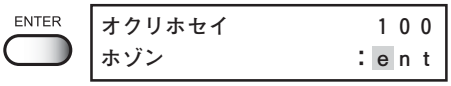
送り量は -500 ～ +500 までの補正値を設定することができます。
【END】キーを押すと、リモート表示に戻ります。
変更した補正値は無効になり、変更前の値になります。

● 画像データ作図中の場合、補正値を変更した時点で数値が反映されるため、作図をみながら微調整することができます。

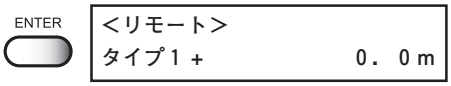
- ４パスの場合、４スキャン後、８パス作図の場合は、８スキャン後の結果で判断してください。
- 補正値の単位はローカルモード時の「ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ」と同じです。（⇒ P.2-46）
- 補正値は以下の動作でリセットされます。
  ・「ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ」の実行時。
  ・「ｾｯﾃｲﾘｾｯﾄ」の実行時

5.　【ENTER】キーを押します。

補正値の保存確認になります。



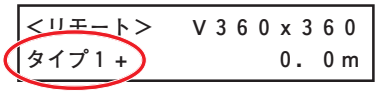
6.　【ENTER】キーを押すと、リモート表示に戻ります。



変更した補正値を保存します。補正値は電源をオフにした後も有効になります。

【END】キーを押すと、リモート表示に戻ります。変更した補正値は、電源をオフする時まで有効になります。

7.　オクリホセイにて、補正値（+）が存在する場合はタイプ表示の横に「+」を表示します。



補正値（-）が存在する場合はタイプ表示の横に「-」を表示します。

画像データを作図する

作図を開始する

作図の基本操作の説明をします。
作図条件の設定はプリンタ側でも可能ですが、ここではコンピュータ側で設定してあるデータをプリンタに送信して作図する方法について説明します。
プリンタ側での作図の設定は、「4章・応用機能の使い方」をお読みください。

操作手順

1. **本装置の電源をオンにします。**

2. **布をセットします。(P.2-5 参照)**

   ローカルモードになっていることを確認します。

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm
```

3. **【REMOTE】キーを押します。**

   リモートモードになります。

REMOTE

```
<リモート>　Ｖ３６０ｘ３６０
タイプ１　　　　　　　０．０ｍ
```

4. **コンピュータからデータを受信します。**

   作図データの作図設定を表示します。
   データの送信方法については、付属の出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

5. **作図を開始します。**

   作図を開始すると、作図した分の布長を表示します。

6. **作図が終了したら、【REMOTE】キーを押してローカルモードに戻します。**

REMOTE

```
<リモート>　Ｖ３６０ｘ３６０
ＡＬＬ／４Ｐ／Ｕ／１２．７ｍ
```

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm
```

●ディスプレイに表示する作図データ情報

交互表示

```
<リモート>　Ｖ３６０ｘ３６０
タイプ１＋　　　　＊＊．＊ｍ
```

↔

```
<リモート>Ｖ３６０ｘ３６０
ＡＬＬ／４Ｐ／Ｕ／＊＊．＊ｍ
```

解像度 360/540/720 DPI
作図モード V：Variable
作図モード N：Normal

作図終了した布長

作図方向 U:単方向 B:双方向

分割方式 2P : 2 パス ～ 16P : 16 パス
（P：常速　H：倍速）

作図中の「オクリホセイ」にて、補正値が存在する（＋）（－）

使用ヘッド例
ALL: FRONT 列と REAR 列の両方
FRON: FRONT 列
REAR: REAR 列

作図を中止する

作図を途中で中止する場合、キャリッジを止めて受信したデータを本装置から消去します。

操作手順

1. **コンピュータからデータを送信している場合、データ送信を止めます。**

2. **【REMOTE】キーを押して、作図を中止します。**

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

3. **【DATA CLEAR】キーを押します。**

受信したデータを消去します。

データクリア
＜ＥＮＴ＞

4. **【ENTER】キーを押します。**

データを消去した後、ローカルモードに戻ります。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

注 意

★ そのまま電源をオフにする場合、データを受信中、または未出力のデータが残っていると、吸水ローラが上がったままの状態になります。かならずデータクリアしてください。

作図が終了したら

作図を終了した後の処理操作（電源をオフにする）を説明します。

操作手順

1. **ローカルモードになっていることを確認します。**

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. **本装置の電源をオフにします。**

その他のセッティングについて

作図しながらベルト洗浄する

シホン（ジョーセット）、ボイル、オーガンジなどの薄い布は、インクが裏抜けし、搬送ベルト上に付着します。搬送ベルトインク付着部が地張り位置に移動した時点でもインクは乾燥していないため、新しく張られる布が汚れる可能性があります。これを回避するためにベルト洗浄を行います。

ベルト洗浄には２種類の方法があります。

●洗浄液タンクから水を循環させて行う ..... インクの裏抜けが少ない布を使用する場合

●水道直結で水を供給する ..... インクの裏抜けが多い布を使用する場合。お客様による水道直結の設定は出来ません。水道直結に変更する場合は弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。

注意

★ 工場出荷時は、洗浄タンクから循環させる方式で配管してあります。水道直結に変更する場合は弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。

● ベルト洗浄中に、布に点々とシミが出てきたら、ベルトワイパーユニットの寿命による洗浄水の拭き残しか、または吸水ローラーのクリーニングが必要です。ベルトワイパーユニットの交換または吸水ローラーのクリーニングをしてください。（→ P.3-6 参照、付録　別売品参照）

洗浄水を循環させて行う方法

注意

★ 汚れた洗浄水は廃インク同様、地域の条例に従って廃棄してください。

★ ベルト洗浄を循環式で行う場合、洗浄水はすぐに汚れてしまいます。一日に一度、必ず洗浄水の交換を行ってください。汚れが増し、インク、ホコリ、ゴミの含有比率が高くなると循環ポンプの機能低下、ウォッシュパイプの注水口詰まり等が発生し、洗浄効果が低下します。

1. 本装置の設定モードがローカルモードになっていることを確認します。

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm
```

2. 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION

```
ＦＵＮＣＴＩＯＮ
セッテイ　　＜ＥＮＴ＞
```

3. 【ENTER】キーを２回押します。

ENTER
２回

```
タイプ１
メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ベルトセンジョウ]を選びます。

タイプ１
ベルトセンジョウ　＜ｅｎｔ＞

5. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
ベルトセンジョウ　：ＯＦＦ

6. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ベルト洗浄の設定[OFF]・[ON]を選択します。

ここでは、[ON]を選択します。

タイプ１
ベルトセンジョウ　：ＯＮ

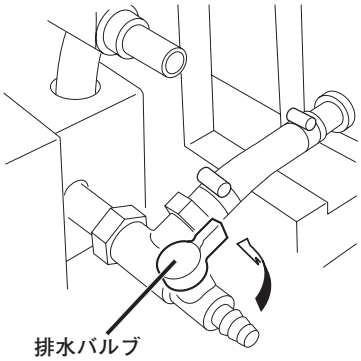
7. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
ベルトセンジョウ　＜ｅｎｔ＞

8. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０mm

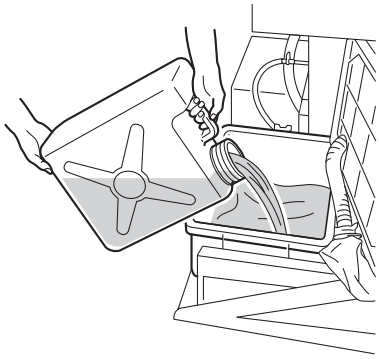
9. 洗浄タンク排水バルブを閉じます。



10. 洗浄液タンクに水を約２０リットル入れます。

注意

★ 循環式でベルト洗浄を行う場合、毎日洗浄水を交換してください。（Ｐ.3-3 参照）

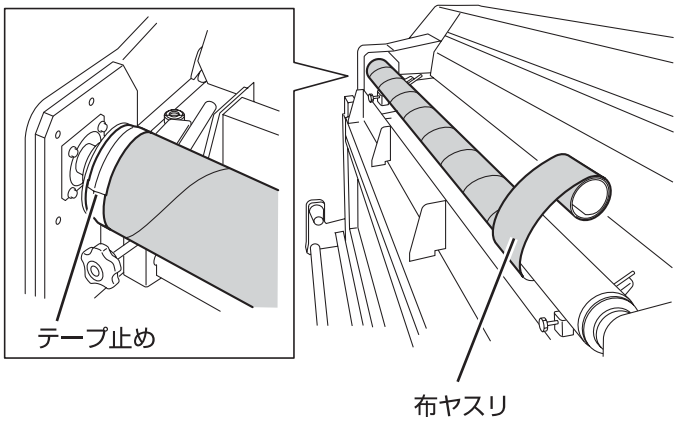


搬送ベルトからの布の引き剥がしがうまくいかない

シルクの織りが密な生地やオーガンジは、引き剥しローラ表面でスリップが発生する場合があります。また印字率が高く、インクが裏まで抜けている場合は、生地裏を汚してしまう可能性があります。
このような場合、添付の布ヤスリ＃150を引き剥しローラ表面にらせん状に巻きつけ、両端をテープ止めしてから作図してください。

注意

★ 布ヤスリ＃150を引き剥しローラに巻きつけて使用した場合、布によっては引っかかりが発生し、裏地を傷つけてしまう可能性があります。事前にご確認ください。



インク残量が少なくなったら

インクの補充は新しいインクカートリッジを装填して行います。インクカートリッジの交換をしないと、インク残量がなくなった場合に作図が途中で停止します。インクの残量低下のメッセージを表示したら、速やかに新しいインクカートリッジを装填してください。

1）インクカートリッジ内のインクが無くなった場合

表示したカートリッジのインクが無くなりました。インクステーションに新しいインクカートリッジを装填してください。作図中でも表示され、装填可能です。

```
カートリッジ　インクエンド
－－－4－－－－－－B－－－－－－－
```

2）使用中、インク残量が少なくなった場合

充填したインク残量が減っています。インクステーションに、表示したカートリッジ番号の新しいインクカートリッジを装填してください。

```
インクニアエンド
－－－－－－6－8－－－－－－F－H
```

3）使用中、インクが全く無くなった場合

表示したインクが無くなりました。インクステーションに新しいインクカートリッジを装填してください。装填しない場合は、作図を停止します。

```
インクエンド
１２－－５６－－ＡＢ－－ＥＦ－－
```

操作手順

1. 作図中に、メッセージを表示します。

   [カートリッジエンド]または[インクニアエンド] の表示では、作図は停止しません。作図が終了したら、手順2に進んでください。
   [インクエンド]の表示では、作図が一時停止し、ローカルモードになります。手順2に進んでください。

2. 新しいインクと交換します。

   スロット番号が表示しているインクカートリッジを引き抜いて、新しいインクカートリッジを装填します。
   インクステーションカバーを閉め、作図を開始します。

電源のオフ

電源をオフにするときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないか、ヘッドがキャッピングステーションにあるか、また吸水ローラーが下がっているかを確認します。
作図中に電源をオフした場合、ヘッドがキャッピングステーションに格納されない、または吸水ローラーが下がりません。またキャッピングしていない状態で長時間放置するとノズル詰まりの原因になります。
吸水ローラーが下がらないまま長時間放置すると、吸水ローラーやベルトワイパーユニットが搬送ベルトに張り付いてしまい、吸水ローラー表面または搬送ベルト表面を傷つけてしまう原因になります。

注意

★ LCD 表示がジョグモード（原点設定画面 P.2-42 参照）になっている場合は、必ずローカルモードにしてから、電源をオフにしてください。
★ キャッピングしていないまま電源をオフした場合は、再度電源をオンにしてください。ヘッドがキャッピングステーションに戻り、ヘッドの乾燥を防ぎます。
★ データを受信中、または未出力のデータが残っている場合は、吸水ローラーが上がったままの状態になります。かならずデータクリアしてから、電源をオフにしてください。

操作手順

1. データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認します。

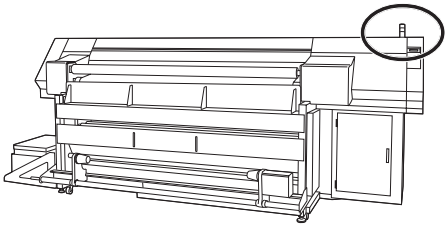
注意

★ LCD 表示がジョグモード（原点設定画面 P.2-42 参照）になっている場合は、ローカルモードにしてください。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. 表示灯の緑ランプが消えていることを確認します。

● 緑ランプがついている場合は、データクリアをしてください。（P.2-51 参照）

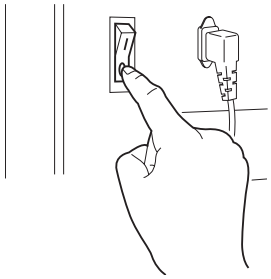


3. 接続してあるコンピュータなどの電源をオフにします。

4. 本装置の電源をオフにします。

5. ヒーターの電源をオフにします。

6. ブロワの電源をオフにします。



3章
日常のお手入れ

日常行うお手入れについて説明します。

本章の内容

普段のお手入れ *3-2*
ステーション内部のクリーニング *3-11*
Y メインガイドのクリーニング[ﾒｲﾝｶﾞｲﾄﾞ] *3-29*
ANRS チェックメディアの交換[ANRﾕﾆｯﾄ] *3-30*
搬送ベルトのクリーニング[ﾍﾞﾙﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ] *3-34*

普段のお手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は

注意

★ 電源を必ず切ってください。（P.2-56 参照）
★ 循環式でベルト洗浄をする場合、洗浄タンク内の汚れた洗浄水を新しい水と交換し、配管内を洗浄した上、電源をオフにしてください。

お手入れ上のご注意

注意

★ 本装置を、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
★ 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
★ お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
★ ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
★ 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プロッタメカニズムが故障する恐れがあります。
★ 特に捺染顔料（TPig）インクをご使用の場合、こまめなお手入れが必要です。

外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、水または水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に含ませ、よくしぼってから拭き取ってください。

洗浄水タンク内のクリーニング

洗浄水タンク内の水、フィルターのクリーニングは、こまめに行ってください。

洗浄水は一定時間使用すると、自然蒸発などにより、徐々に減少していきます。洗浄水が少なくなって来た場合は、下記のワーニングメッセージを表示します。

センジョウスイ　タンク センジョウスイヲカクニン

洗浄水タンクの水交換

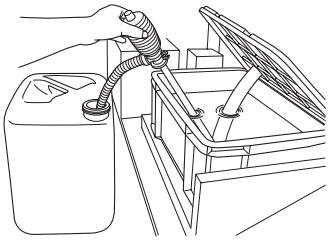
循環式でベルト洗浄をしている場合、毎日必ず洗浄水を交換してください。
汚れた水は、付属のハンドポンプを使用して、取りだしてください。
そして新しい水をタンクに入れてください。

注意

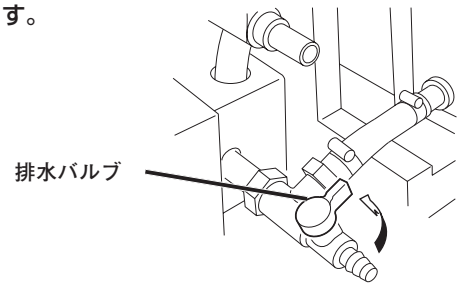
★ 循環式でベルト洗浄している場合、毎日洗浄水を交換してください。
★ 廃洗浄水は、使用している地域の条例に従って処分してください。

操作手順

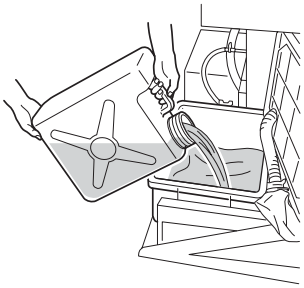
1. ハンドポンプで汚れた水を別のタンクに移します。



2. 排水バルブが締まっていることを確認します。



3. 洗浄液タンクに水を約２０リットル入れます。



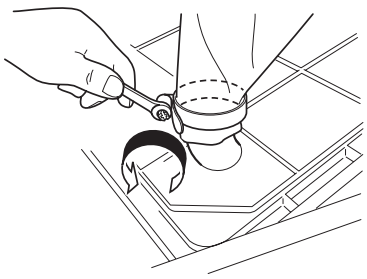
洗浄水フィルターの交換とクリーニング

また、フィルターが目詰まりを起こしている場合、フィルターのクリーニングまたは交換を行ってください。一定時間使用すると、洗浄水フィルタ交換のワーニングメッセージを表示します。

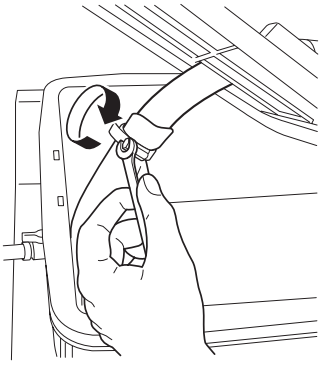
● ワーニングの解除は P.5-22 のセンジョウフィルタリセットを実行します。

センジョウスイ　タンク フィルタヲカクニンシテクダサイ

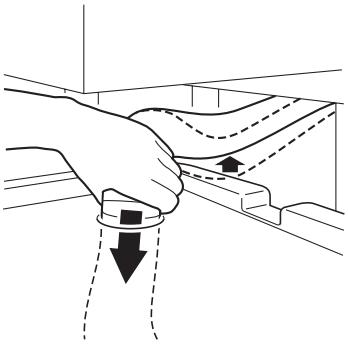
1. タンクを開け、固定ネジを緩めます。



2. 新しいフィルタに交換した後、固定ネジを締めます。



3. たるみのないように、ホースをタンク内に収めます。



4. ワーニングメッセージを表示している場合は、洗浄水フィルターのカウンターをリセットします。

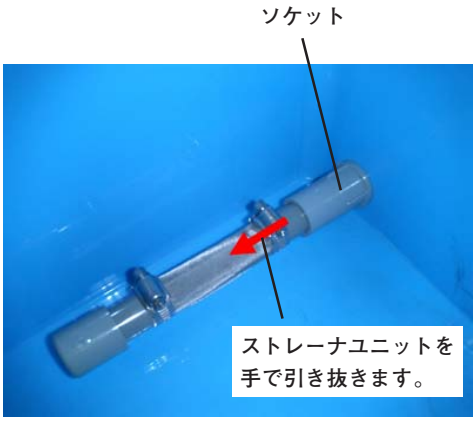
「カウンターをリセットする」P.5-22 参照

洗浄水ストレーナ（メッシュフィルター）のクリーニング

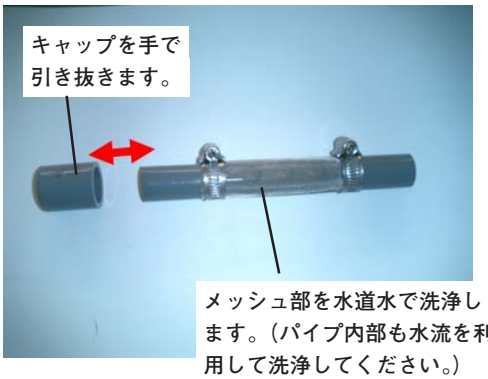
洗浄水フィルターの交換と同時にストレーナ（メッシュフィルター）のクリーニングを行ってください。

1. タンクを開け、洗浄水がある場合は、すべて抜き取ります。

2. ストレーナユニットをソケットから引き抜きます。



3. ストレーナユニットのキャップを抜き取ります。



4. メッシュフィルター部を水道水でメッシュの目詰まりがなくなるまで、洗います。（パイプ内部も水流を利用して洗浄してください。）
   ※メッシュフィルター単体までの分解洗浄は必要ありません。

メッシュ部を水道水で洗浄します。（パイプ内部も水流を利用して洗浄してください。）

5. 分解と逆の順序でストレーナユニットをタンクに取り付けます。

作図中に、布に点々とシミが出てきたら

作図中に、布に点々とシミが出てきたら、洗浄水の拭き残しによるものです。ベルトワイパーユニットの交換または吸水ローラーをクリーニングしてください。

注 意

★ 下記の様な症状が出た場合、搬送ベルトの表面が凹凸になっています。
速やかに地張り剤を塗り替える必要があります。（P .5-4 参照）
●地張り剤塗布ムラ
●糸くず、大きなゴミがベルト洗浄をしていても取れない

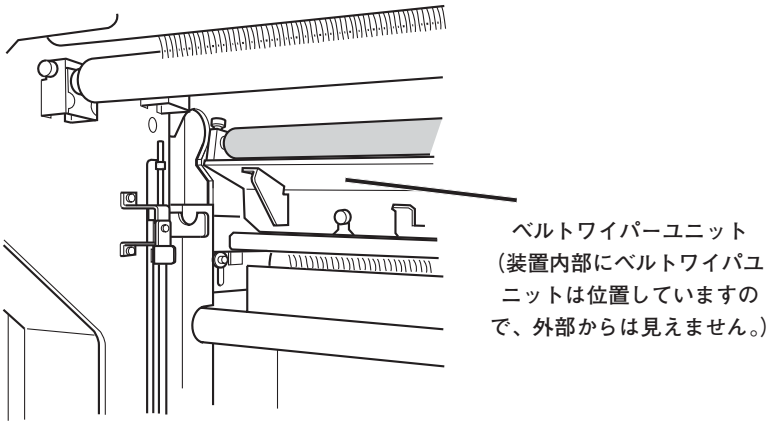
★ ゴム手袋を着用して、交換してください。

ベルトワイパーユニットの交換

作図中に、布に点々とシミが出てきたら、洗浄水の拭き残しによるものです。
ベルトワイパーユニットを交換する必要があります。

注 意

★ ベルトワイパーユニットを交換する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。



吸水ローラーのクリーニング

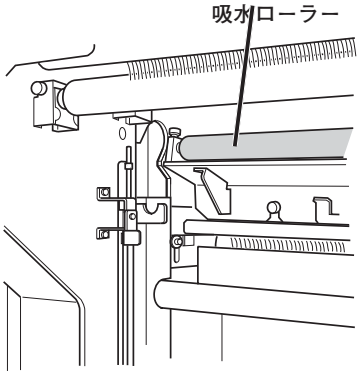
ベルト洗浄しながら一定時間使用することで、吸水ローラーが洗浄水を吸収できなくなってきます。良質の作図品質を保つために、吸水ローラーのクリーニングを行ってください。

- 吸水ローラーのクリーニング目安時期を設定すると、クリーニング時期を気にせず作業をすることができます。（「メンテナンス目安時期を設定する［ｶｳﾝﾀｰﾘﾐｯﾄ］」の設定 P.4-12 参照）
- ワーニングの解除は P.5-22 のキュウスイローラーリセットを実行します。

キュウスイローラー
ローラーヲカクニンシテクダサイ

操作手順

1. 本装置の電源をオフにします。

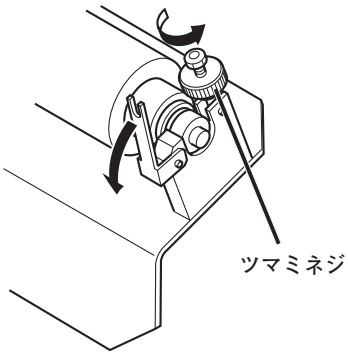


注意
★ 洗浄水で床が汚れないように、床にウェス等の紙を敷いてから作業してください。

★ ゴム手袋を着用して、クリーニングしてください。

2. 吸水ローラー左右端にあるツマミネジをゆるめ、軸端のフタを開けます。

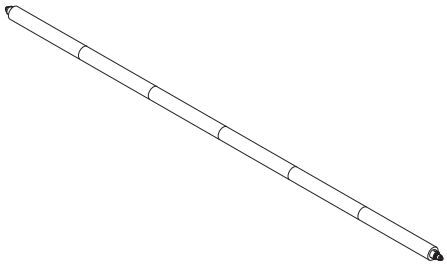
吸水ローラーは本装置背面中側にあります。



3. 吸水ローラーを本装置から外します。

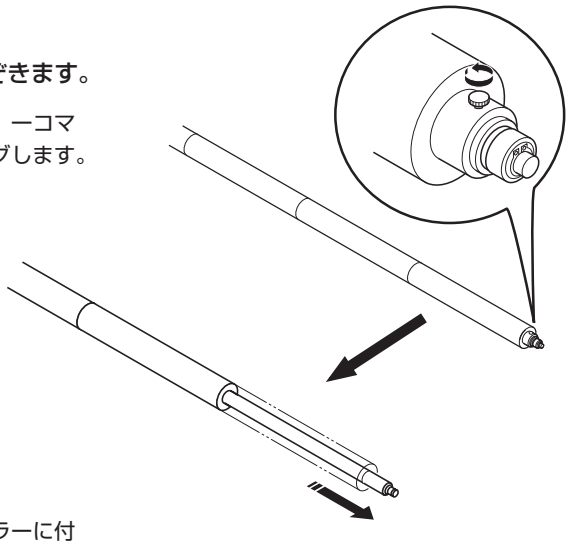
注意
★ 吸水ローラーを外すときは、２人以上で外してください。

- 作業の邪魔にならないように、繰り出しテンションバーがストッパーにかかっている場合は、ストッパーから外します。



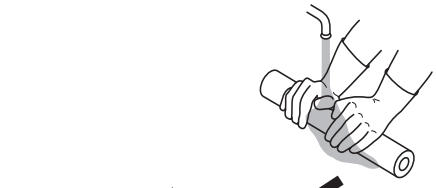
4.　吸水ローラーについた水を取りのぞきます。

a. 両端のツマミネジを外し、一コマずつ外して、クリーニングします。



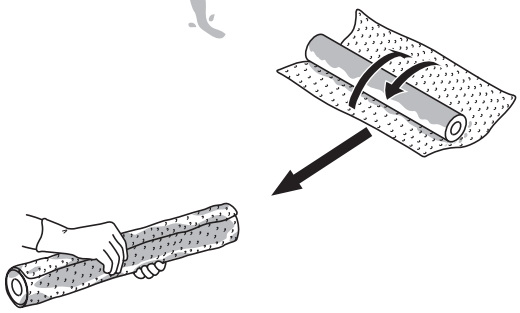
b. 水道水などに付け、ローラーに付着した汚れを落とします。

> ⚠ 注意
> ★スポンジはねじらないようにしてください。



c. 汚れが落ちたら、ベンコットなどのウェスなどにくるみ、水を吸い取ります。

> ⚠ 注意
> ★スポンジはねじらないようにしてください。



d. 良く乾かしてから元に戻します。

5.　吸水ローラーを元に戻します。

6.　ワーニングメッセージを表示している場合は、吸水ローラーのカウンターをリセットします。

「カウンターをリセットする」P.5-22 参照

廃インクタンクのインクが溜まったら

ヘッドのクリーニングなどで使用したインクは、廃インクタンクに溜まります。
廃インクがたまったら、速やかに廃インクタンク内のインクを処分してください。

- 予備の廃インクタンクをお求めの場合は、お近くの販売店、弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃インクを移すポリエチレンタンクをご用意ください。

★ インクを排出中の場合は、排出が終了してから作業を行ってください。

★ ゴム手袋を着用して、交換してください。

操作手順

1. 廃インクタンクからホースを引き抜きます。

注意

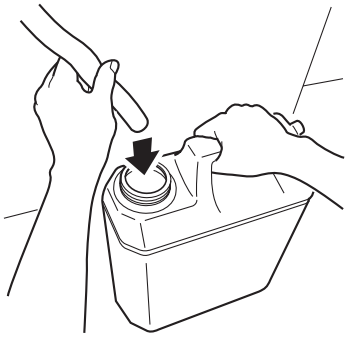
★ ホースを引き出す際に、廃インクを飛ばさないように、ホースの口をティッシュなどで押さえながら、ゆっくり引き出してください。

★ インクで床を汚さないように、下に紙を敷いてから廃インクタンクを交換してください。

2. 廃インクを別のポリエチレンタンクに移します。

★ 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

3. 空にした廃インクタンクを再度セットします。



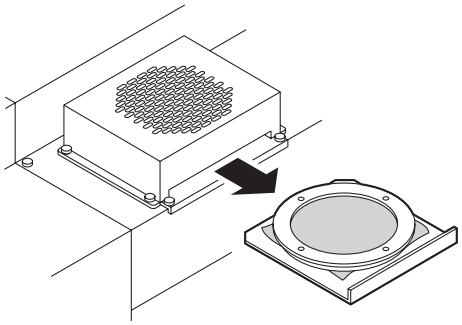
ミストファンフィルターのお手入れ

本装置の背面側には、左右 2 カ所にミストファンフィルターが付いています。
インクやホコリ付着によって目詰まりが始まっている場合は、ミストファンフィルターを交換してください。交換したミストファンフィルターは水洗いし、再使用できます。

● ミストファンフィルターは別売品です。交換する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

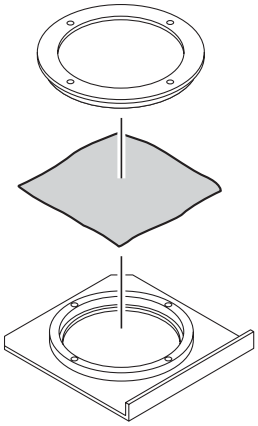
交換方法

1. **左右のミストファンフィルターユニットからフィルターホルダーを引き抜き、取り外します。**

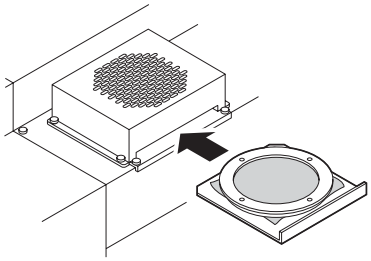


2. **フィルターホルダーから古いフィルターを取り外し、新しいミストファンフィルターと交換します。**

   フィルターは、全周をはさみこみ固定します。



3. **フィルターホルダーをフィルターユニットに取り付けます。**



ステーション内部のクリーニング

キャリッジを動かし、インクステーションのメンテナンスをするために、2種類のキャリッジ移動があります。
クリーニング機能（P.2-45を参照）を実行しても、テスト作図のカスレが直らない場合や、消耗品の交換など長期のお手入れとしてステーション内部のメンテナンスをします。

注意

★ キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。
キャリッジは操作キーを使用して動かします。

★ クリーニングの際には手袋を装着して行ってください。

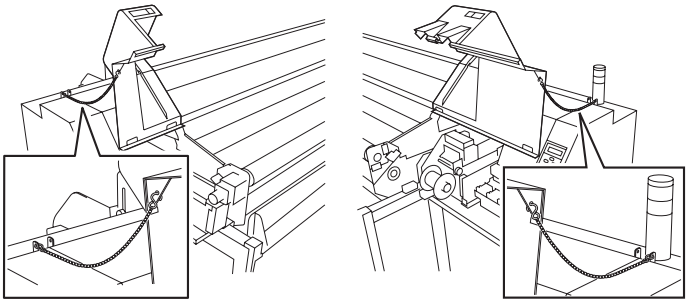
★ 特に捺染顔料（TPig）インクをご使用の場合、インクが乾きやすく、ノズル抜け、曲がりが発生しやすくなります。こまめなクリーニングを推奨します。

ステーション内部清掃の種類		
ステーション	キャリッジアウト	ワイパ、ワイパ軸、インクキャップ周りのクリーニングをします。
	ワイパコウカン	ワイパを交換します。ワイパ交換の時期を本装置はお知らせします。ワイパ交換のメッセージを表示したら、ワイパを交換してください。
	フラッシングボックス	フラッシングボックス内の廃インクを捨てます。フラッシングボックスおよびフィルタを水洗いしてください。
ノズルセンジョウ	クリーニングおよびインクジュウテンでノズルの抜けが復旧できない場合に実行します。	
ハイロセンジョウ	キャッピングより下部の廃路内にたまっているゴミ、または固まっているインクを洗浄します。	
ホカンセンジョウ	長期間本装置を使用せずに保管する場合、保管する前に、ノズルセンジョウ、ハイロセンジョウを実行します。	
キャリッジ	ヘッドの汚れ有無を確認します。 ノズル面のクリーニングをします。 キャリッジ下面クリーニングは綿棒を使って行います。	

ステーションカバーの開閉について

注 意

★ ステーションカバーを開けて作業する場合、必ずチェーンを掛けてください。ステーションカバーが閉まり、思わぬケガをする原因になります。



ステーションカバーL側　　ステーションカバーR側

ワイパの定期的なお手入れ

ワイパのクリーニング

ワイパは、ヘッドクリーニングに使用しています。使用しているとインクとゴミで汚れてきます。定期的にワイパをクリーニングしてください。

注 意

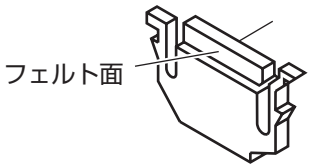
ワイパ取り扱い上のご注意

★ 新しいワイパのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。

★ ワイパは、２個同時にクリーニングしてください。

★ ワイパは、前側面がフェルトで、後側面がゴムになっています。フェルト面は、綿棒でこすらないで押し当てるようにしてゴミを取り除いてください。フェルト面をこすると、毛羽だってノズル詰まりの原因になります。ゴム面は、綿棒でインクを拭き取ってください。

★ 本機能を実行するとキャリッジがキャッピングステーションから出てきます。そのままの状態で長時間放置しておくとノズル詰まりの原因になります。ワイパ交換、キャップのクリーニングが終了したら、速やかに【ENTER】キーを押してキャリッジをキャッピングステーションに戻してください。



● ワイパを２セット用意していただき、一日の出力が終了した時点でワイパ交換を行うと、作図品質も安定し、ワイパも長持ちします。

● 外したワイパは水につけておき、軽く押して、しみこんだインクを出します。洗浄後は自然乾燥させ、翌日に使用できます。

操作手順

1. ローカルモードにします。

<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm

2. 【FUNCTION】キーを押します。

FUNCTION

FUNCTION
セッテイ　　＜ENT＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メンテナンス] を選びます。

FUNCTION
メンテナンス　　＜ENT＞

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

メンテナンス
ステーション　　＜ent＞

5. [ステーション]を選択し、【ENTER】キーを押します。

ENTER

ステーション　メンテナンス
メンテ　　：キャリッジアウト

6. [キャリッジアウト]を選択し、【ENTER】キーを押します。

ENTER

ステーション　メンテナンス
メンテ　　：キャリッジアウト

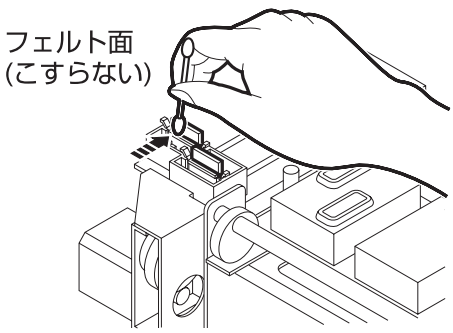
キャリッジが動いて、搬送ベルト上まで移動します。

7. ステーションカバーＲを開けます。

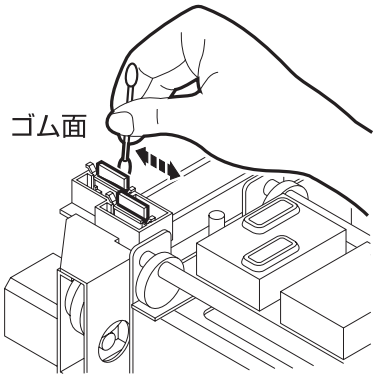
注意
★ カバーにチェーンを掛けてください。(P.3-11 参照)

8. キャッピングステーション内のワイパをクリーニングします。

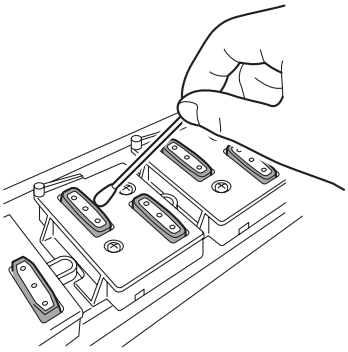
フェルト面：



ゴム面：



9. キャッピングステーション内のキャッピング周りのゴムをクリーニングします。



10. ステーションカバーＲを閉めた後に、【ENTER】キーを押します。

```
キャリッジアウト
シュウリョウ              ：ｅｎｔ
```

11. 布幅検出画面に戻ります。

```
        ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－－
```

```
        メディアセット
ロール＜                ＞リーフ
```

ワイパ軸クリーニングのメッセージを表示したら[ｷｬﾘｯｼﾞｱｳﾄ]

[ワイパジククリーニング]のエラーメッセージは、ワイパ動作を一定の回数実行すると表示します。メッセージが表示された場合は、速やかにワイパ軸をクリーニングしてください。

```
ワイパ
ワイパジククリーニング
```

ワイパ軸が極度に汚れていると、ワイパの動作不良によりエラーを表示する場合があります。ワイパは、ヘッドのクリーニングを実行すると動作します。なお、クリーニングのタイプによってワイパ動作の回数が異なります。

注意

★ ワイパ交換の際もワイパ軸をクリーニングしてください。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. [ステーション]を選択し、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション  メンテナンス
メンテ        :キャリッジアウト
```

4. [キャリッジアウト]を選択し、【ENTER】キーを押します。

   キャリッジが動いて、搬送ベルト上まで移動します。

ENTER

```
ステーション  メンテナンス
メンテ        :キャリッジアウト
```

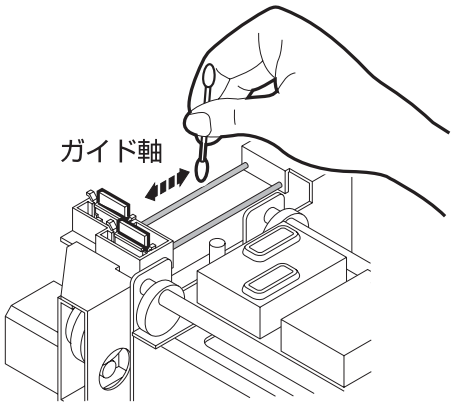
5. ステーションカバーＲを開けます。

注意

★ カバーにチェーンを掛けてください。
(P.3-11 参照)

6. ワイパのガイド軸を綿棒、または布等でクリーニングします。

（汚れが落ちにくい場合は、綿棒または布等を水で湿らせてクリーニングします。）



注意

★ ワイパのガイド軸が極度に汚れていると、ワイパの動作不良によりエラーを表示する場合があります。

7. ステーションカバーＲを閉めた後に、【ENTER】キーを押します。

キャリッジアウト
シュウリョウ　　：ｅｎｔ

ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－

8. 布幅検出画面に戻ります。

メディアセット
ロール＜　　＞リーフ

ワイパ交換のメッセージを表示したら[ﾜｲﾊﾟｺｳｶﾝ]

ワイパは消耗品です。ヘッドクリーニングに使用しているとワイパがインクやゴミで汚れてきます。ワイパ交換の表示が出たら、速やかにワイパ交換をしてください。
同時にスライダ下面に付着したインクをクリーニングします。

● クリーニングワイパは、別売品です。お近くの販売店または弊社営業所でお求めください。

ワイパ交換のメッセージ

本装置ではワイパを使用した回数をカウントし、ワイパ交換時期をお知らせします。ワイパ交換のメッセージを表示したらワイパを交換して、スライダ下面に付着したインクをクリーニングしてください。

注意

★ ワイパ交換のメッセージは、作図などの操作中や電源を入れた際に表示します。メッセージを表示したら、新しいワイパと交換してください。ワイパを交換しない場合は、クリーニングを実行しても吐出不良が改善されません。

```
ワイパ
ワイパヲコウカンシテクダサイ
```

★ ワイパを交換する以外は、[ワイパコウカン]を選択しないでください。本装置内部で管理しているワイパ使用回数がリセットしてしまいます。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
(P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. [ステーション]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション   メンテナンス
メンテ         :キャリッジアウト
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ワイパコウカン]を選びます。

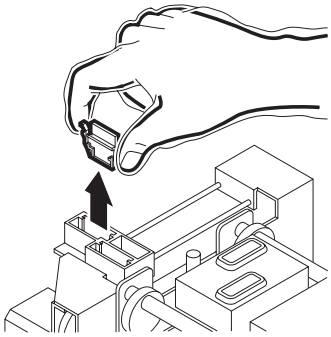
```
ステーション   メンテナンス
メンテ         :ワイパコウカン
```

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

キャリッジが動いて、搬送ベルト上まで移動します。

6. ステーションカバーRを開けて、ワイパを交換します。

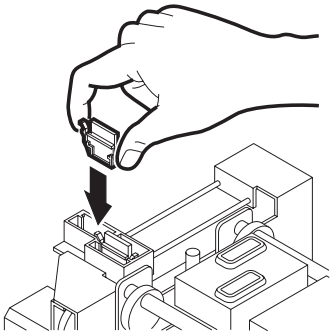


> 注意
> ★ カバーにチェーンを掛けてください。（P.3-11 参照）

7. 両端の突起を持ってワイパを引き抜きます。

ワイパクリーニングキットに付属している手袋をすると、手が汚れません。

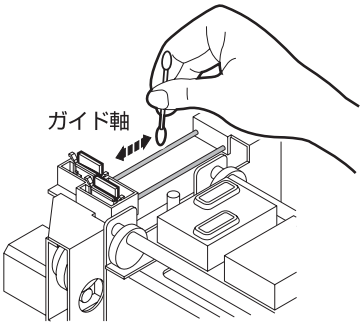
8. 両端の突起を持って新しいワイパを差し込みます。



> 注意
> ★ 新しいワイパのゴム部分には触れないでください。ノズル詰まりの原因になります。
> ★ ワイパのフェルト面が前側になるように差し込んでください。

9. ワイパのガイド軸を綿棒、または布等でクリーニングします。

（汚れが落ちにくい場合は、綿棒または布等を水で湿らせてクリーニングします。）



> 注意
> ★ ワイパのガイド軸が極度に汚れていると、ワイパの動作不良によりエラーを表示する場合があります。

10. ステーションカバーRを閉めた後に、【ENTER】キーを押します。

```
ワイパコウカン
シュウリョウ          ：ｅｎｔ
```

11. 布幅検出画面に戻ります。

```
ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－
```

```
メディアセット
ロール＜            ＞リーフ
```

ノズルの抜けが復旧できない場合［ﾉｽﾞﾙｾﾝｼﾞｮｳ］

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
(P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. [ステーション]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション　メンテナンス
メンテ          :キャリッジアウト
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ノズルセンジョウ] を選びます。

```
ステーション　メンテナンス
メンテ          :ノズルセンジョウ
```

5. 【ENTER】キーを押してオペレーションを開始します。

ENTER

```
ワイパ　クリーニング
シュウリョウ            :ent
```

```
センジョウエキヲ　ミタス
シュウリョウ            :ent
```

Yバーが最上点に移動し、テーブルが奥に移動します。

ワイパが手前に移動し、キャリッジがメンテナンス位置まで移動します。

6. スポイトでキャップがいっぱいになるまで洗浄液を垂らします。

7. 【ENTER】キーを押して放置時間設定にします。

```
ノズルセンジョウ
ホウチ　ジカン          :1min
```

8. ジョグキー【▲】【▼】を押して、放置時間を設定します。(1 ～ 99 分)

ENTER

```
        ショキカチュウ
********----------
```

ヘッドがキャッピングをしながら、洗浄液できれいにする放置時間を設定します。

```
        ホウチ　チュウ
            00:00:00
```

9. 【ENTER】キーを押して初期化します。

初期化動作を実行し、ヘッドをキャッピングします。

放置の進行状態を表示します。

10. 【END】キーを押して放置動作を終了します。

設定時間が経過したら、放置動作を終了します。

11. クリーニング動作を実行します。

クリーニングの進行状態を表示します。

ローカルモードになります。

クリーニング　チュウ
００：００：００

<<ローカル>>

キャッピングより下部の廃路洗浄［ﾊｲﾛｾﾝｼﾞｮｳ］

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
(P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          ＜ENT＞
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          ＜ent＞
```

3. [ステーション]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション　メンテナンス
メンテ        ：キャリッジアウト
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ハイロセンジョウ］を選びます。

```
ステーション　メンテナンス
メンテ        ：ハイロ　センジョウ
```

5. 【ENTER】キーを押してオペレーションを開始します。

Yバーが最上点に移動し、テーブルが奥に移動します。

ワイパが手前に移動し、キャリッジがメンテナンス位置まで移動します。

空吸引動作を開始します。
吸引動作が 10 秒、吸引停止が 10 秒をそれぞれ交互に交互に動作し続けます。

6. スポイトでキャップに洗浄液を垂らします。

インク廃路がきれいになるまで繰り返します。

7. 【ENTER】キーを押して動作を終了し、空吸引を 30 秒実行します。

ENTER

```
ハイロ　センジョウ
シュウリョウ          ：ent
```

8. 初期化します。

ローカルモードになります。

ENTER

```
ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－
```

```
＜＜ローカル＞＞
```

長期間使用しなくなる場合 【ﾎｶﾝｾﾝｼﾞｮｳ】

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
(P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. [ステーション]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション  メンテナンス
メンテ        :キャリッジアウト
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ホカンセンジョウ]を選びます。

```
ステーション  メンテナンス
メンテ        :ホカンセンジョウ
```

5. 【ENTER】キーを押してオペレーションを開始します。

ENTER

```
ワイパ  クリーニング
シュウリョウ          :ent
```

ノズル洗浄動作を開始します。

Yバーが最上点に移動し、テーブルが奥に移動します。

ワイパが手前に移動し、キャリッジがメンテナンス位置まで移動します。

6. スポイトでキャップがいっぱいになるまで洗浄液を垂らします。

```
センジョウエキヲ  ミタス
シュウリョウ          :ent
```

7. 【ENTER】キーを押して放置時間設定にします。

ヘッドがキャッピングをしながら、洗浄液できれいにする放置時間を設定します。

8. ジョグキー【▲】【▼】を押して、放置時間を設定します。(1～99分)

```
ノズルセンジョウ
ホウチ  ジカン        :1min
```

9. 【ENTER】キーを押して初期化します。

ENTER

```
      ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－－
```

初期化動作を実行し、ヘッドをキャッピングします。

放置の進行状態を表示します。

```
    ホカン  センジョウ
          00:00:00
```

10. 【END】キーを押して放置動作を終了します。

設定時間が経過したら、放置動作を終了します。

11. クリーニング動作を実行します。

クリーニングの進行状態を表示します。

クリーニングが終了したら、インク廃路洗浄動作を開始します。

Yバーが最上点に移動し、ワイパが手前に移動します。

キャリッジがメンテナンス位置まで移動します。

空吸引動作を開始します。

吸引動作が10秒、吸引停止が10秒をそれぞれ交互に動作し続けます。

```
クリーニング　チュウ
　　００：００：００
```

```
ワイパ　クリーニング
シュウリョウ　　　　：ｅｎｔ
```

12. ワイパを外し、きれいにします。

13. スポイトでキャップに洗浄液を垂らします。

インク廃路がきれいになるまで繰り返します。

14. 【ENTER】キーを押して動作を終了し、空吸引を30秒実行します。

```
ハイロ　センジョウ
シュウリョウ　　　　：ｅｎｔ
```

15. 初期化します。

ローカルモードになります。

```
　　ショキカチュウ
＊＊＊＊＊＊＊＊－－－－－－－－
```

```
　　<<ローカル>>
```

キャリッジ下面のクリーニング

ヘッドの状態確認、キャリッジ下面のクリーニングを行います。添付の綿棒でクリーニングを行います。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[キャリッジ]を選びます。

```
メンテナンス
キャリッジ            <ent>
```

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
キャリッジメンテナンス
キャリッジ　アウト      :ent
```

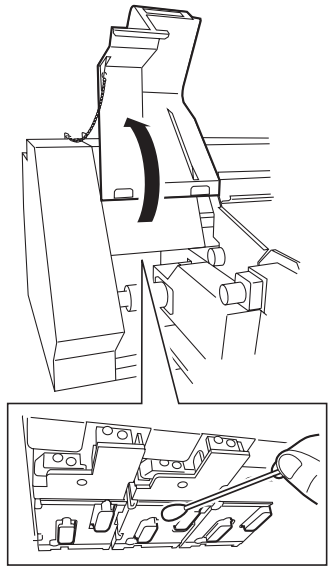
5. 【ENTER】キーを押します。

   キャリッジが本装置の左側に移動します。

ENTER

6. ステーションカバーLを開けます。

   注意
   ★ カバーにチェーンを掛けてください。
   (P.3-11 参照)



7. 付属の綿棒を水で濡らして、ヘッドのまわりのキャリッジ下面付着インクをクリーニングします。

   注意
   ★ ノズル面は絶対にこすらないでください。吐出不良の原因になります。

8. ステーションカバーLを閉めた後に、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
キャリッジメンテナンス
シュウリョウ            :ent
```

```
        ショキカチュウ
*******ーーーーーーーー
```

9. 布幅検出画面に戻ります。

```
        メディアセット
ロール<            >リーフ
```

フラッシングボックスとブロワフィルターのクリーニング

フラッシングボックスのメッセージが表示された場合は、フラッシングボックスとブロワフィルターをクリーニングまたは交換してください。一定時間経過すると、フラッシングボックスのメッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、ブロワフィルターのクリーニングも行ってください。

```
フラッシングＢｏｘ
インクヲ　ステテクダサイ
```

● フラッシングボックスは別売品として設定しています。新しいフラッシングボックスが必要な場合、お近くの販売店または弊社営業所にお求めください。

注意

★ フラッシングボックスをクリーニングまたは交換する以外は「フラッシングボックス」を選択しないでください。本装置内部で管理している使用回数がリセットされてしまいます。

フラッシングボックスのクリーニング

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.3-12 参照)

```
ＦＵＮＣＴＩＯＮ
メンテナンス　　　　＜ＥＮＴ＞
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション　　　　＜ｅｎｔ＞
```

3. [ステーション]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ステーション　メンテナンス
メンテ　　：キャリッジアウト
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[フラッシングBox]を選びます。

```
ステーション　メンテナンス
メンテ　　：フラッシングＢＯＸ
```

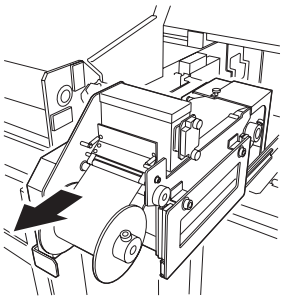
5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

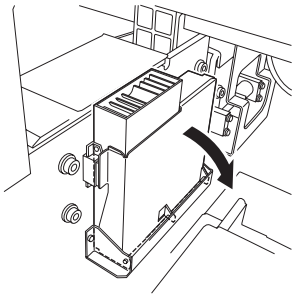
6. ステーションカバーＲをあけ、ツマミネジを外し、ANRユニットを引き出します。

注意

★ カバーにチェーンを掛けてください。
(P.3-11 参照)



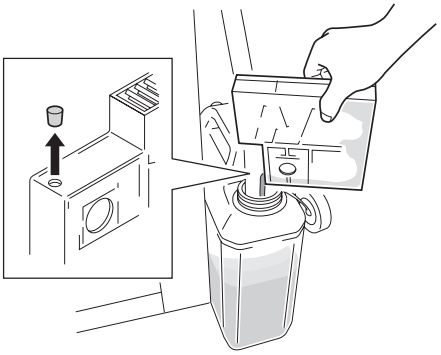
7. フラッシングボックスカバーを開け、フラッシングボックスを外します。



注意

★ フラッシングボックス内部には、インクが液状で入っています。開口部を下にしないようにして、取り外してください。

8. フラッシングボックスにたまった廃インクを、廃インクタンクに移します。



上側の栓を抜き、廃インクを移し変えてください。

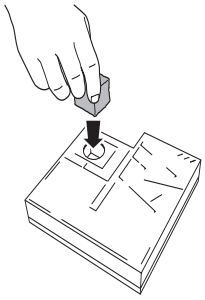
● 廃インクを移しかえた後に、フラッシングボックス本体の水洗いを行ってください。水洗い後すぐに使用する場合は、十分水分を切ってから使用してください。

注意

★ 1日以上使用しない場合は、たまった廃インクを捨てて、水洗いをかならず行ってください。

注意

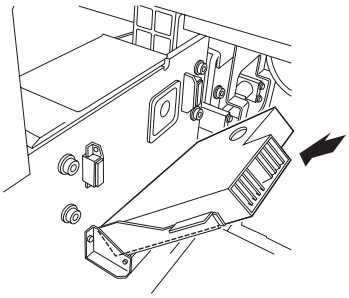
★ フィルターのインク汚れがひどい場合、廃インクを吸引する力が弱まります。ベルト押さえにインクが飛び散っているような場合には、フラッシングボックスを確認し、フィルターを水洗いしてください。



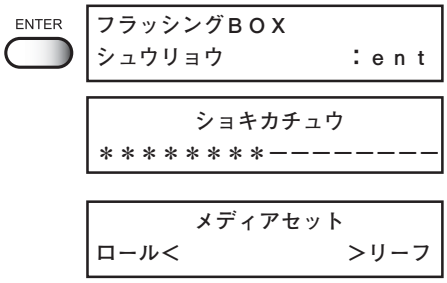
● フィルターの汚れがひどい場合

1. 汚れたフィルターを引き出し、水洗いします。
2. 洗ったフィルターを乾かします。
3. 付属の交換用フィルターをセットします。
4. 乾いたフィルターは次回交換時のために保管しておきます。

9　フラッシングボックスを本装置にセットします。



10. ANR ユニットを元に戻し、ステーションカバー R を閉めた後に、【ENTER】キーを押します。



11. 布幅検出画面に戻ります。

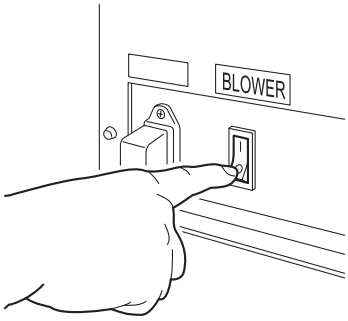
ブロワフィルターのクリーニング

本装置には、ブロワユニットが付いています。
フラッシングボックスのクリーニング後、ブロワフィルターの汚れ、インク付着を確認し、水洗いまたは新しいフィルタと交換してください。

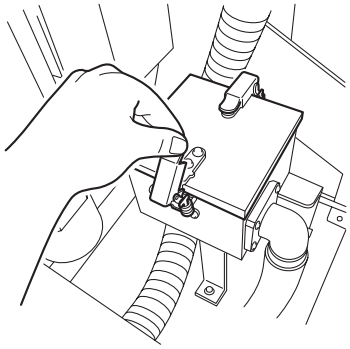
- フィルターは別売品です。フィルターを交換する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
- 水洗い後すぐに使用する場合は、十分水分を切ってから使用してください。

★ かならずゴム手袋を着用して、フィルターを交換してください。

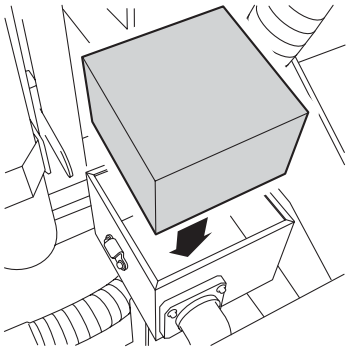
1.　ブロワユニットのスイッチをオフにします。



2. カバーの両サイドにあるパチン錠を外します。



3. カバーを開け、新しいブロワフィルターと交換します。



4. フィルタユニットを、元に戻します。

★ 必ずフィルタを元に戻してから、本装置を使用してください。本装置の故障の原因になります。

Y メインガイドのクリーニング[ﾒｲﾝｶﾞｲﾄﾞ]

Yメインガイドのクリーニングメッセージは、ヘッドスライダーが一定回数スキャンを実行すると表示されます。Yメインガイドが極端に汚れている場合、作図中に動作不良を引き起こし、作図が停止する場合があります。メッセージを表示した場合は、速やかにYメインガイドをクリーニングしてください。

```
Yメインガイド
メインガイドクリーニング
```

- クリーニングには、付属のメンテナンスオイルを使用してください。オイルが無くなった場合は、お近くの販売店または弊社営業所にお求めください。
- 1～2週間に一回はYメインガイドをクリーニングしてください。

注意

★ Yメインガイドのクリーニング以外は「メインガイド」を選択しないでください。本装置内部で管理している使用回数がリセットされてしまいます。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを1回押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[メインガイド]を選びます。

```
メンテナンス
メインガイド          <ent>
```

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

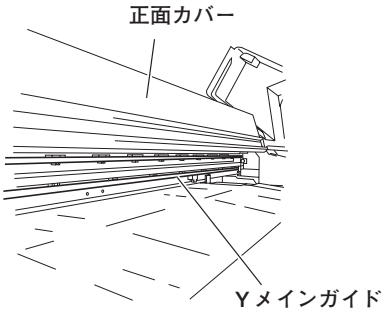
```
メインガイドメンテナンス
キャリッジアウト        :ent
```

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

キャリッジが動いて、搬送ベルト上まで移動します。

6. 正面カバー、ステーションカバーR,Lを開け、Yメインガイドをクリーニングします。



7. カバーを閉めた後に、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メインガイドメンテナンス
シュウリョウ          :ent
```

8. 布幅検出画面に戻ります。

```
ショキカチュウ
********----------
```

```
メディアセット
ロール<          >リーフ
```

ANRS チェックメディアの交換[ANRユニット]

ANRS チェックメディアを取り付けることで、自動的にドットチェックが可能となります。
チェックメディアが無くなった場合は、新しいチェックメディアと交換してください。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ANR ユニット]を選びます。

```
メンテナンス
ANRユニット           <ent>
```

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
ANRユニットメンテナンス
メンテ          :メディアコウカン
```

5. [メディアコウカン] を選び、【ENTER】キーを押します。

ENTER

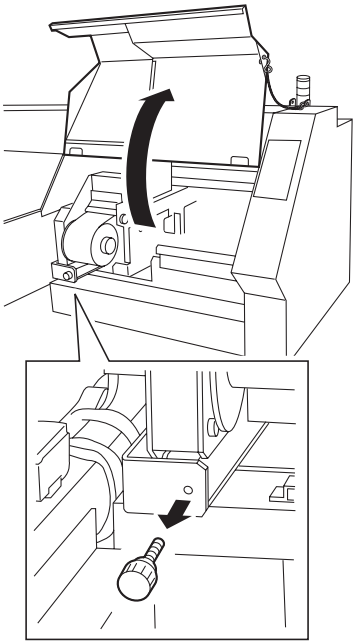
6. ANRS チェックメディアを交換します。

   a. 右側ステーションカバーを開けて、ANRユニットのツマミネジを取り外します。

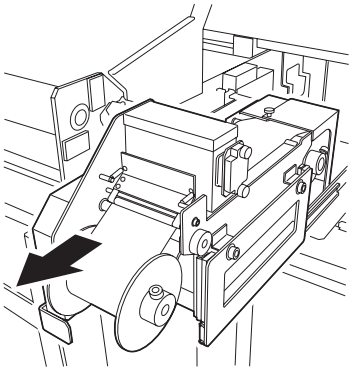
注意

★ カバーにチェーンを掛けてください。
(P.3-11 参照)

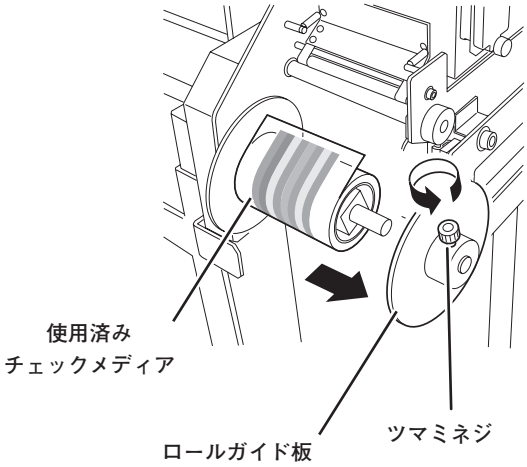
★ 弊社純正 ANR Sチェックメディア以外のメディアでは ANR ユニットの正常動作を保証できません。純正メディアを使用してください。



b. ANRユニットを引き出します。

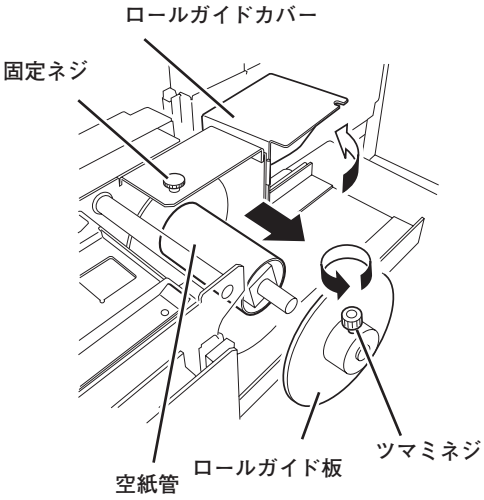


c. ツマミネジをゆるめ、ロールガイド板を外し、使用済みメディアを取りはずします。



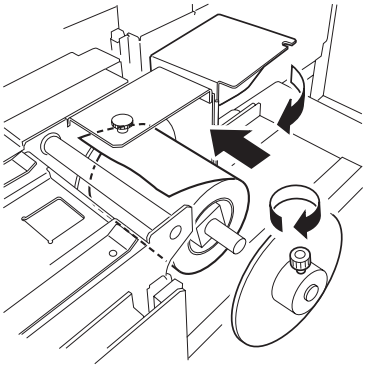
d. カバー用固定ネジをゆるめ、後部ロールガイドカバーを開けます。

e. ツマミネジをゆるめ、ロールガイド板を取りはずし、空紙管を取りはずします。



f. 新しいANRSチェックメディアをセットします。

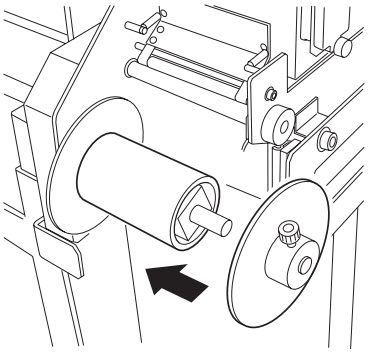
● ANRS チェックメディアは、外側がプリント面になっています。



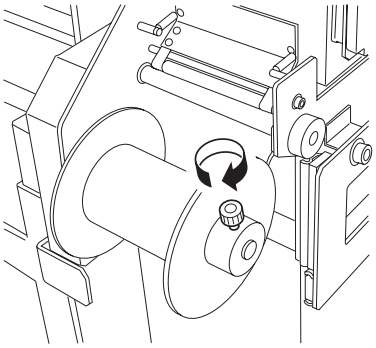
g. ロールガイド板を再度取り付け、ツマミネジをしっかり固定します。

ロールガイドカバーを閉じ、固定ネジを締めます。

h. 前部も同様に、後部から外した空紙管を取り付けます。

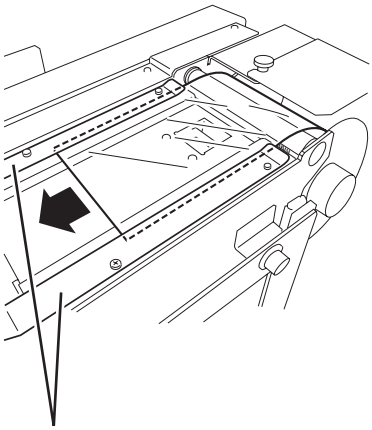


i. ロールガイド板を再度取り付け、ツマミネジで固定します。



j. ANRSチェックメディア先端を引き出し、メディアガイド、ピンチローラ、駆動ローラを通し、テープなどで空紙管にメディアを固定します。

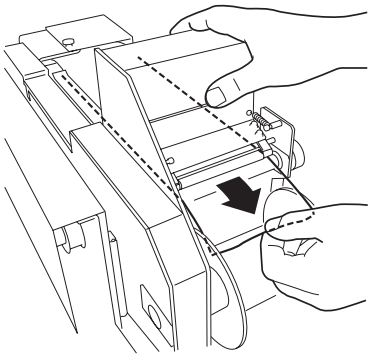
メディアプリント面フラット部にたるみ、シワのないようにセットします。



注意

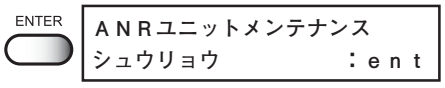
★ たるみ、シワが ある場合は再度セットしてください。ジャムが発生し、ヘッドを破損する原因となります。

★ 浮きが発生している場合は、駆動ローラーを反時計方向に回して、チェックメディアを送り出してください。

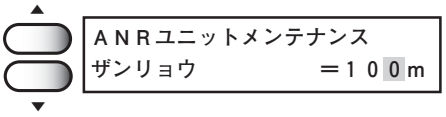


k. ANRユニットを元の位置に戻し、ツマミネジを取り付け、チェーンを外してステーションカバーを閉めます。

7. 【ENTER】キーを押します。

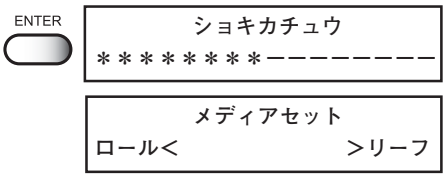


8. ジョグキー【▲】【▼】を押して、取り付けたANRS チェックメディアの長さを入力します。



● ANRS チェックメディア（SPC-0383）は長さが 100m となっています。

9. 【ENTER】キーを押すと、布幅検出画面に戻ります。



搬送ベルトのクリーニング[ﾍﾞﾙﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ]

搬送ベルトのクリーニングをし、その後ベルトを乾燥させます。

注意

★ 搬送ベルトをクリーニングする前に、必ず布を搬送ベルト上から外してください。
★ 洗浄液タンクを使用している場合は、水がタンクに十分はいっているかを確認してください。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
(P.3-12 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ベルトクリーニング]を選びます。

```
メンテナンス
ベルトクリーニング    <ent>
```

4. 布がある場合、またはクリダシテンションバーがロックされた場合に表示します。

```
クリダシテンションバー
ヲ　サゲテクダサイ
```

5. 搬送ベルト上に布がある場合は、布を外します。

6. 繰り出しテンションバーが最下部にあることを確認し、【ENTER】キーを押します。

```
メディアヲハズス
［ENT］ヲオシテクダサイ
```

7. 搬送ベルト上に布がないことを確認し、【ENTER】キーを押します。

```
ベルトクリーニング
タイプ          ：カンソウ
```

8. ジョグキー【▲】【▼】を押して、クリーニングのタイプを選択します。

```
ベルトクリーニング
タイプ          ：クリーニング
```

［クリーニング］、［カンソウ］
ここでは［クリーニング］を選択します。

```
ベルトクリーニング
ベルトカイテンスウ          ＝1
```

9. 【ENTER】キーを押します。

10. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ベルトの回転数を入力します。

```
ベルトクリーニング
ベルトカイテンスウ          ＝3
```

11. 【ENTER】キーを押します。

ベルトクリーニングチュウ
ノコリカイテンスウ　　0．9

搬送ベルトのクリーニングを開始します。

残りの回転数を表示します。

12. クリーニング終了後、搬送ベルトを乾燥させます。

クリーニング終了後、LCD 表示は「カンソウ」になります。

ベルトクリーニング
タイプ　　：カンソウ

13. 【ENTER】キーを押します。

ベルトクリーニング
ベルトカイテンスウ　　＝1

14. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ベルトの回転数を入力します。

ベルトクリーニング
ベルトカイテンスウ　　＝3

15. 【ENTER】キーを押します。

ベルトカンソウチュウ
ノコリカイテンスウ　　0．9

ベルト乾燥を開始します。

残りの回転数を表示します。

16. 【END】キーを２回押してローカルモードになります。

メンテナンス
ベルトクリーニング　＜ｅｎｔ＞

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０ｍｍ

4章
応用機能の使い方

「2章　基本機能の使い方」の操作を覚えたら、プロッタ側で作図条件を設定してプリントする「応用機能の使い方」を覚えましょう。
応用機能を使用し、作図データに合わせた作図条件を設定しましょう。

本章の内容

応用機能について *4-2*
作図条件の設定の前に *4-3*
各作図方式を設定する *4-5*

応用機能について

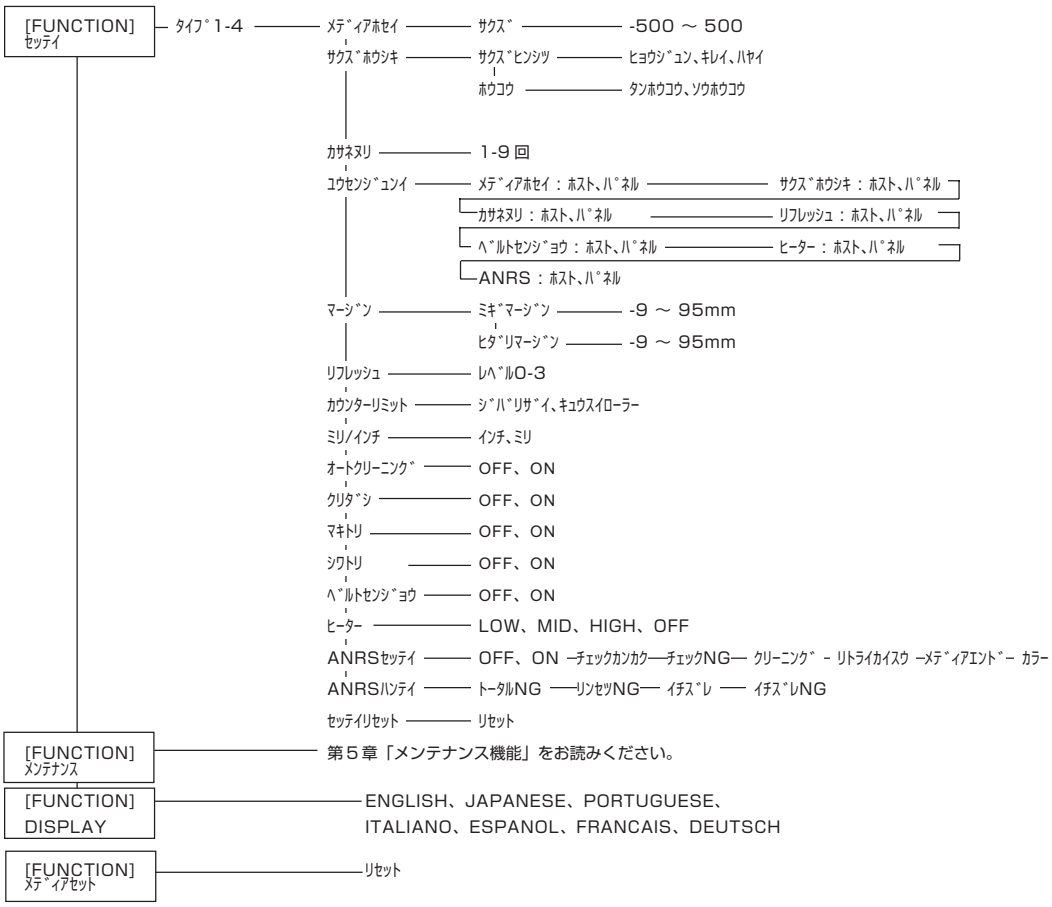
応用機能は、コンピュータから画像データをそのまま設定通りに出力せずに、作図条件を変更して応用的な出力をする機能です。応用機能は【FUNCTION】キーを使用して設定します。

ファンクションメニュー

ファンクションメニューとは、本装置の作図条件を設定するメニューの内、ファンクション（作図機能）について設定する項目のことを言います。ファンクションメニューの構造と操作を覚えて、作図条件を設定しましょう。
ファンクションメニューの項目には、[セッテイ]、[メンテナンス]、[ディスプレイ]および[メディアセット]の４種類があります。
この章では、ファンクションメニューの[セッテイ]と[ディスプレイ]について説明します。
（ファンクションメニューの[メンテナンス]については、「5章メンテナンス機能」をお読みください。）

[セッテイ]・[ディスプレイ]

下の表は、ファンクションメニューのメニューツリーです。
キー操作の流れを覚えて、作図の応用機能を使いましょう。
ファンクションメニューの設定は、一連の作図設定をまとめて使用可能にするために、まず最初に設定する作図方法をタイプ１から４に割り当ててから、各詳細設定を行います。



作図条件の設定の前に

作図条件の各設定をする前に、ファンクションメニューの基本操作について説明します。
以下の3点を確認してから、ファンクションメニューの作図条件の各設定をします。

1. メニューモードがローカルモードになっているかを確認します。
2. ディスプレイに表示する言語が選択してあるか確認します。
3. 作図条件の一連の設定を記憶する[タイプ]を選択します。

ファンクションメニュー設定の前に基本操作の確認をして、各作図条件を設定します。

メニューモードを確認する

ファンクションメニューの設定をする前に、メニューモードを確認します。
メニューモードは、ローカルモードまたはファンクションモードから開始します。
ディスプレイが、ローカルモードまたはFUNCTIONになっているかを確認します。
(P.1-16参照)

表示言語を設定する

LCD表示パネルに表示する言語と単位を設定します。プロッタの初期値は[English]に設定してあります。表示言語を日本語にしてみましょう。

操作手順

1. **本装置の設定モードが、ローカルモードになっていることを確認します。**

```
<<LOCAL>>
width:1620mm
```

2. **【FUNCTION】キーを押します。**

FUNCTION

```
FUNCTION
SETUP          <ENT>
```

3. **ジョグキー【▼】を2回押します。**

▼ 2回

```
FUNCTION
DISPLAY        <ENT>
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
DISPLAY
ENGLISH        <ent>
```

表示言語選択メニューを表示します。

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、表示する言語を選択します。**

▲ ▼

```
DISPLAY
JAPANESE       <ent>
```

選択可能な言語は、7種類あります。

[ENGLISH], [JAPANESE], [PORTUGUESE], [ITALIANO], [ESPANOL], [FRANCAIS], [DEUTSCH]

6. **表示する言語を選んで【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
<<ローカル>>
ハバ:1620mm
```

ローカルモードに戻ります。

4

複数の作図条件をまとめて登録する（タイプの選択）

作図条件をファンクションモードで設定した場合に、その一連の作図条件をまとめてプロッタに登録します。一連の作図条件は、タイプ１から４までの４種類を登録し、次回使用する場合に[タイプ]ごとの作図条件を使用可能です。使用する布や、作図方法に合わせて作図条件をタイプごとに設定しておくと使用する際に便利です。
ここでは、作図条件をどのタイプに割り当てて登録するかを説明します。

操作手順

1. **本装置の設定モードが、ローカルモードになっていることを確認します。**

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０mm
```

2. **【FUNCTION】キーを押します。**

```
ＦＵＮＣＴＩＯＮ
セッテイ　　＜ＥＮＴ＞
```

3. **【ENTER】キーを押します。**

```
セッテイ
センタク　　：タイプ１
```

4. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、タイプ１から４を選び設定します。**

```
セッテイ
センタク　　：タイプ３
```

選択可能なタイプは４種類あります。

[タイプ 1]、[タイプ 2]、[タイプ 3]、[タイプ 4]

5. **【ENTER】キーを押します。**

```
タイプ１
メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞
```

各作図条件の設定をします。

タイプの変更

作図中にタイプを変更する場合は、作図を中止（P.2-48 参照）してからローカルモードまたはファンクションモードにて変更するタイプを選択します。
作図中はタイプの変更はできませんのでご注意ください。

注意

★ 作図中に設定を変更できるのは、以下の項目のみです。
[ﾐﾘ/ｲﾝﾁ]、[AutoClean]、[ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ]、[ﾏｷﾄﾘ]、[ｸﾘﾀﾞｼ]、[ｼｸﾄﾘﾛｰﾗ]、[ANRSｾｯﾃｲ]、[ANRSﾊﾝﾃｲ]、[ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ]、[ﾋｰﾀｰ]
上記以外の設定を作図中に変更しようとすると、エラーメッセージを表示します。

```
ＥＲＲＯＲ３４
ミサクズ　データアリ
```

各作図方式を設定する

プロッタ側で作図方式を変更する［ｻｸｽﾞﾎｳｼｷ］

プロッタ側で作図品質を決定する作図方式を設定します。
作図方式の設定項目は、「作図品質[ｻｸｽﾞﾋﾝｼﾂ]」、「印刷方向[ﾎｳｺｳ]」および「解像度の拡張[ｶｸﾁｮｳ]」の３種類があります。

●作図品質[ｻｸｽﾞﾋﾝｼﾂ]

作図品質の設定項目は、「ﾋｮｳｼﾞｭﾝ」、「ｷﾚｲ」および「ﾊﾔｲ」の３種類があります。
８色モードと４色モードの場合とでは、「ﾋｮｳｼﾞｭﾝ」、「ｷﾚｲ」、「ﾊﾔｲ」の動作条件が異なります。

ヒョウジュン：　標準的な作図品質
キレイ　　：　高品質・低スピード
ハヤイ　　：　高スピード・やや劣る品質

●作図方向[ﾎｳｺｳ]

作図する方向を選択します。
作図する際にプロッタはキャリッジを左右に動かして作図しますが、作図方向を設定することにより品質と印刷スピードの諜烝が可能です。

単方向［ﾀﾝﾎｳｺｳ］：キャリッジ移動時の１方向のみ作図します。品質は双方向に比べて良質です。
双方向［ｿｳﾎｳｺｳ］：キャリッジ移動時の往復の２方向作図をします。
速度重視のため品質はやや劣ります。
インクの重ね順により、往路と復路とで色が異なることがあります。事前に確認の上ご使用ください。

4

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[ﾀｲﾌﾟ 1]を選択します。

```
セッテイ
センタク              ：タイプ１
```

2. **【ENTER】キーを押します。**

```
タイプ１
メディアホセイ        ＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[サクズホウシキ]を選びます。**

```
タイプ１
サクズホウシキ        ＜ｅｎｔ＞
```

4. 【ENTER】キーを押します。

作図品質選択メニューを表示します。

タイプ１
ヒンシツ　　：ヒョウジュン

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図品質を選びます。

選択可能な「品質」は３種類あります。
[ヒョウジュン]、[キレイ]、[ハヤイ]

タイプ１
ヒンシツ　　：キレイ

6. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
ホウコウ　　：タンホウコウ

7. ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図方向を選びます。

選択可能な「方向」は２種類あります。
[タンホウコウ]、[ソウホウコウ]

タイプ１
ホウコウ　　：ソウホウコウ

8. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
サクズホウシキ　　＜ｅｎｔ＞

9. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０ｍｍ

インクの浸透が悪い場合は[ｶｻﾈﾇﾘ]

重ね塗りはインクを複数回吹き付けて、浸透性を上げます。
毛足の長い布を使用する場合は、インクの浸透が悪い場合がありますので、重ね塗りを実行します。

注意

★ 絹など、水分による伸縮の大きな布を使用する場合は、[ｶｻﾈﾇﾘ]を実行しないでください。地張り接着力が低下してきている場合、伸縮による浮きが発生しやすくなります。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ 1]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ 1

2. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER
   タイプ 1
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[カサネヌリ]を選びます。

   タイプ 1
   カサネヌリ　　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER
   タイプ 1
   カサネヌリ　　＝1カイ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、重ね塗りする回数を選びます。

   重ね塗りの回数は１回から９回まで選択可能です。ここでは、[3ｶｲ]を選択します。

   タイプ 1
   カサネヌリ　　＝3カイ

6. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER
   タイプ 1
   カサネヌリ　　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

   END
   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

4

コンピュータと本装置の設定の優先順位を決める[ﾕｳｾﾝｼﾞｭﾝｲ]

作図条件を、本装置とコンピュータのどちらの設定を優先するかを決定します。
作図条件は、本装置と出力ソフトを使用したコンピュータからの送信データ上で設定可能です。これらの作図条件が異なる場合、作図する時点でどちらの作図条件を優先するかを決定します。

ホスト　：　コンピュータ（出力ソフト）の設定を優先して作図
パネル　：　プロッタ（本装置）の設定を優先して作図

優先順位は次の６項目について決定します。

布の送り補正、作図方式、重ね塗り、リフレッシュ、
ベルト洗浄、ヒーター、ANRS

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク              ：タイプ１
```

2. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
メディアホセイ        ＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ユウセンジュンイ]を選びます。**

```
タイプ１
ユウセンジュンイ      ＜ｅｎｔ＞
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
メディアホセイ        ：ホスト
```

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、メディア補正の優先順位[ホスト / パネル]を選択します。**

   ここでは、[パネル]を選択します。

```
タイプ１
メディアホセイ        ：パネル
```

6. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
サクズホウシキ        ：ホスト
```

7. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、作図方式の優先順位[ホスト / パネル]を選択します。**

   ここでは、[パネル]を選択します。

```
タイプ１
サクズホウシキ        ：パネル
```

8. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
カサネヌリ            ：ホスト
```

9. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、重ね塗りの優先順位[ホスト / パネル]を選択します。**

   ここでは、[パネル]を選択します。

```
タイプ１
カサネヌリ            ：パネル
```

10. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

タイプ１
リフレッシュ　　：ホスト

11. ジョグキー【▲】【▼】を押して、リフレッシュの優先順位[ホスト / パネル]を選択します。

ここでは、[パネル]を選択します。

タイプ１
リフレッシュ　　：パネル

12. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

タイプ１
ベルトセンジョウ　　：ホスト

13. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ベルト洗浄の優先順位[ホスト / パネル]を選択します。

ここでは、[パネル]を選択します。

タイプ１
ベルトセンジョウ　　：パネル

14. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

タイプ１
ヒーター　　：ホスト

15. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ヒーターの優先順位[ホスト / パネル]を選択します。

ここでは、[パネル]を選択します。

タイプ１
ヒーター　　：パネル

16. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

タイプ１
ＡＮＲＳ　　：ホスト

17. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ANR ユニットの優先順位[ホスト / パネル]を選択します。

ここでは、[パネル]を選択します。

タイプ１
ＡＮＲＳ　　：パネル

18. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

タイプ１
ユウセンジュンイ　　＜ｅｎｔ＞

19. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

END

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０ｍｍ

布の左右余白を増減する[ﾏｰｼﾞﾝ]

布左右の余白を増減するために、デッドスペースの設定をします。布の端面部分の余白を「デッドスペース」と呼びます。（P.2-39 参照）縫い代など余白が必要な場合に本機能を使用してデッドスペースを設定します。デッドスペースは布の左右にそれぞれ設定可能です。

● 本装置は、布押さえの位置を検出して作図エリア幅を設定しています。布押さえの左右端の押さえ量を変えても左右の余白を変更することができます。布押さえを布端から離すことによりフル幅作図も可能です。

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク              ：タイプ１
```

2. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
メディアホセイ        ＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[マージン]を選びます。**

```
タイプ１
マージン              ＜ｅｎｔ＞
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
ミギマージン          ＝  0ｍｍ
```

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、右マージンを設定します。**

   デッドスペースは、-9mm から 95mm までの 1mm 単位での設定が可能です。ここでは、[10mm]に設定します。

```
タイプ１
ミギマージン          ＝１０ｍｍ
```

6. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
ヒダリマージン        ＝１０ｍｍ
```

7. **同様にジョグキー【▲】【▼】を押して、左マージンも設定します。**

```
タイプ１
ヒダリマージン        ＝２０ｍｍ
```

8. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
マージン              ＜ｅｎｔ＞
```

9. **【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。**

END

```
        ＜＜ローカル＞＞
            ハバ：１６２０ｍｍ
```

ホコリが多い場所や湿度の低い場所で使用する場合は[ﾘﾌﾚｯｼｭ]

プリントヘッドの詰まりを無くすため、作図中にプリントヘッドのリフレッシュをします。
ホコリが多い場所や、湿度が低い場所で本装置を使用すると、作図の安定性が低下します。
リフレッシュを実行してプリントヘッドからインクが適切に噴出するようにします。
リフレッシュの設定では、どのくらいの頻度でプリントヘッドのリフレッシュをするか、[レベル 0 から 3]を選択して設定します。

レベル０　：　リフレッシュの回数は少ない
レベル１　：　リフレッシュの回数は普通
レベル２　：　リフレッシュの回数はやや多い
レベル３　：　リフレッシュの回数が多い

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   ```
   セッテイ
   センタク　　　　　　：タイプ１
   ```

2. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER

   ```
   タイプ１
   メディアホセイ　　　＜ｅｎｔ＞
   ```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[リフレッシュ]を選びます。**

   ▲ ▼

   ```
   タイプ１
   リフレッシュ　　　　＜ｅｎｔ＞
   ```

4. **【ENTER】キーを押します。**

   リフレッシュレベル設定メニューを表示します。

   ENTER

   ```
   タイプ１
   リフレッシュ　　　　：レベル１
   ```

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、リフレッシュレベルを設定します。**

   リフレッシュレベルは、４種類選択可能です。
   [ﾚﾍﾞﾙ0]、[ﾚﾍﾞﾙ1]、[ﾚﾍﾞﾙ2]、[ﾚﾍﾞﾙ3]
   ここでは、[ﾚﾍﾞﾙ 2]に設定します。

   ▲ ▼

   ```
   タイプ１
   リフレッシュ　　　　：レベル２
   ```

6. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER

   ```
   タイプ１
   リフレッシュ　　　　＜ｅｎｔ＞
   ```

7. **【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。**

   END

   ```
   ＜＜ローカル＞＞
   　　　　ハバ：１６２０ｍｍ
   ```

メンテナンス目安時期を設定する[ｶｳﾝﾀｰﾘﾐｯﾄ]

地張り剤の塗り替え（P.5-4 参照）、吸水ローラーのクリーニング（P.3-6 参照）を行う目安時期を設定します。

ジバリザイ	：	地張り剤の塗り替え目安時期を設定する
キュウスイローラー	：	吸水ローラーのクリーニング目安時期を設定する

● この設定をしておくと、事前にアラームを表示するため、メンテナンス時期を気にせず作業をすることができます。設定されていない場合は、アラームは表示されません。

```
ベルト　ジバリザイ
ノコリ　１０００ｍ
```

```
ベルト　ジバリザイ
ヌリナオシテクダサイ
```

```
キュウスイローラー
ローラーヲカクニンシテクダサイ
```

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク　　　　　：タイプ１
```

2. **【ENTER】キーを押します。**

```
タイプ１
メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[カウンターリミット]を選びます。**

```
タイプ１
カウンターリミット　＜ｅｎｔ＞
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

```
タイプ１
センタク　：ジバリザイ
```

5. **【ENTER】キーを押して、［ジバリザイ］を選択します。**

```
タイプ１
リミット　セット ＝　　０ｍ
```

6. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、［ジバリザイ］のリミットを設定します。**

```
タイプ１
リミット　セット ＝　１０００ｍ
```

   0 ～ 30000m までの 1m 単位での設定が可能です。ここでは、[1000m]に設定します。
   初期値は 0m になっています。

● 目安値は、1000 mです。
設定値が「0 m」の場合、アラームは表示されません。

7. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
カウンターリミット　＜ｅｎｔ＞

8. 再度、【ENTER】キーを押します。

タイプ１
センタク　：ジバリザイ

9. ジョグキー【▲】【▼】を押して、［キュウスイローラー］を選択します。

タイプ１
センタク　：キュウスイローラー

10. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
リミットセット　＝　　０m

11. 同様に【▲】【▼】を押して、［キュウスイローラー」を設定します。

タイプ１
リミットセット　＝　５００m

0 ～ 30000m までの 1m 単位での設定が可能です。ここでは、[500m]に設定します。
初期値は 0m になっています。

● 目安値は、500 mです。
設定値が「0 m」の場合、アラームは表示されません。

12. 【ENTER】キーを押します。

タイプ１
カウンターリミット　＜ｅｎｔ＞

13. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０mm

表示する長さの単位を決める[ミリ/インチ]

ディスプレイに表示する設定値の単位を設定します。
原点設定や布幅検出後の布の「幅」や「長さ」を表示する場合に使用します。

ミリ　　：　表示する数値の単位をミリにします。
インチ　　：　表示する数値の単位をインチにします。

操作手順

1. **タイプの選択をします。(P.4-4 参照)**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク              ：タイプ１
```

2. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
メディアホセイ        ＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ミリ／インチ]を選びます。**

```
タイプ１
ミリ／インチ          ＜ｅｎｔ＞
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

   表示単位選択メニューを表示します。

ENTER

```
タイプ１
ミリ／インチ          ：インチ
```

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[インチ]または[ミリ]を選びます。**

   ここでは、[ミリ]を選択します。

```
タイプ１
ミリ／インチ          ：ミリ
```

6. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
タイプ１
ミリ／インチ          ＜ｅｎｔ＞
```

7. **【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。**

END

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０ｍｍ
```

作図開始前に自動クリーニングをする[ｵｰﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ]

クリーニングを作図ごとに実行して、作図不良を防止します。

ON　：作図前に自動的にヘッドをクリーニングします。
OFF　：自動的にはクリーニングをしません。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ１

2. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[オートクリーニング]を選びます。

   タイプ１
   オートクリーニング　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   オートクリーニング　　：ＯＦＦ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、自動クリーニングの設定[OFF]・[ON]を選択します。

   ここでは、[ON]を選択します。

   タイプ１
   オートクリーニング　　：ＯＮ

6. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   オートクリーニング　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

   END

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

繰り出し装置を有効にする[ｸﾘﾀﾞｼ]

繰り出し装置を有効に設定します。

ON　：　自動的に繰り出しを行います。
OFF　：　繰り出しを行いません。

注意

★ タルミ、リミットセンサーに応じて動作します。
★ 使用する布がリーフを選択している場合は、繰り出し装置は有効になりません。

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ１

2. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER

   タイプ１
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[クリダシ]を選びます。**

   タイプ１
   クリダシ　　＜ｅｎｔ＞

4. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER

   タイプ１
   クリダシ　　：ＯＦＦ

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、繰り出し装置の設定[OFF]・[ON]を選択します。**

   ここでは、[ON]を選択します。

   タイプ１
   クリダシ　　：ＯＮ

6. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER

   タイプ１
   クリダシ　　＜ｅｎｔ＞

7. **【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。**

   END

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

巻き取り装置を利用する[ﾏｷﾄﾘ]

巻き取り装置を有効にします。

ON　：　自動的に巻き取り装置を有効にします。
OFF　：　巻き取り装置を使用しません。

注意

★ タルミ、リミットセンサーに応じて動作します。
★ 使用する布がリーフを選択している場合は、巻き取り装置は使用できません。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ１

2. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ１
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、［マキトリ］を選びます。

   タイプ１
   マキトリ　　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ１
   マキトリ　　：ＯＦＦ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、巻き取り装置の設定[OFF]・[ON]を選択します。

   ここでは、[ON]を選択します。

   タイプ１
   マキトリ　　：ＯＮ

6. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ１
   マキトリ　　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

シワ取りローラを使用してシワ取りをする[ｼﾜﾄﾘ]

シワ取りローラを使用し、布のシワ取りする設定をします。

ON　：シワ取りローラを回転させます。
OFF　：シワ取りローラは回転しません。

注意

★ 使用する布がリーフを選択している場合は、シワ取りローラは使用できません。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ１

2. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[シワトリ]を選びます。

   タイプ１
   シワトリ　　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   シワトリ　　：ＯＦＦ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、シワ取りローラの設定[OFF]・[ON]を選択します。

   ここでは、[ON]を選択します。

   タイプ１
   シワトリ　　：ＯＮ

6. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   シワトリ　　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

   END

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

作図中のベルト洗浄動作を有効にする[ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ]

作図中のベルト洗浄動作を設定します。
詳細は、「作図をしながらベルト洗浄する」をご覧ください。(P.2-52 参照)

ON　：　自動的にベルト洗浄を行います。
OFF　：　ベルト洗浄を行いません。

操作手順

1. タイプの選択をします。(P.4-4 参照)

   ここでは[タイプ１]を選択します。

   セッテイ
   センタク　　：タイプ１

2. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ベルトセンジョウ]を選びます。

   タイプ１
   ベルトセンジョウ　　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   ベルトセンジョウ　　：ＯＦＦ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ベルト洗浄の設定[OFF]・[ON]を選択します。

   ここでは、[ON]を選択します。

   タイプ１
   ベルトセンジョウ　　：ＯＮ

6. 【ENTER】キーを押します。

   ENTER

   タイプ１
   ベルトセンジョウ　　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

   END

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

注意

★ データを受信中、または未出力のデータが残っている場合およびジョグモード中は、吸水ローラが上がったままの状態になります。かならずデータクリアしてから、電源をオフにしてください。

インクの乾きが遅い場合は（ヒーターの温度調整）[ﾋｰﾀｰ]

高印字率でプリントした布を巻き取るとインクの裏移りが発生します。裏移りを回避するため、ヒーターを使用します。
ヒーターのオン / オフ、ヒーターの HIGH/MID/LOW を設定します。ヒーターの強さは、作図の印字密度、布の種類により設定します。

ヒーター表面温度

HIGH ：約 145℃　MID：約 110℃　LOW：約 80℃

注 意

★ ヒーター表面温度は、「HIGH」設定において約 145℃の温度になります。巻き取り装置への布セットを行う場合は、ヒーターに触れないようにしてください。火傷をする原因となります。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ 1]を選択します。

   セッテイ
   センタク　：タイプ 1

2. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ 1
   メディアホセイ　＜ｅｎｔ＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ヒーター]を選びます。

   タイプ 1
   ヒーター　＜ｅｎｔ＞

4. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ 1
   ヒーターオンド　：ＯＦＦ

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ヒーターの設定を選択します。

   [OFF]、[LOW]、[MID]、[HIGH]

   タイプ 1
   ヒーターオンド　：ＭＩＤ

6. 【ENTER】キーを押します。

   タイプ 1
   ヒーター　＜ｅｎｔ＞

7. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカル モードに戻ります。

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

ANR ユニットを使用する[ANRSｾｯﾃｲ]

ANR ユニットを使用する場合の動作に関する詳細設定をします。

ON　：ANR ユニットを使用し、ノズル抜け、位置ズレをチェックします。
OFF　：ANR ユニットを使用しません。

操作手順

1. タイプの選択をします。（P.4-4 参照）

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク　　　　　：タイプ１
```

2. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
メディアホセイ　　＜ｅｎｔ＞
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ANRS セッテイ] を選びます。

```
タイプ１
ＡＮＲＳセッテイ　　＜ｅｎｔ＞
```

4. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
ドットチェック　　：ＯＦＦ
```

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ANR ユニットの使用設定[OFF]・[ON]を選択します。

   ここでは、[ON]を選択します。

```
タイプ１
ドットチェック　　：ＯＮ
```

6. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
チェックカンカク　　＝０．２ｍ
```

7. ジョグキー【▲】【▼】を押して、ドットチェックを実行する間隔を設定します。

   ドットチェックを実行する間隔をメータ単位（またはインチ単位）で設定します。

```
タイプ１
チェックカンカク　　＝５．０ｍ
```

8. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
チェックＮＧ　　：ケイゾク
```

9. ANR ユニットの動作開始後、ノズル抜けや位置ズレが見つかった場合の対処法を選択します。

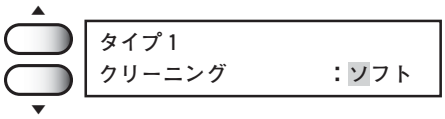
```
タイプ１
チェックＮＧ　　：オート
```

   ジョグキー【▲】【▼】を押して選択します。
   [ｹｲｿﾞｸ] ..... 継続して作図を行います。　→手順 10 に続く
   [ｵｰﾄ] ..... 作図を一時中断し、ノズルクリーニングを自動的に行います。　→手順 14 に続く
   [ﾃｲｼ] ..... 作図を停止します。　→手順 10 に続く

10. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
クリーニング　　：ノーマル
```

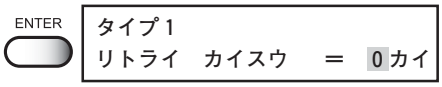
11. ジョグキー【▲】【▼】を押して、クリーニングの方法を選択します。



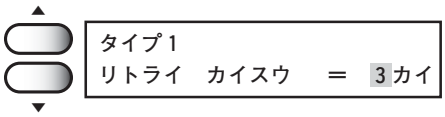
[ノーマル] ..... 作図抜けに使用します。
[ソフト]..... 作図カスレに使用します。
[キョウリョク] ... 作図抜けが多い時に使用します。

● チェックNGが「AUTO」に設定されている場合のみ有効となります。
（P.4-21　手順９　参照）

12. 【ENTER】キーを押します。



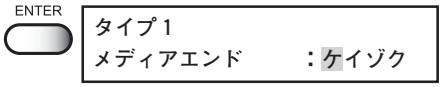
13. ジョグキー【▲】【▼】を押して、［リトライカイスウ］を入力します。



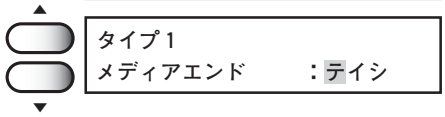
クリーニング後ノズル抜け等を発見した場合に、再度クリーニングを実行する回数を入力します。

● チェックNGが「AUTO」に設定されている場合のみ有効となります。
（P.4-21　手順９　参照）

14. 【ENTER】キーを押します。



15. ANRSチェックメディアが作図中に終了した場合の対処法を選択します。



[ｹｲｿﾞｸ] ..... 継続して作図を行います。

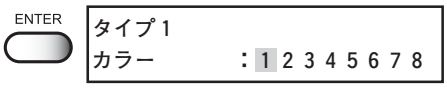
[ﾃｲｼ] ..... ANRSチェックメディアが無くなった時点で作図を中断します。新しいANRSチェックメディアを取り付けます。

[1ﾌｧｲﾙ] ..... 現在のファイルが終了するまで作図を継続します。次のファイルは作図されません。

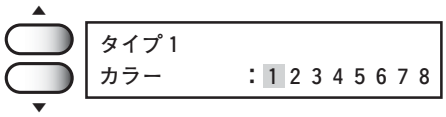
注意

★ 弊社純正ANR Sチェックメディア以外のメディアではANRユニットの正常動作を保証できません。純正メディアを使用してください。

16. 【ENTER】キーを押します。

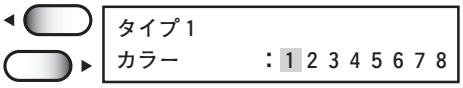


17. ジョグキー【▲】【▼】を押して、色ごとのチェックのON/OFFを設定します。



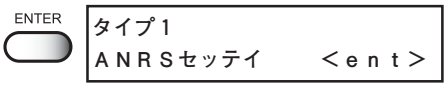
色番号は、プリントヘッドに向かって左から1、2・・・という順番です。

18. ジョグキー【◀】【▶】を押して、設定する色番号を選択できます。



4色時は、1～4の中から選択します。

19. 【ENTER】キーを押します。



【END】キーを2回押すと、メニューがローカル モードに戻ります。

ANR ユニットを使用してズレを判定する［ANRSﾊﾝﾃｲ］

ANR ユニットを使用して、ノズルチェックの NG 判定基準を設定します。

操作手順

1. **タイプの選択をします。（P.4-4 参照）**

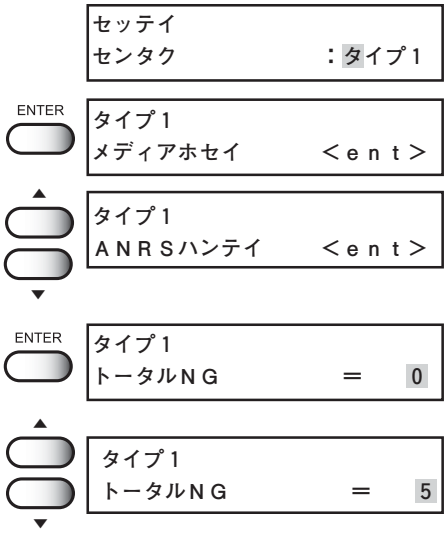
   ここでは[タイプ１]を選択します。

2. **【ENTER】キーを押します。**

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、［ANRS ハンテイ］を選びます。**

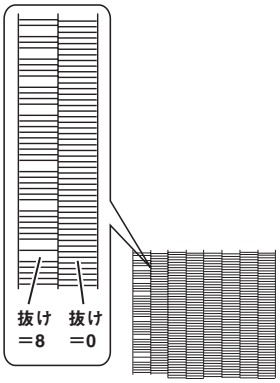
4. **【ENTER】キーを押します。**

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、色ごとのトータル NG の設定値を入力します。**



ノズル抜けが見つかったとき、色ごとにその合計数が設定値よりも多かった場合は作図を停止、または中断してノズルクリーニングを行います。

右の例は、ノズル抜けが８個見つかった場合です。設定値を「5」に設定した場合、作図を停止、または中断してノズルクリーニングを行います。

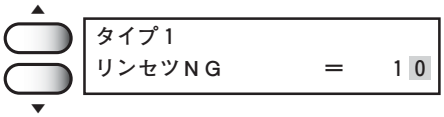


● 「ANRSｾｯﾃｲ」の手順９の設定によって、対処法が変わります。（P.4-21 参照）

[ｹｲｿﾞｸ] ..... 継続して作図を行います。
[ｵｰﾄ] ..... 作図を一時中断し、ノズルクリーニングを自動的に行います。
[ﾃｲｼ] ..... 作図を停止します。

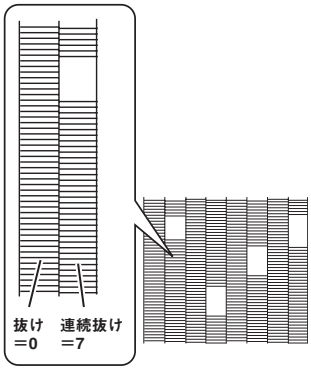
6. 【ENTER】キーを押します。

7. ジョグキー【▲】【▼】を押して、リンセツNGの設定値を入力します。



連続してノズル抜けが見つかったとき、各色一列ごとにその連続数が設定値よりも多かった場合は作図を停止、または中断してノズルクリーニングを行います。

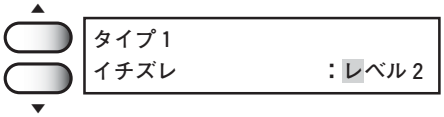
右の例は、2列目に連続してノズル抜けが7個見つかった場合です。設定値を「10」に設定した場合、作図は停止、中断されません。



● 「ANRSｾｯﾃｲ」の手順９の設定によって、対処法が変わります。（P.4-21 参照）

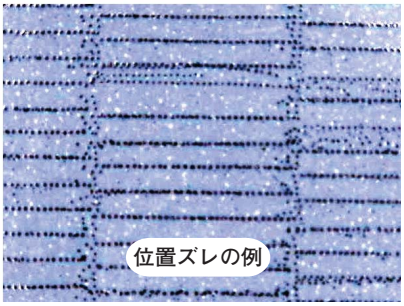
8. 【ENTER】キーを押します。

9. ジョグキー【▲】【▼】を押して、位置ズレの許容範囲を設定します。



インク着弾のOK/NG範囲をレベル0～2で設定します。
NGと判定された場合は、手順5のノズル抜け数に加算されます。

[ﾚﾍﾞﾙ0] .... ズレ量が大きくてもOKと判定します。
[ﾚﾍﾞﾙ1] ..... 多少のズレでもOKと判定します。
[ﾚﾍﾞﾙ2] .... わずかなズレでもNGと判定します。



右図は、理想的な着弾位置に対してレベル1とレベル2の間に着弾したときの例です。

設定値を「レベル2」に設定した場合、このノズルはNGと判定され、総ノズル抜け数が一つ加算されます。

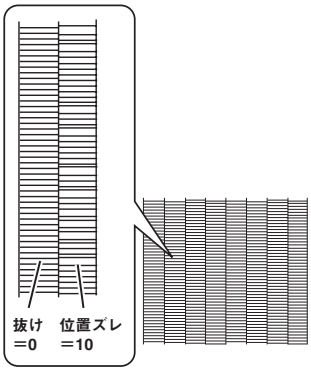
● 「ANRSｾｯﾃｲ」の手順９の設定によって、対処法が変わります。（P.4-21 参照）

10. 【ENTER】キーを押します。

11. ジョグキー【▲】【▼】を押して、イチズレNGの設定値を入力します。

位置ズレが見つかったとき、手順9で設定した位置ズレの許容範囲レベルによって、位置ズレNG数が設定値よりも多かった場合は作図を停止、または中断してノズルクリーニングを行います。

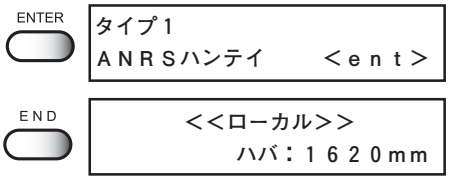
右の例は、許容範囲のレベルは「レベル1」に設定されていた場合、位置ズレが10箇所見つかった例です。設定値を「25」に設定した場合、作図を停止、または中断してノズルクリーニングを行いません。



● 「ANRSｾｯﾃｲ」の手順９の設定によって、対処法が変わります。（P.4-21 参照）

12. 【ENTER】キーを押します。

【END】キーを2回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。



タイプごとに設定をリセットする[ｾｯﾃｲ ﾘｾｯﾄ]

設定した印刷条件を工場出荷時の設定値に戻します。
リセットは、作図条件を設定したタイプごとに実行します。

操作手順

1. リセットするタイプの選択をします。（P.4-4を参照）

   ここでは[タイプ１]を選択します。

```
セッテイ
センタク              ：タイプ１
```

2. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
メディアホセイ        ＜ｅｎｔ＞
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、リセット[セッテイリセット]を選びます。

```
タイプ１
セッテイリセット      ＜ｅｎｔ＞
```

4. 【ENTER】キーを押します。

```
タイプ１
リセット              ：ｅｎｔ
```

5. 【ENTER】キーを押します。

   工場出荷時の設定に戻ります。

```
タイプ１
セッテイリセット      ＜ｅｎｔ＞
```

6. 【END】キーを２回押すと、メニューがローカルモードまで戻ります。

```
<<ローカル>>
ハバ：１６２０ｍｍ
```

5章
メンテナンス機能

本装置を適正にお使いいただくよう、メンテナンスをしましょう。本装置の維持や、使用を一定期間停止する場合にメンテナンスを実行してください。

本章の内容

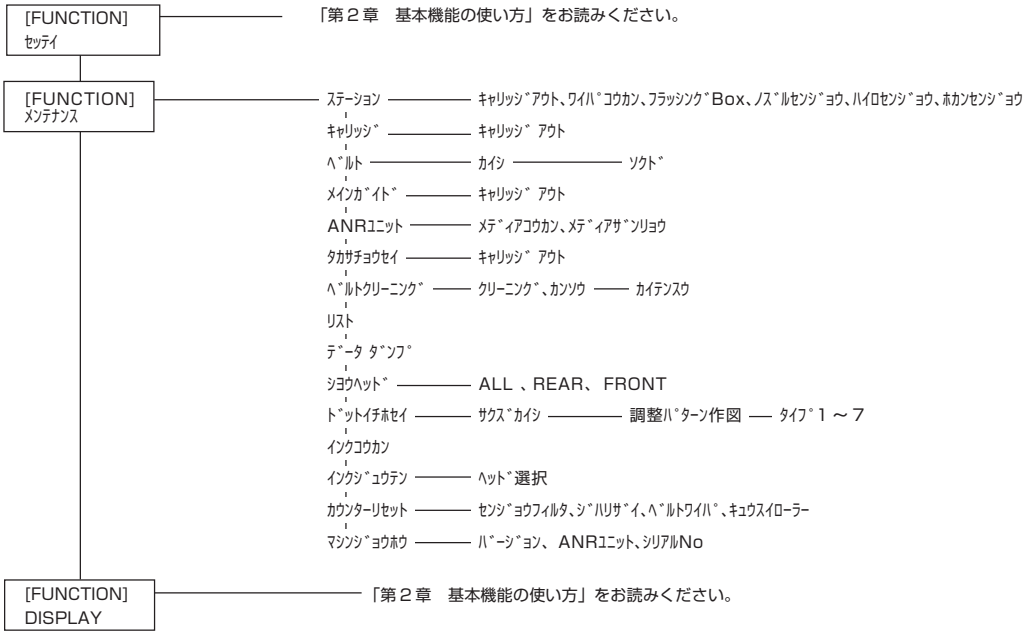
メンテナンスについて 5-2
メンテナンスの前に 5-3
布の接着力が弱くなったら[ﾍﾞﾙﾄ] 5-4
設定状態を作図する[ﾘｽﾄ] 5-14
作図コマンドをHEXコードで作図する[ﾃﾞｰﾀﾀﾞﾝﾌﾟ] 5-15
使用するヘッドを切り替える[ｼｮｳﾍｯﾄﾞ] 5-16
インク装填後の表示メニューについて[ｲﾝｸｼﾞｭｳﾃﾝ] 5-17
異なる種類のインクに交換する場合[ｲﾝｸｺｳｶﾝ] 5-18
カウンターをリセットする[ｶｳﾝﾀｰﾘｾｯﾄ] 5-22
本装置の情報を表示する[ﾏｼﾝｼﾞｮｳﾎｳ] 5-23

メンテナンスについて

メンテナンスは、本装置を適正にお使いいただくためのお手入れに関する操作をいいます。
メンテナンスは、ファンクションメニューの[ﾒﾝﾃﾅﾝｽ]を選択し各詳細設定をしてから実行します。

ファンクションメニュー[ﾒﾝﾃﾅﾝｽ]

下の表は、ファンクションメニュー[ﾒﾝﾃﾅﾝｽ]のメニューツリーです。
ディスプレイ表示の流れを覚えて、メンテナンス機能を使いましょう。



メンテナンス機能一覧

機能名称	概　要	参照ページ
ステーション	キャリッジ内部のメンテナンスを行います。	P.3-11
キャリッジ	キャリッジ下面のクリーニング等を行います。	P.3-11
ベルト	地張り剤の塗り替えを行います。	P.5-4
メインガイド	Y メインガイドのクリーニングを行います。	P.3-29
ANR ユニット	ANRS チェックメディアを交換します。	P.3-30
タカサチョウセイ	ヘッドの高さ調整を行います。	P.2-35
ベルトクリーニング	搬送ベルトのクリーニングをします。	P.3-34
リスト	本装置の設定状態を作図します。	P.5-14
データダンプ	本装置のデータコマンドを作図します。	P.5-15
シヨウヘッド	ノズルトラブル時に使用するヘッド列を設定します。	P.5-16
ドットイチホセイ	ヘッド高さを変更した後、ドット位置を補正します。	P.2-39
インクコウカン	インクの交換をします。	P.5-18
インクジュウテン	ノズル詰まりが復旧しない場合に行います。	P.5-17
カウンターリセット	各目安になるカウンターの初期化を行います。	P.5-22
マシンジョウホウ	本装置の情報を表示します。	P.5-23

メンテナンスの前に

メニューモードの確認をする

メンテナンス機能の実行の前に、メニューモードを確認します。
メンテナンスは、メニューモードがローカルモードまたはファンクションモードから開始します。ディスプレイがローカルまたはFUNCTIONになっているかを確認しましょう。

メンテナンス機能への入り方について

メンテナンス機能の実行をする場合、操作パネル上で以下の操作が必ず必要となります。
メンテナンス機能への入り方を覚え、各メンテナンスを実行します。

操作手順

1. **ローカルモードにします。**

   リモートモードの場合、【REMOTE】キーを1回押して、ローカルモードにします。
   ファンクションモードになっている場合は、そのまま操作手順②から始めます。

   ＜＜ローカル＞＞
   ハバ：１６２０ｍｍ

2. **【FUNCTION】キーを1回押します。**

   FUNCTION
   ＦＵＮＣＴＩＯＮ
   セッテイ　＜ＥＮＴ＞

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、メンテナンスを選びます。**

   ＦＵＮＣＴＩＯＮ
   メンテナンス　＜ＥＮＴ＞

4. **【ENTER】キーを押します。**

   ENTER
   メンテナンス
   ステーション　＜ｅｎｔ＞

5. **次の操作を選択します。**

   各メンテナンス機能の設定をして、メンテナンスを実行します。

布の接着力が弱くなったら[ﾍﾞﾙﾄ]

布の接着力が弱くなった場合は、地張り剤を塗り直す必要があります。本装置は、工場出荷時に地張り剤を塗布してありますが、インク、糸くず、ほこりなどで接着力が低下した場合は、地張り剤の塗り替えが必要です。以下は弊社純正地張り剤を使用する例を説明します。

●古い地張り剤を剥がす ..... インク、糸くず、ほこりなどで接着力が低下した地張り剤を剥がします。
●新しい地張り剤を塗る ..... 地張り剤を新しく塗布します。

● 塗り替えの目安
作図した布に正面カバーから出てきた時点で浮きが発生していたら、塗り替え時期です。

● 地張り剤の塗り替え目安時期を設定すると、塗り替え時期を気にせず作業をすることができます。(「メンテナンス目安時期を設定する［ｶｳﾝﾀｰﾘﾐｯﾄ］」の設定P.4-12参照)

ベルトジバリザイ ノコリ　１０００ｍ	ベルトジバリザイ ヌリナオシテクダサイ

★ 弊社純正の地張り剤は、溶剤系の地張り剤です。
かならず有機溶剤用保護マスク、ゴーグル、手袋を着用して、地張り剤の塗り替えを行ってください。

★ 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で地張り剤の塗り替えを行う場合は、必ず換気装置を設けてください。

★ 地張り剤を使用する場合、有機溶剤中毒予防規則を遵守してください。
また地張り剤の塗り替えを行う場合は、有機溶剤作業主任者技能講習を終了した方、または有機溶剤作業主任者が選任されている下で、作業を行ってください。

注意

★ 布が使用前からたるんでいて、搬送ベルトに張り付けする（加圧ローラを通した）時点で浮き・たるみが発生する場合は、地張り剤が原因ではありません。またその布は使用できません。

弱くなった地張り剤を剥がす

地張り剤を剥がす際には以下の物が必要です。

使用するもの	ご用意していただくもの
ドクタ 手袋	ウェス 灯油または軽油約500cc エタノール約200cc A4サイズ程度の板：(t0.5-1.0の端面がまっすぐな金属板または樹脂板)

● 口の小さな使いやすい容器に灯油（軽油)、エタノールを移しておくと便利です。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。(P.5-3 参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[ベルト]を選びます。

```
メンテナンス
ベルト                <ent>
```

4. 搬送ベルト上に布がある場合は、布を外します。

5. 繰り出しテンションバーが最下部にあることを確認します。

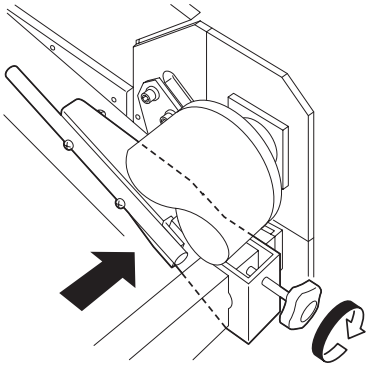
```
クリダシテンションバー
ヲ　サゲテクダサイ
```

6. 搬送ベルト上に布がないことを確認し、【ENTER】キーを押します。

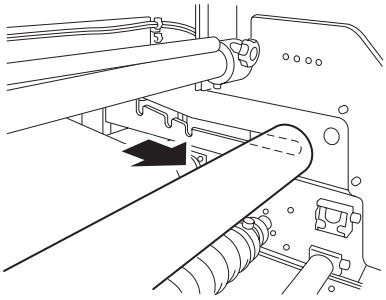
ENTER

```
メディアヲハズス
[ENT]ヲ　オシテクダサイ
```

7. 布端ガイドを左右両端に動かし、固定します。



8. 本装置背面の加圧ローラを退避させます。



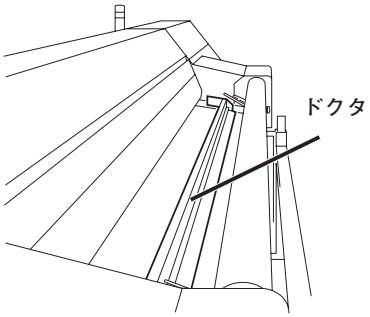
9. 【ENTER】キーを押します。

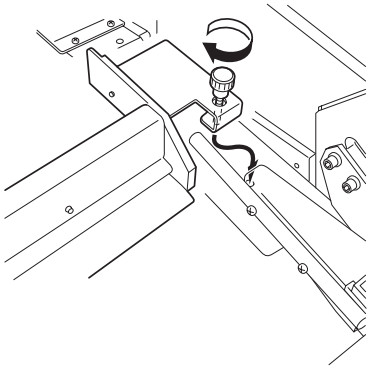
ENTER

```
カアツローラー　ヲ　タイヒ
[ENT]ヲ　オシテクダサイ
```

10. 地張り剤を剥がすために、本装置前面にドクタをセットします。

ドクタは正面カバーと引き剥がしローラの間にセットします。固定ネジをしっかり締めます。





11. 【ENTER】キーを押し、搬送ベルトを回転させます。

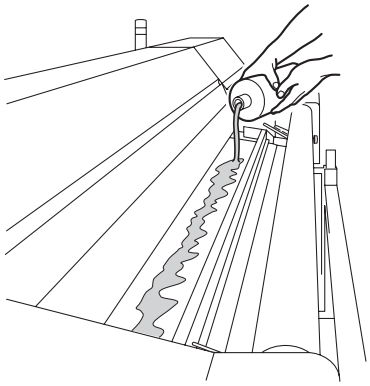
ベルトメンテナンス
カイシ　　：ent

ジョグキー【▲】【▼】を押し、ベルト速度を30mm/sくらいまで調節しながら、搬送ベルトを送り出します。

テイシ［END］キー
ソクド　　＝10mm／s

テイシ［END］キー
ソクド　　＝30mm／s

12. ドクタの後ろ側に灯油または軽油を垂らします。ベルト表面地張り剤に十分しみこむまで

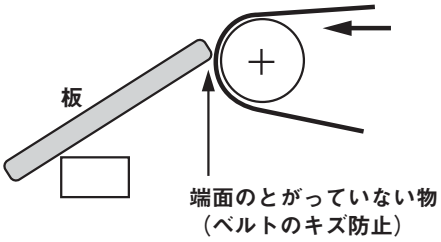


注意

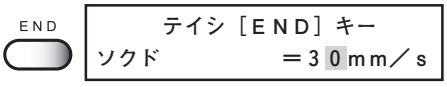
★ 地張り剤をはがす場合、灯油（軽油）を余計に垂らしすぎると、ドクタの端から漏れて搬送ベルトをつたって洗浄水受けに垂れることがあります。灯油（軽油）が洗浄水と混ざると、ベルト洗浄をしながら作図する場合に、地張り剤の接着力を低下させる原因となります。地張り剤を塗り替えてから急に接着力が落ちてしまった場合は、灯油（軽油）が洗浄水に混ざってしまった可能性があります。地張り剤の剥離、塗布後はかならず洗浄水タンクを確認し、洗浄水に灯油（軽油）が混ざっていないかを確認してください。混ざっていることがわかった場合は、メンテナンスメニューの「ベルトクリーング」（⇒P.3-34）で、搬送ベルトを洗浄してください。その場合は中性洗剤を洗浄水タンクに少量入れ、搬送ベルトを搬送させます。その後、洗浄水タンクの水を新しい水と交換してください。

行います。

13. 板の端面を右図のＲ外周上に押し当てます。

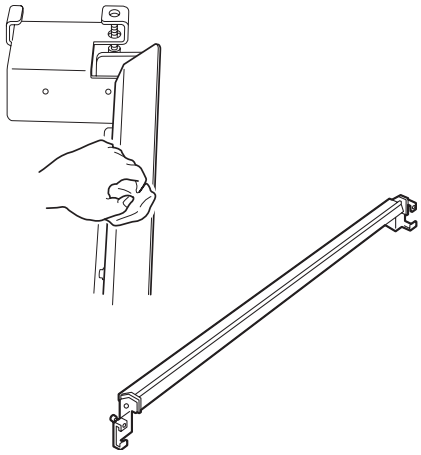


14. 必要に応じ、ベルト速度を調節しながら、灯油（軽油）でゲル状となった地張り剤をそぎ取ります。時々ベルト上には灯油（軽油）を垂らし、乾燥を防ぎます。

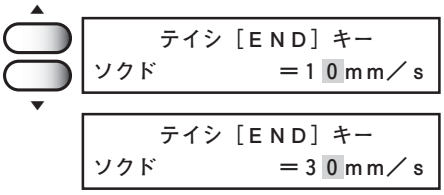


15. 【END】キーを押して、ベルトの送りを止めます。

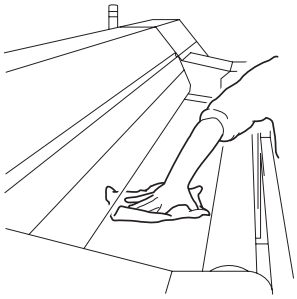
16. ドクタを外し、ゴムに付着した地張り剤、ゴミ等を灯油（軽油）とウェスでクリーニングします。



17. ジョグキー【▲】【▼】を押し、ベルト速度を調節しながら、再度ベルトを送り出します。



18. ゲル状になった地張り剤を剥がせたら、ウェスでベルト上の取り残した地張り剤をきれいにふき取ります。必要に応じ、灯油（軽油）をたらします。



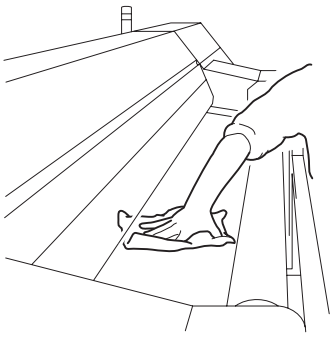
19. ジョグキー【▲】【▼】を押し、ベルト速度を調節しながら行います。

テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝１０ｍｍ／ｓ

テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝３０ｍｍ／ｓ

20. ベルト表面の灯油（軽油）をウェスで出来るだけ拭き取ります。

21. エタノールをしみこませたウェスで残った油脂分をふき取り、ベルト表面をきれいにします。



22. 【ENTER】キーを押して、ジバリザイカウンターをリセットし、終了します。

または【END】キーを押して、リセットせずに終了します。

ジバリザイカウンター
リセット　　：ｅｎｔ

メンテナンス
ベルト　　＜ｅｎｔ＞

注意

★ 地張り剤の剥離、塗布後はかならず洗浄水タンクを確認し、洗浄水に灯油（軽油）が混ざっていないかを確認してください。

新しい地張り剤を塗る

地張り剤を塗るためには以下の物が必要です。

ドクタ、地張り剤（ポリックスレジン SX500cc（別売：付録参照））、手袋

★ 弊社純正の地張り剤は、溶剤系の地張り剤です。
かならず有機溶剤用保護マスク、ゴーグル、手袋を着用して、地張り剤の塗り替えを行ってください。

★ 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で地張り剤の塗り替えを行う場合は、必ず換気装置を設けてください。

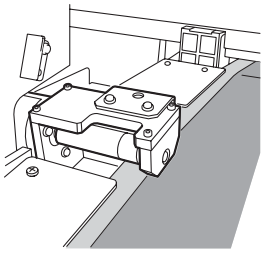
★ 地張り剤を使用する場合、有機溶剤中毒予防規則を遵守してください。
また地張り剤の塗り替えを行う場合は、有機溶剤作業主任者技能講習を終了した方、または有機溶剤作業主任者が選任されている下で、作業を行ってください。

注意

★ 市販の地張り剤を使用する場合は、その溶剤成分と本装置のベルト材質との相性を必ず確認してください。使用する場合は、弊社代理店または各営業所にご相談ください。

注意

★ 本装置正面左側にあるベルトエンコーダローラの接触エリアとφ６穴近辺には地張り剤が付着しないように注意してください。装置が正常に動作しなくなりｼﾏす。



操作手順

1. メンテナンスモードにします。（P.5-3 参照）

FUCNTION
メンテナンス　＜ENT＞

2. 【ENTER】キーを押します。

メンテナンス
ステーション　＜ent＞

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して､[ベルト]を選びます。

メンテナンス
ベルト　＜ent＞

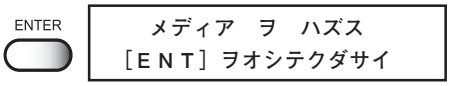
4. 【ENTER】キーを押します。

5. 搬送ベルト上に布がある場合は、布を外します。

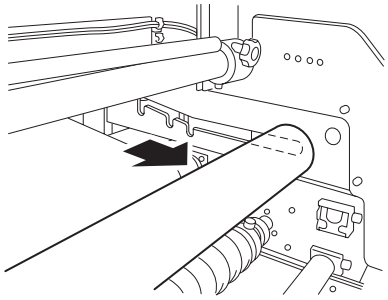
6. 繰り出しテンションバーが最下部にあることを確認します。

クリダシテンションバー
ヲ　サゲテクダサイ

7. 搬送ベルト上に布がないことを確認し、
【ENTER】キーを押します。



8. 加圧ローラを退避させます。

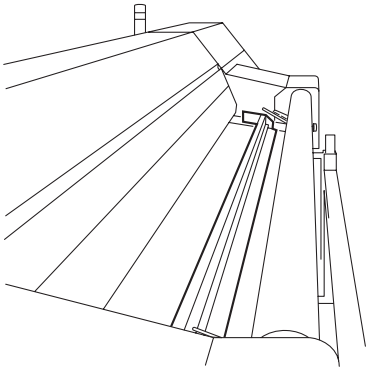


9. 【ENTER】キーを押します。

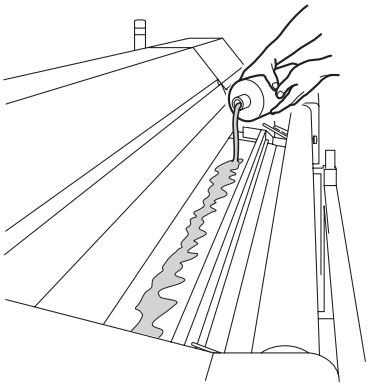
10. ドクタをセットします。（P.5-5 参照）

注 意

★ 布端ガイドを左右両端に動かし、
固定してください。



11. 地張り剤 150 ～ 200cc をドクタのすぐ後ろ
側にほぼ均等に垂らします。



12. 【ENTER】キーを押し、搬送ベルトを回転させます。

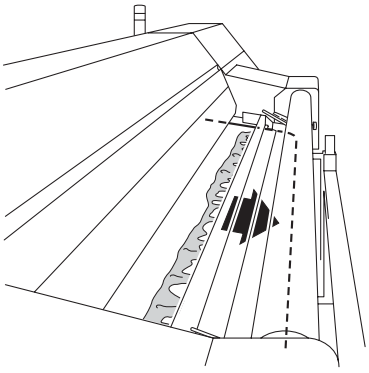
ベルトメンテナンス
カイシ　　：ｅｎｔ

ジョグキー【▲】【▼】を押し、ベルト速度を30mm/sくらいまで調節しながら、搬送ベルトを送り出します。

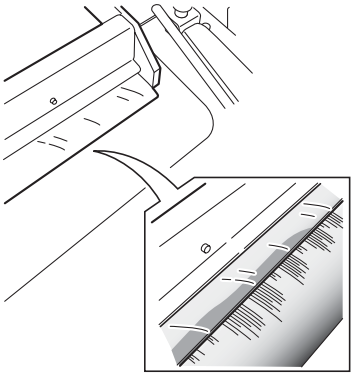
テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝１０ｍｍ／ｓ

テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝３０ｍｍ／ｓ

● 地張り剤の粘度が高い場合はベルト速度を速くしてください。



● ドクタゴム部は半透明のため、地張り剤が少なくなることが確認できます。減ったところには、地張り剤を補充しながら、ベルト全面に塗布します。

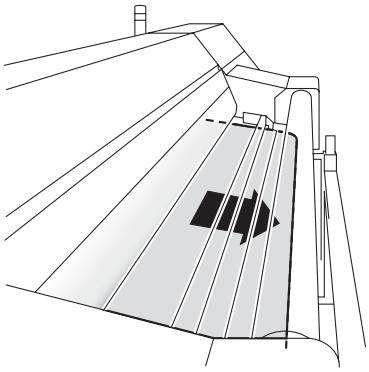


13. ベルト全面に地張り剤が行き渡ったら、ベルト速度を上げます。

テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝３０ｍｍ／ｓ

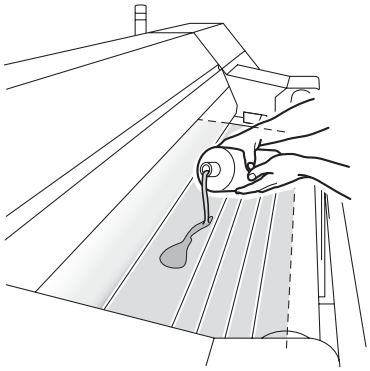
テイシ［ＥＮＤ］キー
ソクド　　＝６０ｍｍ／ｓ

ジョグキー【▲】【▼】を押し、ベルト速度を 50 ～ 60mm/s 程度に上げます。

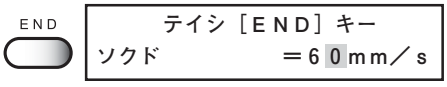


14. 残りの地張り剤をすべて垂らします。

半透明のドクタゴムを通して垂らした地張り剤がすべてベルトに塗られたことを確認します。

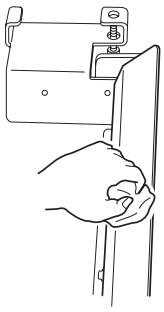


15.【END】キーを押し、ベルトの送りを止めます。

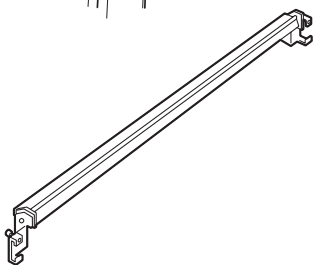


16. ドクタを外し、次回使用時のためにドクタをクリーニングします。

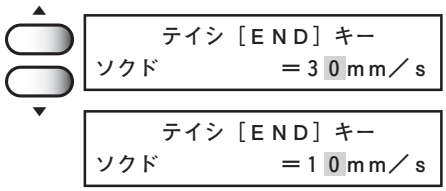
ゴムに付着した地張り剤を灯油（軽油）とウェスでクリーニングします。



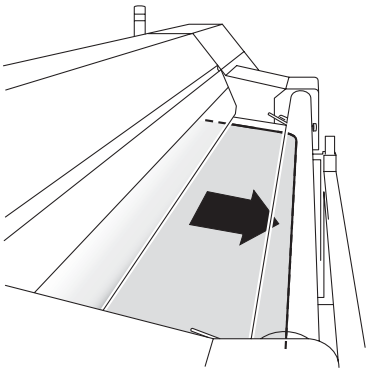
クリーニングしたドクタは放置し、乾かします。



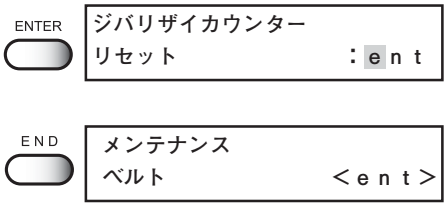
17. 【ENTER】キーを押して、ベルト速度10mm/sで搬送ベルトを回します。



18. 地張り剤を乾燥させるため、そのまま最低２～３時間回したまま放置します。



19. 【ENTER】キーを押して、ジバリザイカウンターをリセットし、終了します。



または【END】キーを押してリセットせずに終了します。

設定状態を作図する[ﾘｽﾄ]

本装置の設定状態を出力します。
メンテナンスの参考にしてください。

1. ファンクション機能の設定[ｾｯﾃｲ]に関する情報
2. メンテナンス機能のドット位置補正[ドットイチホセイ] の情報
3. 各インクカートリッジの交換回数
4. 本装置で使用中のファームウェアのバージョン情報
5. 保守（サービスマン用）に必要な各設定値

操作手順

1. **布がセットしてあることを確認します。**

2. **メンテナンスモードにします。**
   (P.5-3 を参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

3. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

4. **ジョグキー【▲】【▼】を押して､[リスト]を選びます。**

```
メンテナンス
リスト                <ent>
```

5. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
リスト
サクズ                :ent
```

6. **再度､【ENTER】キーを押し、リスト作図を開始します。**

ENTER

```
** サクズチュウ**
シバラクオマチクダサイ
```

7. **作図後、ローカルモードに戻ります。**

```
<<ローカル>>
ハバ：1620mm
```

●リスト出力図

```
LIST    (System Ver1.00 :I/F Ver1.00)

(1) ｾｯﾃｲ          <  ﾀｲﾌﾟ1 >          ﾀｲﾌﾟ2              ﾀｲﾌﾟ3              ﾀｲﾌﾟ4
  ﾒﾃﾞｨｱ ﾎｾｲ      0          [ﾊﾟﾈ]  0          [ﾎｽﾄ]  0          [ﾎｽﾄ]  40         [ﾎｽﾄ]
  ｻｸｽﾞ ﾎｳｼｷ                   [ﾊﾟﾈ]             [ﾎｽﾄ]             [ﾎｽﾄ]             [ﾎｽﾄ]
      ﾋﾝｼﾂ      ﾋｮｳｼﾞｭﾝ            ﾋｮｳｼﾞｭﾝ            ﾋｮｳｼﾞｭﾝ            ﾋｮｳｼﾞｭﾝ
      ﾎｳｺｳ      ﾀﾝﾎｳｺｳ            ﾀﾝﾎｳｺｳ            ﾀﾝﾎｳｺｳ            ﾀﾝﾎｳｺｳ
      ｶｸﾁｮｳ     OFF                OFF                OFF                OFF
  ｶｻﾈﾇﾘ        1          [ﾊﾟﾈ]  1          [ﾎｽﾄ]  1          [ﾎｽﾄ]  1          [ﾎｽﾄ]
  ﾐｷﾞﾏｰｼﾞﾝ      0mm                0mm                0mm                0mm
  ﾋﾀﾞﾘﾏｰｼﾞﾝ     0mm                0mm                0mm                0mm
  ﾘﾌﾚｯｼｭ       ﾚﾍﾞﾙ1      [ﾊﾟﾈ]  ﾚﾍﾞﾙ1      [ﾎｽﾄ]  ﾚﾍﾞﾙ1      [ﾎｽﾄ]  ﾚﾍﾞﾙ1      [ﾎｽﾄ]
  ﾐﾘﾉｲﾝﾁ       ﾐﾘ                 ﾐﾘ                 ﾐﾘ                 ﾐﾘ
  ｵｰﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ    OFF                OFF                OFF                OFF
```

作図コマンドをHEXコードで作図する[ﾃﾞｰﾀﾀﾞﾝﾌﾟ]

コンピュータから送信されるデータコマンドを、HEXコードで作図します。
HEXコードとは、作図コマンドを英数コードで表記したものです。
これにより、データコマンドに異常がないかを確認します。

注意

★ データダンプの出力をリーフ紙にする場合は、A4横置きサイズ以上の布を使用してください。ただし、「リーフ」を選択しても「ロール」と同じ動作をしますので、セット位置にご注意ください。

● データダンプは、使用する布のサイズに合わせて自動改行をして作図します。フィード方向はA4縦サイズまで作図すると、以降は作図しません。

操作手順

1. 布がセットしてあることを確認します。

2. メンテナンスモードにします。
(P.5-3を参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

3. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

4. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[データダンプ]を選びます。

```
メンテナンス
データダンプ          <ent>
```

5. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
データダンプ
```

6. ホストコンピュータからデータを送信します。

データダンプの作図を開始します。

```
**ダンプ**
シバラクオマチクダサイ
```

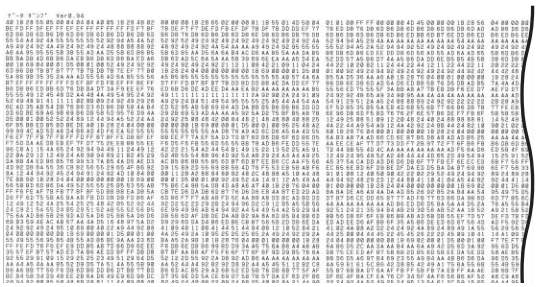
7. 作図が終了したら、【REMOTE】キーを押します。

REMOTE

```
<<ローカル>>
ハバ：1620mm
```

8. データクリアを実行します。(P.2-48参照)

●データダンプ出力図



使用するヘッドを切り替える[ｼｮｳﾍｯﾄﾞ]

ノズルトラブルが復旧しない場合は、使用するヘッドを前側または後ろ側に限定して作図を続けることができます。

ALL　:　F列とR列の両方を使用します。
REAR　:　R列のみ使用します。
FRONT　:　F列のみ使用します。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。（P.5-3 参照）

```
FUCNTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[シヨウヘッド］を選びます。

```
メンテナンス
シヨウヘッド          <ent>
```

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
シヨウヘッド
ヘッドライン          :ALL
```

5. ジョグキー【▲】【▼】を押して、使用するヘッドを選択します。

[ALL], [REAR], [FRONT]

```
シヨウヘッド
ヘッドライン          :REAR
```

6. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
シヨウヘッド          <ent>
```

7. 【END】キーを２回押してローカルモードになります。

END

```
<<ローカル>>
ハバ：1620mm
```

インク装填後の表示メニューについて[ｲﾝｸｼﾞｭｳﾃﾝ]

メンテナンス機能の中にインク充填のメニューがありますが、インク種類の交換や新規に装填した場合は本装置は自動的にインク充填をするため、通常はこの機能は使用しません。

異なる種類のインクに交換する場合[ｲﾝｸｺｳｶﾝ]

インク種類の交換は、現在使用しているインクと異なるタイプのインクを装填します。インクステーションにセットしてあるインクタイプと同じインクを使用する場合は、[ｲﾝｸ ｺｳｶﾝ]を実行する必要はありません。

注意

★ インクカートリッジは、ミマキ純正のインクカートリッジをご使用ください。純正以外のインクカートリッジまたはインクを使用し、トラブルが発生した場合は、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。

★ インク交換には、別途ヘッド洗浄液カートリッジが必要です。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。（P.5-3 参照）

```
FUNCTION
メンテナンス          ＜ENT＞
```

2. 【ENTER】キーを押します。

```
メンテナンス
ステーション          ＜ent＞
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[インクコウカン]を選びます。

```
メンテナンス
インクコウカン        ＜ent＞
```

4. 【ENTER】キーを押します。

```
インクコウカン
カイシ                ：ent
```

5. 対象とするインクカートリッジを取り外し、次に進みます。

```
カートリッジ　ヲ　ハズス
12345678ABCDEFGH
```

6. インクを排出します。

チューブ・中間タンク・ダンパ内のインクを排出します。

```
センジョウ　チュウ        1／7
                 00：06：00
```

7. 下側のインクスロットに洗浄液カートリッジをセットします。

状態を確認し、洗浄液カートリッジがセットされエラーがない場合、洗浄を実行します。

```
センジョウジグ　ヲ　セット
————5678————EFGH
```

8. 洗浄液を吸引します。

9. 洗浄液にてチューブ・中間タンク・ダンパ内を洗浄します。

```
センジョウ　チュウ        2／7
                 00：00：30
```

10. 下側のインクスロットから洗浄液カートリッジを取り外します。

状態を確認し、洗浄液カートリッジが取り外されたら次に進みます。

```
 センジョウジグ　ヲハズス
ーーーー５６７８ーーーーＥＦＧＨ
```

11. 上側のインクスロットに洗浄液カートリッジをセットします。

状態を確認し、洗浄液カートリッジがセットされエラーがない場合、洗浄を実行します。

```
 センジョウジグ　ヲ　セット
１２３４ーーーーＡＢＣＤーーーー
```

12. 洗浄液を吸引します。

13. 洗浄液にてチューブ・中間タンク・ダンパ内を洗浄します。

```
センジョウ　チュウ　　　３／７
　　　　　　　００：１３：２０
```

14. 上側のインクスロットから洗浄液カートリッジを取り外します。

状態を確認し、洗浄液カートリッジが取り外されたら次に進みます。

```
 センジョウジグ　ヲハズス
１２３４ーーーーＡＢＣＤーーーー
```

15. 下側のインクスロットに洗浄液カートリッジをセットします。

状態を確認し、洗浄液カートリッジがセットされエラーがない場合、洗浄を実行します。

```
 センジョウジグ　ヲ　セット
ーーーー５６７８ーーーーＥＦＧＨ
```

16. 洗浄液を吸引します。

17. 洗浄液にてチューブ・中間タンク・ダンパ内を洗浄します。

```
センジョウ　チュウ　　　４／７
　　　　　　　００：１３：２０
```

18. 下側のインクスロットから洗浄液カートリッジを取り外します。

状態を確認し、洗浄液カートリッジが取り外されたら次に進みます。

```
 センジョウジグ　ヲハズス
ーーーー５６７８ーーーーＥＦＧＨ
```

19. **上側のインクスロットに洗浄液カートリッジをセットします。**

状態を確認し、洗浄液カートリッジがセットされエラーがない場合、洗浄を実行します。

```
 センジョウジグ　ヲ　セット
１２３４ーーーーＡＢＣＤーーーー
```

20. **洗浄液を吸引します。**

21. **洗浄液にてチューブ・中間タンク・ダンパ内を洗浄します。**

```
センジョウ　チュウ　　　５／７
　　　　　　　　００：１２：５８
```

22. **上側のインクスロットから洗浄液カートリッジを取り外します。**

状態を確認し、洗浄液カートリッジが取り外されたら次ステップに進みます。

```
 センジョウジグ　ヲハズス
１２３４ーーーーＡＢＣＤーーーー
```

23. **下側のインクスロットに洗浄液カートリッジをセットします。**

状態を確認し、洗浄液カートリッジがセットされエラーがない場合、洗浄を実行します。

```
 センジョウジグ　ヲ　セット
ーーーー５６７８ーーーーＥＦＧＨ
```

24. **洗浄液を吸引します。**

25. **洗浄液にてチューブ・中間タンク・ダンパ内を洗浄します。**

```
センジョウ　チュウ　　　６／７
　　　　　　　　００：１２：５６
```

26. **下側のインクスロットから洗浄液カートリッジを取り外します。**

状態を確認し、洗浄液カートリッジが取り外されたら次に進みます。

```
 センジョウジグ　ヲハズス
ーーーー５６７８ーーーーＥＦＧＨ
```

27. **空気を吸引します。**

チューブ・中間タンク・ダンパ内を排出します。

洗浄動作が終了したら、インク初期充填モードになります。

```
センジョウ　チュウ　　　７／７
　　　　　　　　００：１４：００
```

28. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、インク種類を選択します。**

29. **【ENTER】キーを押します。インクカラーモード選択画面になります。**

```
　　インク　タイプ
タイプ　　　　　　：Ａｃｉｄ
```

```
　　インク　タイプ
タイプ　　　　　　：Ｒｅａｃ
```

30. ジョグキー【▲】【▼】を押して、充填するインクカラーモードを選択します。

```
インク　カラー　　［Ｒｅａｃ］
センタク　　　　　：８カラー
```

```
インク　カラー　　［Ｒｅａｃ］
センタク　　　　　：４カラー
```

31. 【ENTER】キーを押します。充填カートリッジ監視画面になります。

32. インクステーションカバーを開けます。

```
カートリッジ　　　［Ｒｅａｃ］
ーーーーーーーーＡＢＣＤＥＦＧＨ
```

33. 充填するインクのカートリッジをセットします。

カートリッジがセットされると、充填開始待ち画面になります。

```
インク　ジュウテン
カイシ　　　　　　：ｅｎｔ
```

34. インクステーションカバーを閉じます。

35. 【ENTER】キーを押して充填を開始します。

充填実行中を表示します。

```
ジュウテン　チュウ
　　００：００：００
```

充填実行残り時間を秒単位にて表示します。

```
ジュウテン　チュウ
シバラクオマチクダサイ
```

実行時間が残り１[ｓ]以下のときに表示が切り替わります。

36. 充填終了後、負圧解除動作をします。

ローカルモードに戻ります。

```
＜＜ローカル＞＞
　　ハバ：１６２０ｍｍ
```

注意

★ インク交換実行中に洗浄が終了すると初期充填の動作が実行されます。インクカートリッジ内のインク残量に注意してください。

カウンターをリセットする[カウンターリセット]

洗浄フィルタ、ベルトワイパーユニット、地張り剤、吸水ローラーのカウンターを初期化します。
下記のワーニングメッセージが表示された場合は、このメニューでリセットをすると表示が消えます。

ベルト　ジバリザイ ノコリ　１０００ｍ	ベルト　ジバリザイ ヌリナオシテクダサイ
キュウスイローラー ローラーヲカクニンシテクダサイ	センジョウスイタンク フィルタヲカクニンシテクダサイ

操作手順

1. **メンテナンスモードにします。**
   (P.5-3 を参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          ＜ＥＮＴ＞
```

2. **【ENTER】キーを 1 回押します。**

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          ＜ｅｎｔ＞
```

3. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、[カウンターリセット]を選びます。**

```
メンテナンス
カウンターリセット    ＜ｅｎｔ＞
```

4. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
カウンターリセット
センタク　：センジョウフィルタ
```

5. **ジョグキー【▲】【▼】を押して、初期化する項目を選択します。**

   [センジョウフィルタ]、[ベルトワイパ]、[ジバリザイ]、[キュウスイローラー]

```
カウンターリセット
センタク　：ジバリザイ
```

6. **【ENTER】キーを押します。**

ENTER

```
カウンターリセット
リセット              ：ｅｎｔ
```

7. **再度【ENTER】キーを押して、選択した項目を初期化します。**

   初期化後、[カウンターリセット] の表示に戻ります。

ENTER

```
メンテナンス
カウンターリセット    ＜ｅｎｔ＞
```

8. **【END】キーを 2 回押してローカルモードになります。**

END

```
＜＜ローカル＞＞
ハバ：１６２０ｍｍ
```

● 「ベルトワイパ」、「ジバリザイ」、「キュウスイローラー」のカウンターはカウンタログ表示で確認できます。(「本装置の情報を表示する 手順 11」P.1-23 参照)

本装置の情報を表示する[ﾏｼﾝｼﾞｮｳﾎｳ]

本装置のファームウェアバージョン、ANRユニットのバージョン、シリアル番号を表示します。トラブル発生時に、販売店または弊社営業所にこの情報とトラブル内容とをご連絡ください。

操作手順

1. メンテナンスモードにします。
   (P.5-3を参照)

```
FUNCTION
メンテナンス          <ENT>
```

2. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
メンテナンス
ステーション          <ent>
```

3. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[マシンジョウホウ]を選びます。

```
メンテナンス
マシンジョウホウ      <ent>
```

4. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
マシンジョウホウ
ヒョウジ          :バージョン
```

5. [バージョン]を選択して、【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
MAIN        Ver1.00
I/F         Ver1.00
```

バージョンを表示します。

● ANRユニットの設定が「ON」になっている場合は、ANRユニットのバージョンも表示します。
ジョグキー【▲】【▼】を押して表示させます。

```
ANRS        Ver1.00
```

6. 【END】キーを押し、前のメニューに戻ります。

END

```
マシンジョウホウ
ヒョウジ          :バージョン
```

7. ジョグキー【▲】【▼】を押して、[シリアルNo.]を選択します。

```
マシンジョウホウ
ヒョウジ          :シリアルNo.
```

8. 【ENTER】キーを押します。

ENTER

```
シリアルNo.
S/N   ********
```

シリアル番号を表示します。

9. 【END】キーを4回押すと、ローカルモードに戻ります。

END

```
マシンジョウホウ
ヒョウジ          :シリアルNo.
```

```
<<ローカル>>
ハバ:1620mm
```

6章
困ったときは

6章では、本装置になんらかの異常が発生した場合、エラーメッセージを表示した場合のトラブルの解消方法について説明します。

本章の内容

故障？と思う前に 6-2
作図不良がでたとき 6-4
メッセージを表示するトラブル 6-6

故障？と思う前に

ディスプレイにエラーメッセージが表示されないときのトラブルの対処方法について説明します。故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

電源が入らない

電源が入らないというトラブルの原因の多くは、電源やコンピュータのケーブルの接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。

電源ケーブルを本装置と電源コンセントに接続しましたか？

いいえ ⇨ 電源ケーブルを接続してください。

は　い ⇨ 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。
また、作図機能に不良が有る場合や、布のセット方法に問題が有る場合などが考えられます。

ご使用のインターフェイスケーブルが合っていますか？

いいえ ⇨ IEEE1394,1284に準拠したケーブルをご使用ください。→P.1-18

インターフェイスケーブルが確実にセットしてありますか？

いいえ ⇨ インターフェイスケーブルを確実にセットしてください。→P.1-18

⇩ はい

ディスプレイにインク切れのメッセージを表示していますか？

はい ⇨ 新しいインクカートリッジに交換してください。→P.2-55

⇩ いいえ

繰出しテンションバーが上に上がっていますか？

はい ⇨ 布ENDまたは繰出し回転逆となっていますので、ご確認ください。

⇩ いいえ

布が引き剥がしセンサーに対して大きくずれていますか？

はい ⇨ 再度布をセットし、布幅検出を行ってください。

⇩ いいえ

巻き取りテンションバーが上に上がっていますか？

はい ⇨ 巻き取り装置が「MANUAL」になっている場合は、「AUTO」にしてください。

布がスキューする／しわが発生する／汚れる

布のスキュー、しわ、汚れは、ご使用の布やセット方法に問題が有る場合などが考えられます。

現　　象	対　　応
使用インクに合った前処理済みの布をお使いですか？	インクに合った前処理済みの布をお使いください。
シワの入っていない布や、左右端が折れ曲がっていない布をお使いですか？	シワの入っている布や、左右端が折れ曲がっている布は使わないでください。
デニムのような厚い腰のある布を使用していますか？	デニムは腰が強すぎるため、スキューし始めると元に戻ることができません。使用しないか、監視しながら使用してください。
左右ガミング部に対し、中央がたるんでいる布を使用していますか？	湾曲バーを使用してください。
左右ガミング部がたるんでいる布を使用していますか？	左右ガミング部が極端にたるんでいる布は使用できません。
紙管が曲がっていませんか？	付属の紙管サポートを使用して、布をセットしてください。（→P.2-34）

作図不良がでたとき

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても、なおらない場合は販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

現　　象	対　　応	備　　考
黒スジが発生する	1. メディア補正値を増やす。 2. 繰出しテンションバーを軽くする ・ウェイトを使用する	主に印字すると縮みやすい布に見られる現象。
白スジが発生する かすれが気になる （ヘッド方向移動）	1. メディア補正値を減らす。 2. ヘッドクリーニングをしてください。→ P.2-45 ページ 3. ステーション内部のメンテナンスをしてください。→P.3-10 ページ 4. メディア補正をしてください。→ P.2-46 ページ 5. ANR ユニットの 設定を ON にしてください。→ P.4-21 ページ 6. 作図中またはポーズ中は、布、搬送ベルトに触らないでください。	
加圧ローラー後で布中央にシワ、たるみが発生	1. 湾曲バーを使用する 2. 繰出しテンションバーを重くする ・ウェイトを外す	主に曲がりのある、または局所的なたるみのあるガミング部に対し中央が弛んでいる、布に見られる現象。
地張り部で縦しわが入る	1. 細く強度のない紙管、または曲がった紙管を使用していないか、確認する。⇒紙管を交換する。 2. 繰出しテンションバーを軽くする ・ウェイトを使用する 3. しわ取りローラを使用しない	薄く腰の無い素材、薄いストレッチ材に見られる現象
地張り部で布左右端にしわが入る	地張り部で布左右端にしわが入る 1. 繰出しテンションバーを重くする ・ウェイトを外す	ガミング部が布中央と比べ、弛んでいる布に見られる現象
往復印字にズレが発生する	「ドット位置補正」機能を実行してください。→ P.2-39 ページ	
色ごとにインクが重ならない	「ドット位置補正」機能を実行してください。→ P.2-39 ページ	
後処理上がりで色が変わる	布保管状態（温度・湿度）プリント後の布保管状態（温度・湿度）の他に特に夜間無人運転をする場合は、プリント中の温度・湿度にも注意し一定になるようにしてください。	同一の布、前処理データにも関わらず、発色が異なる

現　　象	対　　応	備　　考
布左右方向で、場所によりピッチの異なる縞模様が発生する	地の目が曲がっています。前処理業者に地の目を合わせるよう、指導が必要です。 下記：縞模様　例 	間に隙間の空いたライン状のデータで目立つ

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。
メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングエラー

インク関連に対して発生します。

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
インクエンド 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	充填したインクが終わりました。	表示している番号のインクカートリッジを交換してください。交換後、インクステーションカバーを閉めてください。
インク　ニアエンド 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	充填したインクの残量が少なくなりました。	1ファイル作図できます。早めに表示している番号のインクカートリッジを交換してください。交換後、インクステーションカバーを閉めてください。
インクカートリッジ 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	インクカートリッジが、インクステーションに取り付けてありません。	表示している番号のインクカートリッジをインクステーションに取り付けてください。
カートリッジ　インクエンド 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	カートリッジ内のインクが終わりました。	表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
インク　カラー　エラー 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	装填したインクカートリッジの色が、前回充填した色と異なります。	表示している番号のインクカートリッジの色を確認してください。
インクタイプ　エラー 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	装填したインクカートリッジの種類が充填した種類と異なります。	充填したインクカートリッジの種類を確認してください。
インク　IC　エラー 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	インクカートリッジのICチップが正常に読めませんでした。	表示している番号のインクカートリッジを再挿入してください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
カートリッジ　エラー 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	インクIC内に異常な情報が発生しました。	再度、表示している番号のインクカートリッジを交換してください。
インク　ヒジュンセイインク 1 2 3 4 5 6 7 8 A B C D E F G H	セットされているインクカートリッジが純正品ではありません。	ICチップ付きの純正インクインクカートリッジをご使用ください。

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
インク　キゲン １２３４５６７８ＡＢＣＤＥＦＧＨ	インクカートリッジの有効期限が切れている、あるいは切れかかっています。	充填したインクカートリッジの期限を確認してください。
インク　ザンリョウ　フソク １２３４５６７８ＡＢＣＤＥＦＧＨ	初期充填を実行するためのインク残量が足りません。	インク残量が十分なインクカートリッジを入れ直してください。
ワイパ ワイパヲコウカンシテクダサイ	キャッピングステーションのワイパ交換時期、及びスライダ下面に付着したインクのクリーニング時期です。	【REMOTE】を押すと、作図ができます。電源を入れる度にエラーを表示しますので、早めに新しいワイパに交換し、スライダ下面のクリーニングをしてください。（P.3-16 参照）
ワイパ ワイパジククリーニング	キャッピングステーションのワイパ軸に付着したインクのクリーニング時期です。	メンテナンス機能-ステーション-キャリッジアウトを実行し、ワイパ軸をクリーニングしてください。キャリッジアウトを実行するとワーニングメッセージ表示は消えます。（P.3-14 参照）
メンテカバー カバーヲシメテクダサイ	正面カバーまたはステーションカバーが開いています。	正面カバーまたはステーションカバーを閉めてください。
インクステーション カバーヲシメテクダサイ	インクステーションカバーが開いてます。	インクステーションカバーを閉めてください。
ヘッド ヘッド　ＩＤ　ミトウロク	ヘッド ID が登録されていません。	電源を再投入します。再度表示する場合、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
メディア　エンド サクズ　［ＲＥＭＯＴＥ］キー	繰り出しテンションバーの位置で、布がたるんだ状態になっています。	1.【REMOTE】キーを押して作図を開始します。 2. 布を再セットしてください。（布たるみ防止、P.2-21 参照）
マキトリ マキトリ　リミット	巻き取りテンションバーが一定時間以上、最上位置にあります。	布および巻き取りテンションバーを確認してください。またはテンションバーを下げます。
マキトリ マキトリ　エラー	ヒーター設定が「OFF」の時、巻き取りテンションバーが長時間、最下位置にあります。	布および巻き取りテンションバーを確認してください。またはテンションバーを上げます。

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
マキトリ タルミヲカクニンシテクダサイ	巻き取りテンションバーが一定時間以上、最下位置にあります。	布および巻き取りテンションバーを確認してください。またはテンションバーを上げます。
クリダシ クリダシ　リミット	繰り出しテンションバーが一定時間以上、最上位置にあります。	繰り出しテンションバーを下げて、布及び巻き取りテンションバーを確認してください。
ヘッドタカサ タカサヲカクニンシテクダサイ	ヘッド保護センサーが異常を検出しました。	布押さえおよび布平面の状態（たるみ、浮き）を確認してください。
Ｙメインガイド メインガイドクリーニング	Ｙメインガイド軸に付着した汚れのクリーニング時期になりました。	メンテナンス機能 - メインガイドを実行して、Ｙメインガイド軸をクリーニングしてください。キャリッジアウトを実行するとワーニングメッセージ表示は消えます。（P.3-29 参照）
フラッシングＢｏｘ インクヲ　ステテクダサイ	ランニングフラッシングボックスに溜まったインクの廃棄時期になりました。	ランニングフラッシングボックスのインクを捨ててください。 フィルタを確認し、汚れている場合はクリーングを実行しください。（P.3-25 参照）
フラッシングボックス Ｂｏｘ　ガ　アリマセン	ランニングフラッシングボックスがありません。	ランニングフラッシングボックスを装着してください。（P.3-25 参照）
テイオン ヒドウサオンド	動作可能温度 5℃以下です。	周辺環境の温度を適温まで調節してください。
バッテリコウカン	バッテリの交換時期です。	販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ベルトセンジョウ センジョウスイオーバーフロー	ベルト洗浄トレー内の水が溢れそうです。	洗浄液タンクのフィルタが目詰まりを起こしている、またはホースにゴミ詰まりが起きています。フィルタを交換し、ホース出口を掃除してください。

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
ヒキハガシエラー ［ＥＮＴ］ヲ　オシテクダサイ ↓ ENTER ヒキハガシエラー メディアカクニンシテクダサイ	引き剥がし動作異常発生しました。	布の位置を確認します。 1. ヘッド位置まで剥がれている場合 ● 加圧ローラの位置をHIGHにしてください。 ● 印字率を下げ、再作図してください。 ● 地張り剤が弱くなっています。地張り剤を塗りなおしてください。 2. 布が搬送ベルトに付いたまま下まで搬送されてしまう場合は、加圧ローラ位置をLOWの位置へ移動します。 3. 再度表示する場合は販売店、または弊社営業所にサービスコールしてください。
センジョウスイ　タンク センジョウスイヲ　カクニン ↓ ローカルモード センジョウスイ　タンク ［ＥＮＴ］ヲ　オシテクダサイ ↓ ENTER センジョウスイ　タンク センジョウスイヲ　カクニン	洗浄液タンク内の水が少なくなりました。	洗浄液タンクに水を追加してください。
センジョウスイタンク フィルタヲカクニンシテクダサイ	ベルト洗浄の洗浄水フィルタの交換時期です。	洗浄水フィルタを新しく交換してください。その後メンテナンス機能 - カウンタリセットを実行し、洗浄フィルタのカウンタをリセットします。(P.5-22参照)
ベルト　ジバリザイ ノコリ　３００ｍ	残り300mで、搬送ベルトの地張り剤を塗り直す時期です。	新しく地張り剤を塗り直してください。(P.5-4 参照) その後メンテナンス機能 - カウンタリセットを実行し、「ジバリザイ」のカウンタをリセットします。(P.5-22 参照)
ベルト　ジバリザイ ヌリナオシテクダサイ	搬送ベルトの地張り剤を塗り直す時期です。	

ワーニングメッセージ	原因	対処方法
キュウスイローラー ローラーヲカクニンシテクダサイ	吸水ローラーの汚れ確認時期になりました。	吸水ローラーのクリーニングを行ってください。(P.3-6 参照) その後メンテナンス機能 - カウンタリセットを実行し、「キュースイローラー」のカウンタをリセットします。(P.5-22 参照)
ＡＮＲユニット メディアガアリマセン	ANRSチェックメディアがありません。	新しいチェックメディアをセットしてください。
ＡＮＲユニット ヘッドクリーニング［ＥＮＴ］	ANR で、異常ノズルを発見しました。	【ENTER】キーを押し、プリントヘッドのクリーニングを実行します。(P.2-45 参照)
ＡＮＲユニット メディア　ニアエンド	ANRS チェックメディア残量が残りわずかです。	新しいチェックメディアを用意してください。
ＡＮＲユニット サクズヲチュウダンシマシタ	ANR ユニットがノズル抜けを発見しました。	プリントヘッドのクリーニングを行ってください。(クリーニング機能 P.2-45)
サービスコール １０１	ANR ユニットの巻き戻しモータの交換時期になりました。	継続して使用できますが、お早めに販売店、または弊社営業所にサービスコールしてください。
サービスコール １０２	ANR ユニットの巻き取りモータの交換時期になりました。	
サービスコール １１１	ANR ユニット赤光源 LED の交換時期になりました。	
サービスコール １１２	ANR ユニット青光源 LED の交換時期になりました。	
サービスコール １３３	引き剥がしセンサーの光量が低下しています。	引き剥がしセンサーのメンテナンスが必要です。継続して使用できますが、お早めに販売店、または弊社営業所にサービスコールしてください。

エラーメッセージ

エラー番号を表示します。
エラーメッセージを表示した場合は、電源をオフにしてしばらくたってから電源をオンにしてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡（サービスコール）ください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR01 MAIN ROM	制御ROMに異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 02 MAIN RAM	制御RAMに異常が発生しました。	
ERROR03 POWER +35V	内部電源に異常が発生しました。	
ERROR 04 F－ROM	パラメータROMに異常が発生しました。	
ERROR07 TEMP （0000）	異常な温度検出が発生しました。	
ERROR08 LINEAR ENCODER	リニアエンコーダの検出で異常が発生しました。	
ERROR09 FPGA ERROR09 HDC	制御基板に異常が発生しました。	
ERROR10 COMMAND	コマンドデータ以外のデータを受信しました。	インターフェイスケーブルを確実に接続してください。
ERROR11 PARAMETER	数値範囲外のパラメータを受信しました。	ホストコンピュータの出力設定を確認してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR12 MAINTE COMMAND	メンテナンス制御コマンドに異常があります。	ホストコンピュータの出力設定を確認してください。
ERROR 13 RIP LINK	弊社以外のRIPを使用しました。	
ERROR14 COLOR COMMAND	未対応の色指定データを受信しました。	
ERROR20 I／F BOARD	I/Fボードとメイン基板の通信でエラーが発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR21 I／F NONE	I/Fボードが装着されていません。	I/Fボードを装着してください。
ERROR 23 HOST I／F	ホストコンピュータとI/Fボードとの通信にタイムアウトエラーが発生しました。	ケーブルが確実に接続してあるか、またはホストコンピュータ側でエラーが発生していないか確認してください。
ERROR24 I／F INITIAL	I/Fボードの初期化で異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR30 オペレーション エラー	操作パネルで不当なオペレーションをしました。	正しいオペレーションをしてください。
ERROR34 ミサクズ データ アリ	受信済みで未作図のデータがあるのに、ファンクション機能の設定機能を変更しようとしました。	受信済みのデータをすべて作図するか、データクリアを実行してから、設定機能を変更してください。

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 40 モーターアラーム　X	Xモーターに過大な負荷がかかりました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 41 モーターアラーム　Y	Yモーターに過大な負荷がかかりました。	
ERROR 42 X　OVER　CURRENT	Xモーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 43 Y　OVER　CURRENT	Yモーターの過電流エラーを検出しました。	
ERROR 45 CAPPING	ヘッドキャッピング制御に異常が発生しました。	
ERROR 46 WIPING	ワイピング装置に異常が発生しました。	
ERROR 50 メディアケンシュツ	布幅検出ができませんでした。	セットした布の左右端の位置が不適切です。 正しくセットしても、エラーを表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 51 Y　ORIGIN	原点検出ができませんでした。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 60 マキトリユニット　n	巻き取り装置に異常が発生しました。 n=01 : センサー故障エラー	
ERROR 61 クリダシユニット　n	繰り出し装置に異常が発生しました。 n=01 : センサー故障エラー	

<table>
<tr><th>エラーメッセージ</th><th>原因</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１０
ＡＮＲＵ　ＬＥＤ　ｎ</td><td>ANRユニットのLED光量が異常です。
n=R：赤、n=B：青</td><td rowspan="5">ＡＮＲユニット　ヲ　ムコウ
Ｙｅｓ［ＥＮＴ］Ｎｏ［ＥＮＤ］

■【ENTER】キーを押し、ANRユニットの機能を無効にして、ローカル画面に戻ります。ANRユニット無効後、作図中でもANRユニットは動作しません。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

■【END】キーを押し、ANRユニットを無効にしない場合はエラーが表示されたまま、自動的に電源オフになります。
販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ１１１
ＡＮＲＵ　ＲＯＭ　ｎ</td><td>ANRユニットF-ROMエラーが発生しました。n=内容信号</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ１１２
ＡＮＲＵ　ＲＡＭ　ｎ</td><td>ANRユニットS-RAMエラーが発生しました。n=内容信号</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１３
ＡＮＲＵパラメータ ｎ</td><td>ANRユニットパラメータ異常です。
n=内容番号</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１５
ＡＮＲＵ　Ｚ　ＯＲＩＧＩＮ</td><td>ANRユニットのＺ原点検出が実行できません。</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１６
ＡＮＲＵ　Ｉ／Ｆ　００Ｈ</td><td>ANRユニットのI/Fエラーが発生しました。</td><td>一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１７
ＡＮＲＵ　ＦＰＧＡ</td><td>ANRユニットのFPGAエラーが発生しました。</td><td rowspan="2">ＡＮＲユニット　ヲ　ムコウ
Ｙｅｓ［ＥＮＴ］Ｎｏ［ＥＮＤ］

■【ENTER】キーを押し、ANRユニットの機能を無効にして、ローカル画面に戻ります。ANRユニット無効後、作図中でもANRユニットは動作しません。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

■【END】キーを押し、ANRユニットを無効にしない場合はエラーが表示されたまま、自動的に電源オフになります。
販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>ＥＲＲＯＲ １１８
ＡＮＲＵ ＳＨＡＤＩＮＧ</td><td>ANRユニットのシェーディングデータが異常です。</td></tr>
</table>

エラーメッセージ	原因	対処方法
ERROR 130 BELT ORIGIN	ベルト原点検出時に制御異常が発生しました。	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 131 BELT ENCODER	ベルトエンコーダ制御異常が発生しました。	
ERROR 132 センジョウブラシ	ベルト洗浄ブラシ初期化時にエラーが発生しました。	
ERROR 133 ヒキハガシセンサー 00H	ヒキハガシセンサーの光量異常が発生しました。	販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 140 チュウカン タンク nnH	中間タンクセンサーに異常が発生しました。 （nn：中間タンク番号）	一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示するときは、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR 141 INK SENSOR BOARD	インクセンサー基板の異常、および接続不良が発生しました。 本装置がシステムダウンします。	
ERROR 142 INK SUPPLY nnH	インク供給システムに異常が発生しました。 （nn：インク供給経路番号）	販売店または営業所にサービスコールしてください。

付録

付録では、各種仕様や構成品、ファンクションメニュー構造を示します。

本章の内容

基本仕様 ..... 付録 -2
インク仕様 ..... 付録 -4
別売品のご紹介 ..... 付録 -5
警告ラベルについて ..... 付録 -6
機能フローチャート ..... 付録 -7

基本仕様

項　目		Tx3-1600	
		８色セット	４色セット
作図ヘッド部	方式	ドロップオンデマンドピエゾヘッド	
	仕様	8ヘッド（4 x 2列　スタガ配列）	
	ノズル構成	各色360ノズル	各色720ノズル
作図分解能		360, 540, 720, dpi	
作図モード		360 x 360 dpi : 2/4/8 pass, 双方向/単方向 360 x 540 dpi : 3/6/12 pass, 双方向/単方向 360 x 720 dpi : 4/8/16 pass, 双方向/単方向 720 x 720 dpi : 4/8/16 pass, 双方向/単方向	360 x 360 dpi : 2/1/4 pass, 双方向/単方向 360 x 540 dpi : 3/6/12 pass, 双方向/単方向 360 x 720 dpi : 2/4/8 pass, 双方向/単方向 720 x 720 dpi : 2/4/8 pass, 双方向/単方向
使用可能インク	酸性染料インク	色（ｸﾞﾚｰ, ﾌﾞﾗｯｸ, ｼｱﾝ, ﾏｾﾞﾝﾀ, ｲｴﾛｰ, ﾗｲﾄｼｱﾝ, ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ, ﾌﾞﾙｰ, ﾚｯﾄﾞ）	
	反応染料インク	色（ｸﾞﾚｰ, ﾌﾞﾗｯｸ, ｼｱﾝ, ﾏｾﾞﾝﾀ, ｲｴﾛｰ, ﾗｲﾄｼｱﾝ, ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ, ﾌﾞﾙｰ,ｵﾚﾝｼﾞ,ﾚｯﾄﾞ,ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｲｴﾛｰ）	
	分散染料インク	色（ｸﾞﾚｰ, ﾌﾞﾗｯｸ, ｼｱﾝ, ﾏｾﾞﾝﾀ, ｲｴﾛｰ, ﾗｲﾄｼｱﾝ, ﾗｲﾄﾏｾﾞﾝﾀ, ﾌﾞﾙｰ, ﾗｲﾄﾌﾞﾙｰ）	
	捺染顔料インク	色（ﾌﾞﾗｯｸ, ｼｱﾝ, ﾏｾﾞﾝﾀ, ｲｴﾛｰ）	
インクセット		＜1色あたり2カートリッジ＞ 酸性染料インク8色専用のプリント 反応染料インク8色専用のプリント 分散染料インク8色専用のプリント	＜1色あたり4カートリッジ＞ 酸性染料インク４色専用のプリント 反応染料インク４色専用のプリント 分散染料インク４色専用のプリント 捺染顔料インク４色専用のプリント
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インク残量表示機能あり インクエンド検出機能あり インクカートリッジ（インクパック）交換方式	
インク容量		各色(220 cc ± 10 cc）x 2カートリッジ 各色(1000 cc ± 30 cc）x 2インクパック	各色(220 cc ± 10 cc）x 4カートリッジ 各色(1000 cc ± 30 cc）x 4インクパック
使用可能布		以下を除く布 ・　カール、折れの入った布 ・　発火点の低い布（乾燥ユニットを使用する場合）	
最大作図範囲		幅：1620 mm	
ロール布サイズ	厚さ	7.0 mm以下	
	ロール外形	ϕ 270 mm以下	
	ロール重量	38 Kg以下	
	紙管内径	２インチ以上	
	作図面	内/外　不問	
	巻終わり処理	紙管にテープ止め（弱粘着のこと）	
作図マージン	左右	10 mm ± 0.5 mm	
	前後	前：約2400mm（巻き取り装置セット時） 後：約800mm/約2800mm（繰り出し紙管を外れてから）	

項　目		Tx3-1600
距離精度	絶対精度	± 0.5 mm または指定距離の ± 0.3 % の大きい方
	再現性	± 0.5 mm または指定距離の ± 0.3% の大きい方
直角度		± 0.5 mm /1000 mm
ヘッド高さ調整		プラテン面より 1.3 mm～10 mm可変
布裁断		カッタ機能無し
排紙		ロール巻取装置標準
廃インクタンク		廃インクホース及び廃インクタンク標準
インターフェース		IEEE1394, IEEE1284
コマンド		MRL-1F＜ESC/P ﾚﾍﾞﾙ 1 ﾍﾞｰｽ　ミマキオリジナルコマンド＞
適合規格		VCCI クラスA, FCC クラスA, CEマーキング(EMC指令, 低電圧指令), CBレポート、UL60950
電源仕様	本体	AC100 V - 240 V ± 10 %（ｵｰﾄﾎﾞﾙﾃｰｼﾞ） 50/60 Hz ± 1 Hz
	ヒータ	AC100 V - 120 V ± 10 %　いずれも50/60Hz　±1Hz AC200 V - 240 V ± 10 %
	ブロワ	AC100 V - 120 V ± 10 %　いずれも50/60Hz　±1Hz AC200 V - 240 V ± 10 %
消費電力	本体	800 W 以下
	ヒータ	1500 W 以下
	ブロワ	600 W 以下
設置環境	使用可能温度	15 ℃～30 ℃
	相対湿度	35～65 %Rh（結露なきこと)
	精度保証温度	18 ℃～25 ℃
	温度勾配	± 10 ℃/h以下
	粉塵	オフィス相当
重量	全体	650Kg 以下
外形寸法	幅	3250 mm
	奥行き	1550 mm
	高さ	1400 mm

インク仕様

項　目		仕　様		
形態		専用インクカートリッジ	220cc	1000cc
色（酸性染料インク）		ブラック	SPC-0355K	SPC-0392K
		シアン	SPC-0355C	SPC-0392C
		マゼンタ	SPC-0355M	SPC-0392M
		イエロー	SPC-0355Y	SPC-0392Y
		ライトシアン	SPC-0355LC	SPC-0392LC
		ライトマゼンタ	SPC-0355LM	SPC-0392LM
		グレー	SPC-0355GR	SPC-0392GR
		ブルー	SPC-0355BL	SPC-0392BL
		レッド	SPC-0355R	SPC-0392R
色（反応染料インク）		ブラック	SPC-0357K	SPC-0393K
		シアン	SPC-0357C	SPC-0393C
		マゼンタ	SPC-0357M	SPC-0393M
		イエロー	SPC-0357Y	SPC-0393Y
		ライトシアン	SPC-0357LC	SPC-0393LC
		ライトマゼンタ	SPC-0357LM	SPC-0393LM
		グレー	SPC-0357GR	SPC-0393GR
		ブルー	SPC-0357BL	SPC-0393BL
		オレンジ	SPC-0357OR	SPC-0393OR
		レッド	SPC-0357R	SPC-0393R
		ゴールデンイエロー	SPC-0357GY	SPC-0393GY
色（分散染料インク）		ブラック	SPC-0356K	
		シアン	SPC-0356C	
		マゼンタ	SPC-0356M	
		イエロー	SPC-0356Y	
		ライトシアン	SPC-0356LC	
		ライトマゼンタ	SPC-0356LM	
		グレー	SPC-0356GR	
		ブルー	SPC-0356BL	
		ライトブルー	SPC-0356LBL	
色（捺染顔料インク）		ブラック	SPC-0350K	
		シアン	SPC-0350C	
		マゼンタ	SPC-0350M	
		イエロー	SPC-0350Y	
インク容量		1000ccまたは220ccカートリッジ		
有効期間		カートリッジ記載		
		開封から６カ月以内、又はカートリッジ記載の有効期間内		
保存温度	保存時	-30℃～40℃（40℃の場合１カ月以内）		
	輸送時	-30℃～60℃（60℃の場合120時間以内、40℃の場合１カ月以内)		

注意

★ インクは、-4℃以下の環境で長時間放置すると凍結します。凍結しない温度で低温保存してください。万一、凍結した場合は、室温（25℃）で３時間以上かけて解凍してから使用してください。

★ インクを詰め替えないでください。

別売品のご紹介

名称		型番	数量 / 容量	内容
ベンコット		BEMCOT　M-3		100 枚入り
綿棒		綿棒 6”木軸 S	10 本入り	
酸性染料インク		SPC-0392*	1 リットル	スパウトホルダー付
		SPC-0355*	220cc	
反応染料インク		SPC-0393*	1 リットル	スパウトホルダー付
		SPC-0357*	220cc	
分散染料インク		SPC-0356*	220cc	
捺染顔料インク		SPC-0350*	220cc	
ベルトワイパユニット		SPC-0412	1 セット	
吸水ローラー		SPC-0413	6ヶ入り	
チェックメディア		SPC-0383	100m 巻	ANR ユニット用
クリーニングワイパ		SPA-0105	4ヶ入り	
洗浄液ボトルキット		SPC-0137	1 セット	日常メインテナンス用
ヘッド洗浄液カートリッジ		SPC-0259	220cc	カートリッジ
フラッシングボックス		SPC-0390	1 個	
ブロワフィルタ		SPC-0391	1 個	フラッシングミストブロワフィルタ
ミストフィルタ		SPC-0419	4 枚入り	ミストフィルタ
メンテナンスオイル		SPC-0364	100cc	Y メインガイド用
地張り剤		SPC-0397	1 リットル	ポリックスレジン SX
		SPC-0398	4 リットル	ポリックスレジン SX
		SPC-0399	18 リットル	ポリックスレジン SX
オプション	間紙ロールホルダキット	OPT-J0079	一式	間紙供給用ロールホルダ （近日発売）
	布幅ガイドキット	OPT-J0080	一式	～ #C8405085 までの号機 に OPT-J0079 取付用 （近日発売）
	メタルドクタ	ーーーーー	一式	（近日発売）

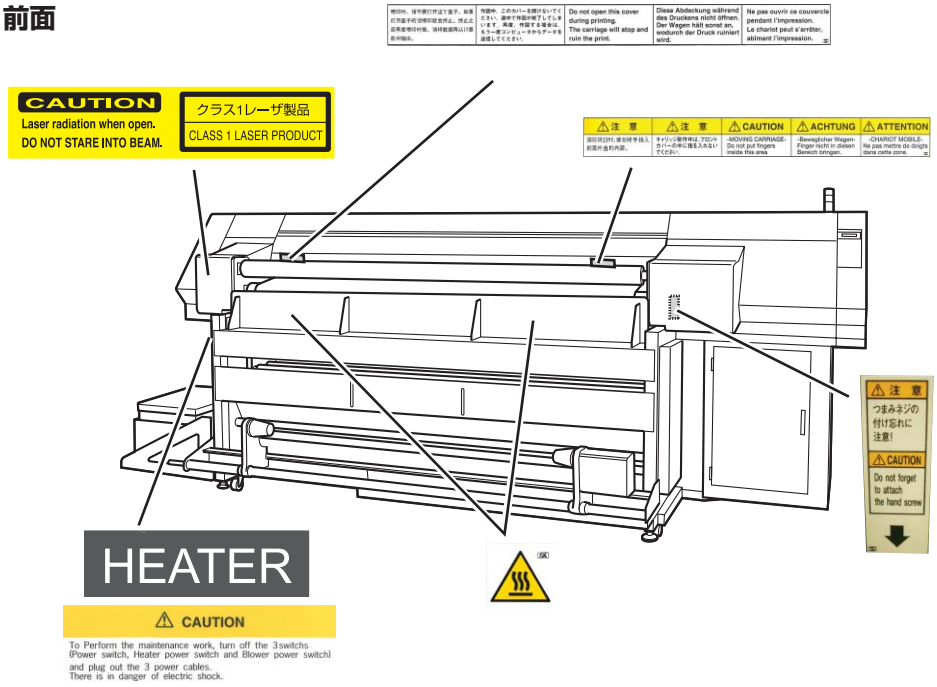
（*= 色）

付録

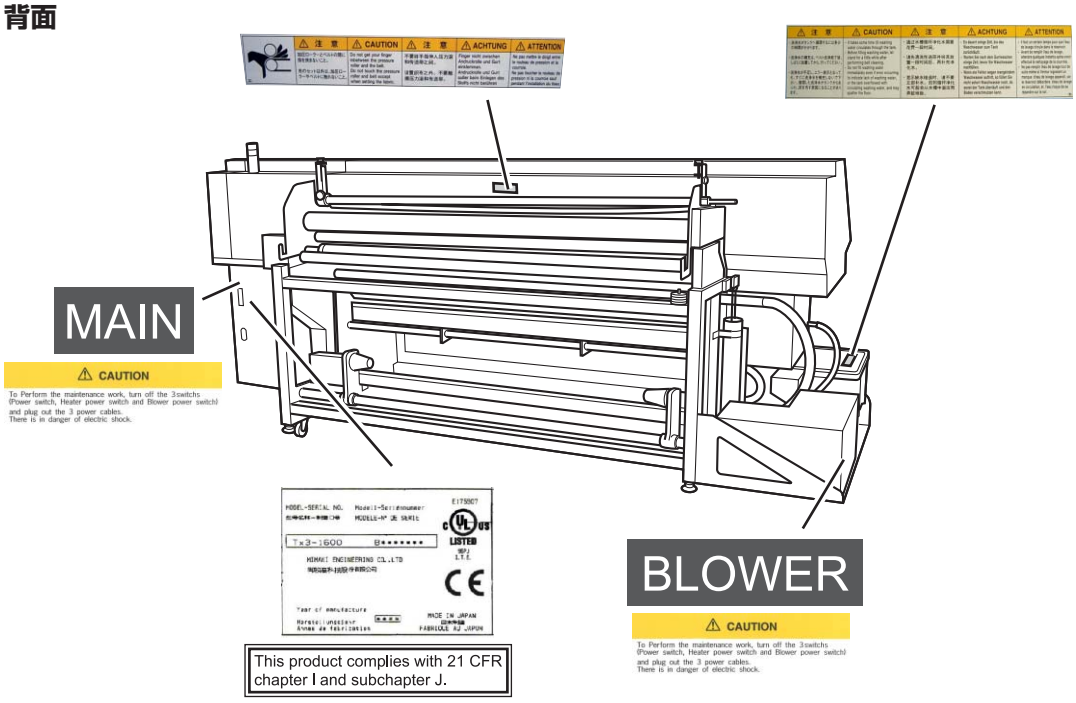
警告ラベルについて

本装置には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。
なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。

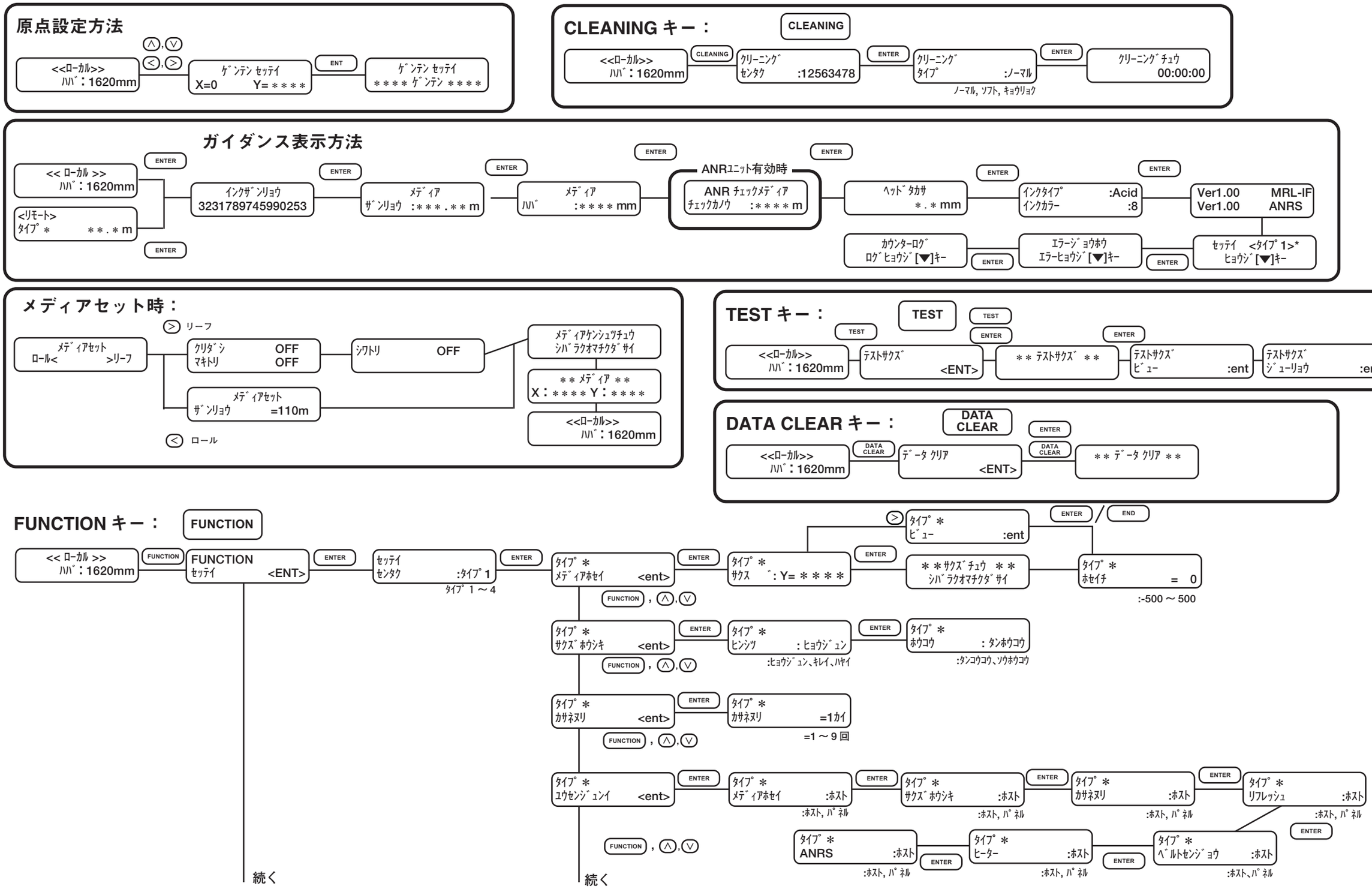
前面



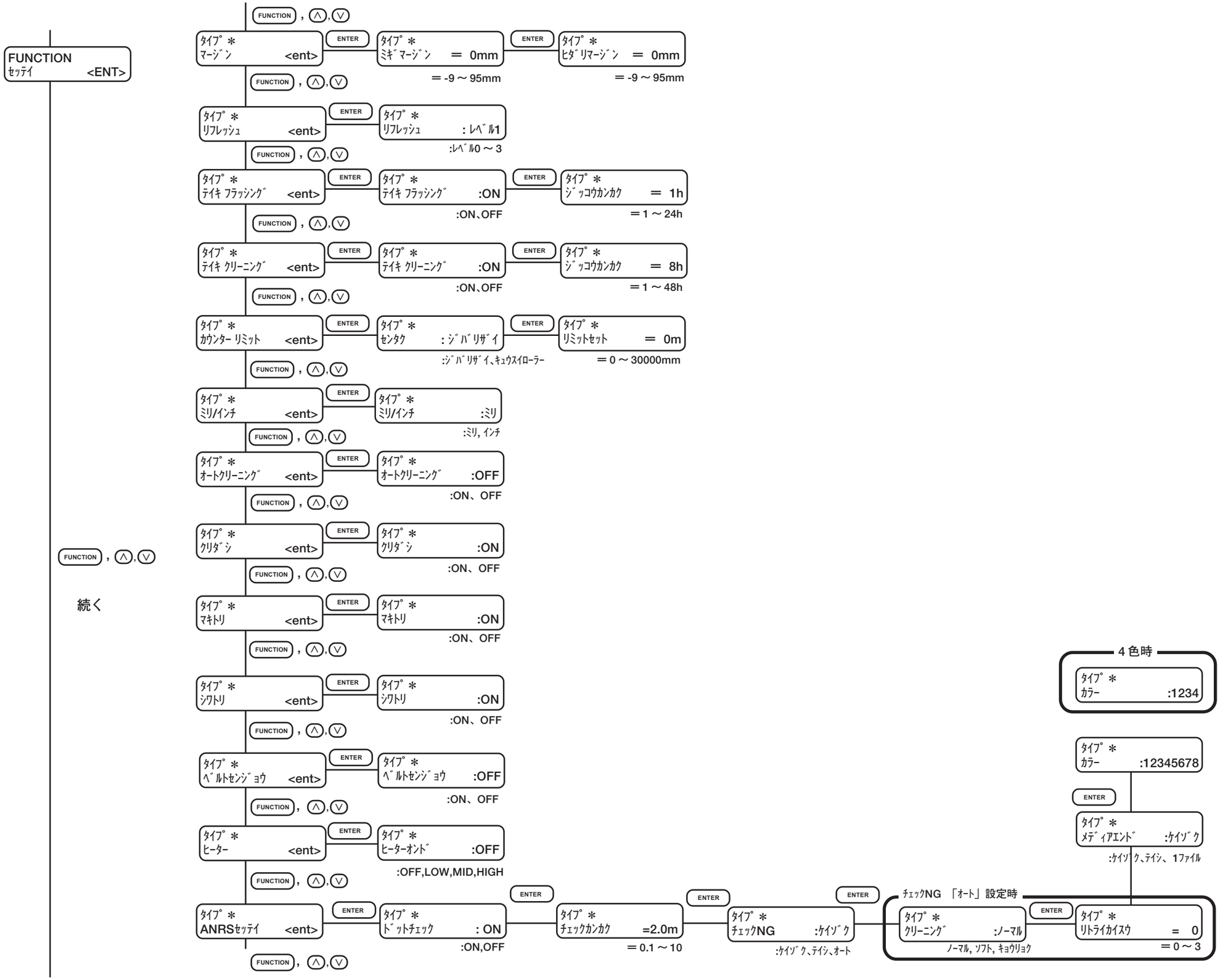
背面



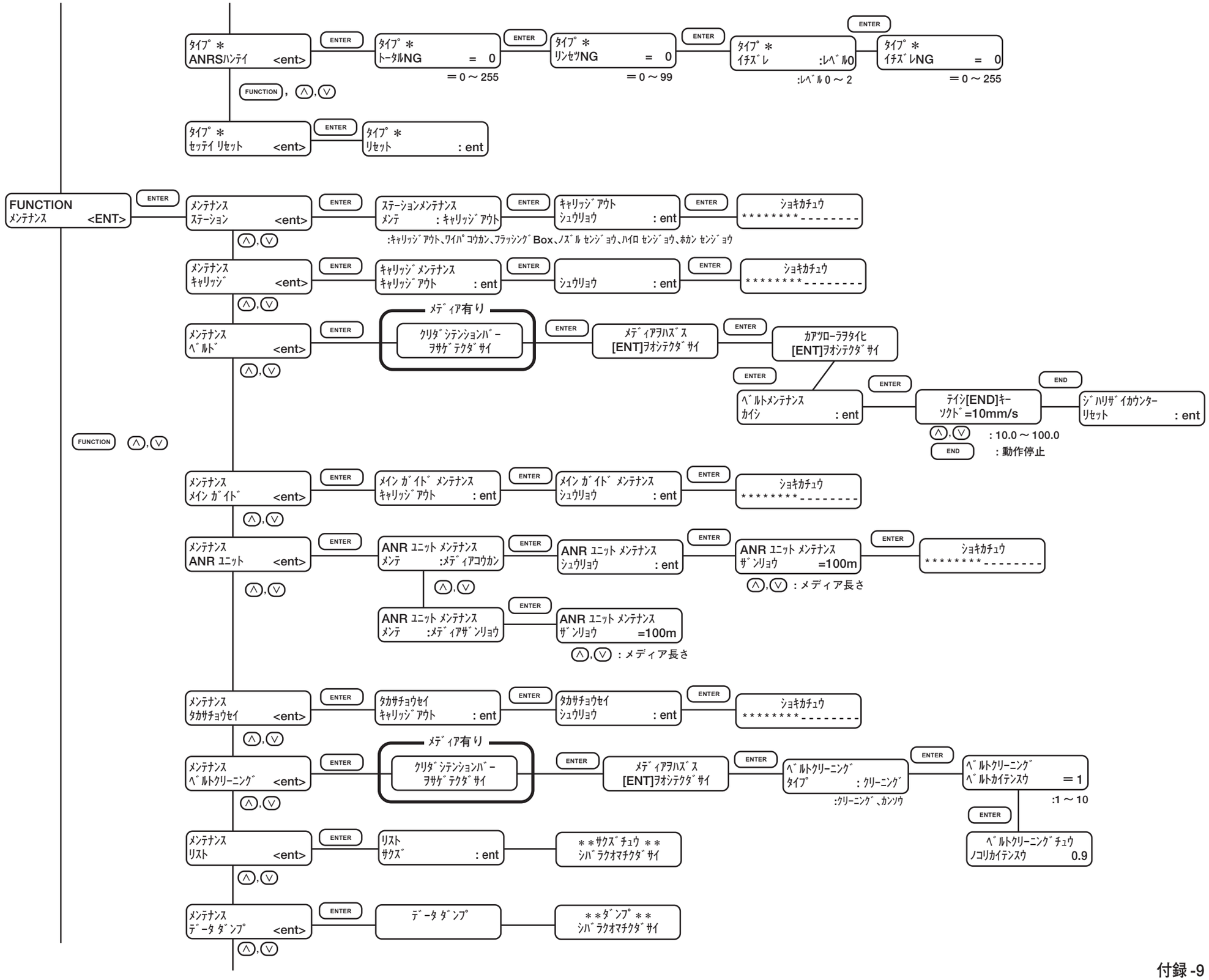
機能フローチャート


原点設定方法
<<ローカル>>
ﾊﾊﾞ：1620mm
ｹﾞﾝﾃﾝ ｾｯﾃｲ
X=0 Y=＊＊＊＊
ENT
ｹﾞﾝﾃﾝ ｾｯﾃｲ
＊＊＊＊ ｹﾞﾝﾃﾝ ＊＊＊＊
CLEANING キー：
CLEANING
<<ローカル>>
ﾊﾊﾞ：1620mm
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
ｾﾝﾀｸ :12563478
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ
ﾀｲﾌﾟ :ﾉｰﾏﾙ
ﾉｰﾏﾙ, ｿﾌﾄ, ｷｮｳﾘｮｸ
ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ ﾁｭｳ
00:00:00
ガイダンス表示方法
<< ローカル >>
ﾊﾊﾞ：1620mm
<ﾘﾓｰﾄ>
ﾀｲﾌﾟ＊ ＊＊.＊m
ｲﾝｸｻﾞﾝﾘｮｳ
3231789745990253
ﾒﾃﾞｨｱ
ｻﾞﾝﾘｮｳ :＊＊＊.＊＊m
ﾒﾃﾞｨｱ
ﾊﾊﾞ :＊＊＊＊mm
ANRﾕﾆｯﾄ有効時
ANR ﾁｪｯｸﾒﾃﾞｨｱ
ﾁｪｯｸｶﾉｳ :＊＊＊＊m
ﾍｯﾄﾞﾀｶｻ
＊.＊mm
ｲﾝｸﾀｲﾌﾟ :Acid
ｲﾝｸｶﾗｰ :8
Ver1.00 MRL-IF
Ver1.00 ANRS
ｾｯﾃｲ <ﾀｲﾌﾟ1>*
ﾋｮｳｼﾞ[▼]ｷｰ
ｴﾗｰｼﾞｮｳﾎｳ
ｴﾗｰﾋｮｳｼﾞ[▼]ｷｰ
ｶｳﾝﾀｰﾛｸﾞ
ﾛｸﾞﾋｮｳｼﾞ[▼]ｷｰ
ENTER
メディアセット時：
リーフ
ﾒﾃﾞｨｱｾｯﾄ
ﾛｰﾙ< >ﾘｰﾌ
ｸﾘﾀﾞｼ OFF
ﾏｷﾄﾘ OFF
ｼﾜﾄﾘ OFF
ﾒﾃﾞｨｱｹﾝｼｭﾂﾁｭｳ
ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ
＊＊ ﾒﾃﾞｨｱ ＊＊
X：＊＊＊＊ Y：＊＊＊＊
<<ﾛｰｶﾙ>>
ﾊﾊﾞ：1620mm
ﾒﾃﾞｨｱｾｯﾄ
ｻﾞﾝﾘｮｳ =110m
ﾛｰﾙ
TEST キー：
TEST
<<ﾛｰｶﾙ>>
ﾊﾊﾞ：1620mm
ﾃｽﾄｻｸｽﾞ
<ENT>
＊＊ ﾃｽﾄｻｸｽﾞ ＊＊
ﾃｽﾄｻｸｽﾞ
ﾋﾞｭｰ :ent
ﾃｽﾄｻｸｽﾞ
ｼﾞｭｰﾘｮｳ :ent
DATA CLEAR キー：
DATA CLEAR
<<ﾛｰｶﾙ>>
ﾊﾊﾞ：1620mm
ﾃﾞｰﾀ ｸﾘｱ
<ENT>
＊＊ ﾃﾞｰﾀ ｸﾘｱ ＊＊
FUNCTION キー：
FUNCTION
<< ローカル >>
ﾊﾊﾞ：1620mm
FUNCTION
ｾｯﾃｲ <ENT>
ｾｯﾃｲ
ｾﾝﾀｸ :ﾀｲﾌﾟ1
ﾀｲﾌﾟ1～4
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ <ent>
ﾀｲﾌﾟ＊
ｻｸｽﾞ :Y=＊＊＊＊
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾋﾞｭｰ :ent
＊＊ｻｸｽﾞﾁｭｳ ＊＊
ｼﾊﾞﾗｸｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾎｾｲﾁ = 0
:-500～500
ﾀｲﾌﾟ＊
ｻｸｽﾞﾎｳｼｷ <ent>
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾋﾝｼﾂ :ﾋｮｳｼﾞｭﾝ
:ﾋｮｳｼﾞｭﾝ、ｷﾚｲ、ﾊｲｲ
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾎｳｺｳ :ﾀﾝﾎｳｺｳ
:ﾀﾝｺｳｺｳ、ｿｳﾎｳｺｳ
ﾀｲﾌﾟ＊
ｶｻﾈﾇﾘ <ent>
ﾀｲﾌﾟ＊
ｶｻﾈﾇﾘ =1ｶｲ
=1～9回
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾕｳｾﾝｼﾞｭﾝｲ <ent>
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ｻｸｽﾞﾎｳｼｷ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ｶｻﾈﾇﾘ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾘﾌﾚｯｼｭ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ANRS :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾋｰﾀｰ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ, ﾊﾟﾈﾙ
ﾀｲﾌﾟ＊
ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ :ﾎｽﾄ
:ﾎｽﾄ、ﾊﾟﾈﾙ
続く
続く

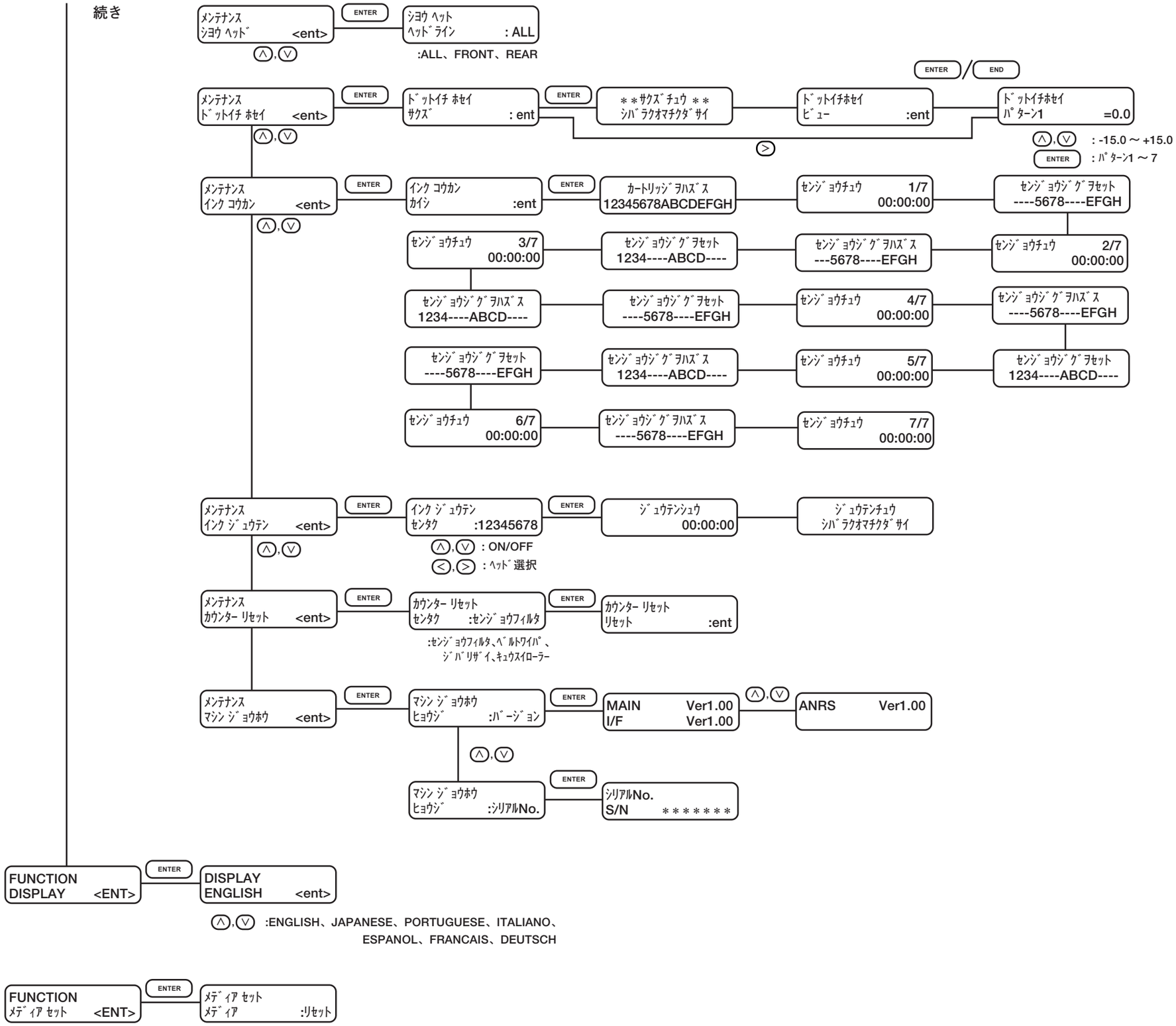
FUNCTION キー：


FUNCTION
ｾｯﾃｲ <ENT>
FUNCTION , ∧,∨
ENTER
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾏｰｼﾞﾝ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾐｷﾞﾏｰｼﾞﾝ ＝ 0mm
＝-9 ～ 95mm
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾋﾀﾞﾘﾏｰｼﾞﾝ ＝ 0mm
＝-9 ～ 95mm
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾘﾌﾚｯｼｭ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾘﾌﾚｯｼｭ : ﾚﾍﾞﾙ1
:ﾚﾍﾞﾙ0 ～ 3
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾃｲｷ ﾌﾗｯｼﾝｸﾞ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾃｲｷ ﾌﾗｯｼﾝｸﾞ :ON
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｼﾞｯｺｳｶﾝｶｸ ＝ 1h
＝1 ～ 24h
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾃｲｷ ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾃｲｷ ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ :ON
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｼﾞｯｺｳｶﾝｶｸ ＝ 8h
＝1 ～ 48h
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｶｳﾝﾀｰ ﾘﾐｯﾄ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｾﾝﾀｸ : ｼﾞﾊﾞﾘｻﾞｲ
:ｼﾞﾊﾞﾘｻﾞｲ、ｷｭｳｽｲﾛｰﾗｰ
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾘﾐｯﾄｾｯﾄ ＝ 0m
＝0 ～ 30000mm
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾐﾘ/ｲﾝﾁ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾐﾘ/ｲﾝﾁ :ﾐﾘ
:ﾐﾘ, ｲﾝﾁ
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｵｰﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｵｰﾄｸﾘｰﾆﾝｸﾞ :OFF
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｸﾘﾀﾞｼ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｸﾘﾀﾞｼ :ON
:ON、OFF
続く
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾏｷﾄﾘ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾏｷﾄﾘ :ON
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｼﾜﾄﾘ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｼﾜﾄﾘ :ON
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾍﾞﾙﾄｾﾝｼﾞｮｳ :OFF
:ON、OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾋｰﾀｰ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾋｰﾀｰｵﾝﾄﾞ :OFF
:OFF,LOW,MID,HIGH
ﾀｲﾌﾟ ＊ ANRSｾｯﾃｲ <ent>
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾄﾞｯﾄﾁｪｯｸ : ON
:ON,OFF
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾁｪｯｸｶﾝｶｸ =2.0m
＝0.1 ～ 10
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾁｪｯｸNG :ｹｲｿﾞｸ
:ｹｲｿﾞｸ、ﾃｲｼ、ｵｰﾄ
ﾁｪｯｸNG 「ｵｰﾄ」設定時
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ :ﾉｰﾏﾙ
ﾉｰﾏﾙ, ｿﾌﾄ, ｷｮｳﾘｮｸ
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾘﾄﾗｲｶｲｽｳ ＝ 0
＝0 ～ 3
ﾀｲﾌﾟ ＊ ﾒﾃﾞｨｱｴﾝﾄﾞ :ｹｲｿﾞｸ
:ｹｲｿﾞｸ、ﾃｲｼ、1ﾌｧｲﾙ
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｶﾗｰ :12345678
4 色時
ﾀｲﾌﾟ ＊ ｶﾗｰ :1234

続き


FUNCTION
メンテナンス <ENT>
ENTER
タイプ ＊
ANRSハンテイ <ent>
タイプ ＊
トータルNG = 0
＝0 ～ 255
タイプ ＊
リンセツNG = 0
＝0 ～ 99
タイプ ＊
イチズレ :レベル0
:レベル 0 ～ 2
タイプ ＊
イチズレNG = 0
＝0 ～ 255
FUNCTION , ∧,∨
タイプ ＊
セッテイ リセット <ent>
タイプ ＊
リセット : ent
メンテナンス
ステーション <ent>
ステーションメンテナンス
メンテ : キャリッジ アウト
キャリッジ アウト
シュウリョウ : ent
ショキカチュウ
********--------
:キャリッジ アウト、ワイパ コウカン、フラッシング Box、ノズル センジョウ、ハイロ センジョウ、ホカン センジョウ
メンテナンス
キャリッジ <ent>
キャリッジ メンテナンス
キャリッジ アウト : ent
シュウリョウ : ent
ショキカチュウ
********--------
メンテナンス
ベルト <ent>
メディア有り
クリタ シテンションバー
ヲサゲ テクダ サイ
メディアヲハズス
[ENT]ヲオシテクダ サイ
カアツローラヲタイヒ
[ENT]ヲオシテクダ サイ
ベルトメンテナンス
カイシ : ent
テイシ[END]キー
ソクド =10mm/s
シハリザ イカウンター
リセット : ent
∧,∨ : 10.0 ～ 100.0
END : 動作停止
FUNCTION ∧,∨
メンテナンス
メイン ガイド <ent>
メイン ガイド メンテナンス
キャリッジ アウト : ent
メイン ガイド メンテナンス
シュウリョウ : ent
ショキカチュウ
********--------
メンテナンス
ANR ユニット <ent>
ANR ユニット メンテナンス
メンテ :メディアコウカン
ANR ユニット メンテナンス
シュウリョウ : ent
ANR ユニット メンテナンス
ザンリョウ =100m
ショキカチュウ
********--------
∧,∨ : メディア長さ
ANR ユニット メンテナンス
メンテ :メディアザンリョウ
ANR ユニット メンテナンス
ザンリョウ =100m
∧,∨ : メディア長さ
メンテナンス
タカサチョウセイ <ent>
タカサチョウセイ
キャリッジ アウト : ent
タカサチョウセイ
シュウリョウ : ent
ショキカチュウ
********--------
メンテナンス
ベルトクリーニング <ent>
メディア有り
クリタ シテンションバー
ヲサゲ テクダ サイ
メディアヲハズス
[ENT]ヲオシテクダ サイ
ベルトクリーニング
タイプ : クリーニング
:クリーニング、カンソウ
ベルトクリーニング
ベルトカイテンスウ = 1
:1 ～ 10
ベルトクリーニング チュウ
ノコリカイテンスウ 0.9
メンテナンス
リスト <ent>
リスト
サクズ : ent
＊＊サクズ チュウ ＊＊
シバラクオマチクダ サイ
メンテナンス
データ ダンプ <ent>
データ ダンプ
＊＊ダンプ ＊＊
シバラクオマチクダ サイ

続き


メンテナンス
ショウ ヘッド <ent>
ENTER
ショウ ヘット
ヘッド ライン : ALL
:ALL、FRONT、REAR
メンテナンス
ドットイチ ホセイ <ent>
ドットイチ ホセイ
サクズ : ent
＊＊サクズ チュウ ＊＊
シバラクオマチクダサイ
ドットイチホセイ
ビュー :ent
ENTER / END
ドットイチホセイ
パターン1 =0.0
: -15.0 ～ +15.0
: パターン1 ～ 7
メンテナンス
インク コウカン <ent>
インク コウカン
カイシ :ent
カートリッジ ヲハズス
12345678ABCDEFGH
センジョウチュウ 1/7
00:00:00
センジョウジグヲセット
----5678----EFGH
センジョウチュウ 2/7
00:00:00
センジョウジグヲハズス
---5678----EFGH
センジョウジグヲセット
1234----ABCD----
センジョウチュウ 3/7
00:00:00
センジョウジグヲハズス
1234----ABCD----
センジョウジグヲセット
----5678----EFGH
センジョウチュウ 4/7
00:00:00
センジョウジグヲハズス
----5678----EFGH
センジョウジグヲセット
1234----ABCD----
センジョウチュウ 5/7
00:00:00
センジョウジグヲハズス
1234----ABCD----
センジョウジグヲセット
----5678----EFGH
センジョウチュウ 6/7
00:00:00
センジョウジグヲハズス
----5678----EFGH
センジョウチュウ 7/7
00:00:00
メンテナンス
インク ジュウテン <ent>
インク ジュウテン
センタク :12345678
: ON/OFF
: ヘッド選択
ジュウテンシュウ
00:00:00
ジュウテンチュウ
シバラクオマチクダサイ
メンテナンス
カウンター リセット <ent>
カウンター リセット
センタク :センジョウフィルタ
:センジョウフィルタ、ベルトワイパ、
ジバリザイ、キュウスイローラー
カウンター リセット
リセット :ent
メンテナンス
マシン ジョウホウ <ent>
マシン ジョウホウ
ヒョウジ :バージョン
MAIN Ver1.00
I/F Ver1.00
ANRS Ver1.00
マシン ジョウホウ
ヒョウジ :シリアルNo.
シリアルNo.
S/N ＊＊＊＊＊＊＊
FUNCTION
DISPLAY <ENT>
DISPLAY
ENGLISH <ent>
:ENGLISH、JAPANESE、PORTUGUESE、ITALIANO、
ESPANOL、FRANCAIS、DEUTSCH
FUNCTION
メディア セット <ENT>
メディア セット
メディア :リセット

索引

記号

220cc カートリッジ 1-25

A

Acid 1-27
ALL 5-16
ANR ユニット . iv, 1-10, 1-14, 3-30, 4-24
- を使用する 4-21
ANRS チェックメディア 1-5, 1-14
- の交換 3-30, 3-33

B

BOOT 1-20, 2-3

C

CD-ROM 1-21
CLEANING 1-15

D

DATA CLEAR 1-15

E

END 1-15
ENTER 1-15

F

FRONT 5-16
FUNCTION 1-15

H

HEX コード 5-15

I

IC チップ 1-27
IEEE1394
- 出力ドライバをインストールする 1-21

P

POWER ランプ 1-15

R

Reac 1-27
REAR 5-16
REMOTE 1-15

T

TEST 1-15
TxLink & 1394 出力ドライバ 1-5
TxLink V3 1-21

V

VCCI ii

Y

Y メインガイド 1-12
- のクリーニング 3-29

ア

安全にお使いいただくために vi

イ

異常事態 vii
位置ズレ 4-25
糸
- の番種 2-48
色が変わる 6-4
インク
- 残量 2-55
- が色ごとに重ならない 6-4
- 残量が少なくなったら 2-55
- 種類の交換 5-18
- 仕様 ..... 付録 -4
- タイプの表示について 1-28
- 吐出状態の確認 2-43, 2-45
- の種類について 1-27
- の初期充填をする 1-29, 1-30
- の浸透が悪い場合は 4-7

- ヘッドの詰まりを無くす 4-11
- 落下点 2-39
各種類の特長 1-27
酸性染料インク 1-27
取り扱い上のご注意 1-28, 1-28
- の乾きが遅い 4-20
インクカートリッジ
-220cc 対応 1-25, 1-26
- について 1-25
- の IC チップについて 1-27
- の取り扱い viii
- を装填する 1-31
インクキャップ 1-10
インク充填 5-17
インクステーション 1-6
インクタイプ 1-28
インクの裏抜け 2-52
インクパック 1-29
印刷方向 4-5
インターフェースケーブル
- を接続する 1-18

ウ

ウェイト 1-7, 2-27
内巻き 2-7

エ

エタノール 5-4
エラーメッセージ 6-11

オ

オートクリーニング 4-15
往復印字でズレが発生する 6-4
応用機能
- について 4-2
送り量を補正
- 作図中 2-48
- メディアの種類による 2-46
お手入れ 3-2
- 上のご注意 3-2
- に関する操作 5-2
外装の - 3-2
スライダ下面の付着インクの洗浄 3-2
長期間使用しない場合は 3-2
折り返しバー 2-8

カ

カートリッジアダプタ 1-29
加圧ローラ 1-7, 1-12, 2-10
- 位置の調整 2-26
- 加圧段階 2-26
改造 vii
解像度
- の拡張 4-5
カウンター 5-22
- 初期化 5-22
カウンターリミット 4-12
重ね塗り 4-7
カスレ 2-43, 2-45
画像データ
- を作図する 2-50
カバー 1-6
- ステーションカバー R,L 1-6, 2-4
- の開閉について 2-4, 3-12
- 正面 1-6, 2-4
カバーチェーン 3-12
ガミング処理部 2-28
空紙管 1-4, 2-17
- の取り付け 2-17

キ

キー
- の表記 xviii
基本仕様 ..... 付録 -2
キャッピングステーション 1-10
キャリッジ 1-11
- 下面のクリーニング 3-24
キャリッジアウト 3-15
吸水ローラー1-8, 2-52, 2-56, 4-12, 3-6, 3-7, 5-22

ク

クリーニング
- 洗浄水タンク 3-3

クリーニング
- フラッシングボックス 3-25
- ブロワフィルター 3-27
-Yメインガイド 3-29
- 機能 2-45
- キャリッジ下面 3-24
- 吸水ローラー 3-7
- 洗浄水フィルター 3-4
- ワイパ 3-12
- ワイパ軸 3-15
- を実行する 2-45, 4-24
- 搬送ベルト 3-34, 3-35
繰り出し装置 1-7, 2-7, 2-24
- を有効にする 4-16
黒スジ 6-4

ケ

ケーブル
- を接続する 1-18
毛足の長い布 4-7
警告 ..... vii, viii
警告ラベルについて ..... 付録 -6

コ

高スピード 4-5
高品質 4-5
故障？と思う前に 6-2
ご注意 i
コマ入替え調整 2-30
ゴム 3-14
梱包
- 総重量 vii

サ

サービスコール 6-4
作図
- が終了したら 2-51
- 原点 2-42
- できない 6-2
- 点 2-37, 2-38
- の往路と復路 2-39
- 不良 2-45
- を開始する 2-50
- を中止する 2-51
- 中に送り量を補正 2-48
- 品質 4-5
  - キレイ 4-5
  - はやい 4-5
作図原点
- の設定 2-42
- を設定する 2-42
作図条件
- を登録する 4-4
作図範囲
- を指定する 2-41
作図不良
がでたとき 6-4, 6-5
作図方式
- を設定する 4-5
酸性染料インク ..... iv, 1-29, 付録 -4

シ

紙管サポートパイプ 1-4, 2-34
自動クリーニング 4-15
地張り剤 1-4, 1-12, 5-4, 5-22
- の塗り替え 4-12, 5-4
- を塗る 5-9
- を剥がす 5-4
受信障害 ii
循環式 2-52, 3-3
使用可能な布 1-32
使用上のご注意 xi
使用するヘッド 5-16
情報を表示する 1-23
消耗品の交換 3-11
初期動作 1-20
ジョグキー 1-15
- のはたらき 1-16
ジョグモード 1-16
除電ブラシ 1-8, 2-8
白スジ 6-4
シワ、たるみ 6-4
シワ取りローラ 1-7, 2-30

- を使用する 4-18
- コマ入れ替え 2-30
浸透性 4-7

ス

水道直結式 2-52
ステーション
- 内部のクリーニング .. 3-11, 3-13, 3-14, 3-19, 3-21, 3-22, 3-23, 3-28
ストッパー 2-7
- 繰り出しテンションバー用 1-8, 2-7
- 巻き取りテンションバー用 1-6, 2-15
ズレを判定 4-24

セ

設置
- 上のご注意 xi
- 場所について 1-2
接着力 5-4
設定
- 項目 1-17
- 状態を作図する 5-14
- の優先順位 4-8
設定をリセット 4-27
- タイプごと 4-27
- 工場出荷時の設定値 4-27
セッティング 2-52
洗浄液カートリッジ 5-18
洗浄液タンクユニット 1-8
- フィルター 3-4, 3-5, 5-22
- 水交換 3-3

ソ

操作
- について 1-15
- パネル 1-6, 1-15
- キー xviii
双方向 4-5
外巻き 2-7

タ

退避位置 2-29
- 加圧ローラ 2-26
- 湾曲バー 2-29
タイプ 4-4
- の選択 4-4
- の変更 4-4
ﾀｶｻﾁｮｳｾｲ 2-35
タルミを取る 2-28
単位 4-14
単方向 4-5

テ

データ
- コマンド 5-15
- ダンプ 5-15
ディスプレイ ..... xviii, 1-15
- 表記 xviii
テスト作図
- パターン 2-44
- パターンの確認をする 2-44
- を実行する 2-43
テストパターン 2-40
- のカスレ 2-43, 2-45
- の抜け 2-43, 2-45
デッドスペース 2-41
- の設定 4-10
- の変更 2-41
- 左マージン 4-10
- 右マージン 4-10, 4-12, 4-13
電圧 vii
電源 vii
- のオフ 1-21, 2-56
- が入らない 6-2
- のオン 1-20, 2-3
- をオン／オフする 1-20, 1-21, 2-3
電源ケーブル ..... vii, 1-4
テンションバー 2-7

- ウェイト 1-4
- 巻き取り 1-6
- 繰り出し 1-7, 2-7
- ウェイト調整 2-27
電波障害自主規制 ii

ト

導布 2-41
- を使用する 2-33
灯油 5-4
ドクタ 1-5, 5-4
トグル切り替え iv
ドット位置補正 2-39
ドライバをインストールする 1-21
トラブル 6-6
取扱説明書 1-5
- について iii

ニ

日本語表示方法 1-22

ヌ

布 1-32
- がスキューする 6-3
- が汚れる 6-3
- にしわが発生する 6-3
- に点々とシミが出てきた 3-6
- の接着力が弱い 5-4
- をセットする 2-5
- をセットする前に 2-35
新しい - をセットする 2-23
布押さえ ..... v, 1-13
- を使用する 2-25
布サイズ 1-32
布セット
- 板 1-4, 2-16
- バー 1-4, 2-15
布端ガイド 2-14
布ヤスリ 1-5, 2-54

ノ

ノズルチェック 4-24
ノズル面 3-24

ハ

廃インクタンク 1-4, 1-6, 3-9
排水バルブ 1-8
廃洗浄水 3-3
はじめに iii
パターン 2-40
- の補正値 2-40, 2-40
バックフィード 1-16
パネル 4-8
搬送ベルト 1-6, 1-12, 2-11, 3-34, 3-35
ハンドポンプ 1-4, 3-3
反応染料インクiv, 1-25, 1-26, 1-27, 1-29, 付録 -4

ヒ

ヒーター ..... v, 1-6, 2-17
- カバー 1-6
- 温度調整 4-20
- 表面温度 4-20
ヒキハガシエラー 2-33
引き剥がしがうまくいかない 2-54
引き剥がしセンサー 1-6
引き剥がしセンサーアンプ 1-10
引き剥がしローラ 1-6, 2-33
- 光軸ライン 2-33
表示言語
- を設定する 4-3
表示単位 4-12, 4-14
表示灯 1-6

フ

ファームウェア 1-20
- バージョン 5-23
ファンクションメニュー 4-2, 5-2
ファンクションモード 1-16
付属品 1-4
- の確認 1-4
縁無しプリントをする 2-25
ブラシローラ 1-8
フラッシングボックス 1-10, 3-25
- フィルター 3-26

ブロワフィルター 3-27
ブロワユニット 1-9, 3-27
分解 vii

ヘ

ヘッド
- 高さ調整棒 1-11
- の高さを調整する 2-35
  - ポイント 2-38

ヘッドギャップ 2-37, 2-38
別売品のご紹介 ..... 付録 -5
ベルトエンコーダローラ 1-6, 5-9
ベルト洗浄 2-52
- 動作を有効にする 4-19
- 作図しながら 3-6

ベルトワイパーユニット1-8, 2-56, 3-6, 5-22
- の交換 3-6

ベルトワイパユニット 2-52
ベンコット 1-4

ホ

保証規定 i
- VCCI ii
- 受信障害 ii
- 電波障害自主規制 ii

ホスト 4-8
本書
- の構成 xix
- の読み方について xvii

本装置
- のご紹介 iv
- の特長 iv

本装置の移動 1-3
- レベルフット 1-3
- 移動方法 1-3

本体 1-4

マ

マーク表示
- について vi
- の例 vi

マージン 4-10
巻き取り装置 1-6, 2-18, 2-24
- を利用する 4-17

マキトリリミット 2-16

ミ

ミストファンフィルター 3-10
ミストフィルター 1-7
[ﾐﾘ/ｲﾝﾁ] 4-14

メ

メッセージ 6-6
[ﾒﾃﾞｨｱﾎｾｲ] 2-46
メニュー 1-16
- ツリー 1-17
- モード 1-16
- モードの確認をする 5-3

目安時期を設定 4-12
メンテナンス 5-2
- について 5-2
- の前に 5-3

メンテナンスオイル 1-5, 3-29
綿棒 1-5, 3-24

モ

モード 1-16

ユ

有機溶剤用保護マスク 5-4, 5-9
有効作図エリア 2-41
優先順位 4-8

ヨ

用紙送り方向 2-41

リ

リーフ 1-32, 2-5, 2-21
リスト 5-14
リフレッシュ
- レベル 4-11

リモートモード 1-16

レ

レーザセンサ viii
レベルフット 1-3

ロ

ローカルモード 1-16
ロール ..... viii, 1-32, 2-5
- 残量 2-19
- の紙管 2-6
- ホルダのネジ 2-6
- をセットする 2-5
ロールホルダー 1-6, 2-5, 2-34
六角レンチ 1-4

ワ

ワーニングエラー 6-6
ワイパ 1-10
- 交換 3-17
- 交換の時期 3-11
- ゴム面 3-12
- 取り扱い上のご注意 3-12
- のクリーニング 3-12
- の使用回数 3-17
- フェルト面 3-12
ワイパ軸 3-15
- のクリーニング 3-15
湾曲バー 2-7, 2-28
- 角度調整 2-28
- を使用する 2-29

Tx3-1600 取扱説明書

2005 年 7 月
発　行　者　　株式会社ミマキエンジニアリング
発　行　所　　株式会社ミマキエンジニアリング
長野県東御市加沢 1333-3
〒 389-0514　Tel:0268-64-2413（代）

D201025-1.20-29072005

Printed in Japan
D201025
© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.
EA
TM